ISSN 2758-5131

アヌココロ アイヌ イコロマケンル

国立アイヌ民族博物館
年　報

2022（令和４）年度

NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

国立アイヌ民族博物館

年報　2022（令和４）年度

National Ainu Museum Annual Report 2022

国立アイヌ民族博物館

年報 2022（令和 4）年度
館長あいさつ

イランカラプテ

『国立アイヌ民族博物館年報 2022』を刊行します。

アヌココロ アイヌ イコロマケンル、国立アイヌ民族博物館は 2020（令和 2）年 4 月に、ウアイヌコロコタン、民族共生象徴空間（愛称ウポポイ）の中核施設の 1 つとして、文化庁が公益財団法人アイヌ民族文化財団に運営を委託するという形で発足し、ウポポイの他の施設とともに同年 7 月 12 日に一般公開を始めました。その設立理念に「この博物館は、先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する」とある通り、当館はアイヌの歴史・文化に関する正しい認識と理解を促進し、新しい文化の創造・発展に寄与する活動に特化した、我が国初の国立博物館です。

当年報にはこの博物館の 3 年目にあたる 2022（令和 4）年度の事業がすべて紹介されています。初年度の年報に続き、3 年目の年報もかなり遅れてしまいました。今後当該年度の終了とともに速やかに刊行できるよう、鋭意努力していく所存です。

2022 年は、2 年前に始まった新型コロナウイルス感染症の流行がようやく収束に向かい、入場制限の撤廃、予約制度の緩和（事実上入館予約不要）などが行われて、ウポポイ全体の来場者の大幅増につながりました。すなわち、前年の 2021（令和 3）年度の 190,618 人に対して、本年度は最終的に 369,038 人の来場者を迎えることができました。ただし、博物館展示室では一部の接触を伴う展示物や装置（「探究展示 テンパテンパ」とタッチパネル式の映像装置やディスプレイ）の利用制限は続けられました。

このような明るい兆しが見えてきた状況の中で当年度には展示、研究交流、資料収集、教育普及の各業務で活発な活動が展開されました。まず、展示では昨年同様に 2 回の特別展示と 2 回のテーマ展示を特別展示室で開催し、さらに 1 階のミュージアムショップ（イコロマケンル イホㇰ ウシ）の前の展示ケースで特別展示の開催に合わせて関連の展示を行いました。研究交流では、前年度に整備された研究プロジェクトはその制度を若干変更し、A を基幹研究（複数年度にわたり外部研究者の参加を得て行う規模の大きなプロジェクト）、B を個別研究（単年度単位で博物館内の研究者のみで行うプロジェクト）、C を成果発表支援（国内外の学会等での研究報告の支援）という形にしました。当年度は A が 8 件（継続 7 件、新規 1 件）、B が 1 件、C が 9 件実施されました。刊行物ではニュースレター『アヌアヌ』が 4 冊（8 ～ 11 号）が刊行され、当館の研究成果公開の柱である研究紀要 1 号がネット版、印刷版で刊行されました。ネットワーク事業（「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク（愛称プンカㇲ）」）では加盟機関等が 3 機関増えて 62 機関になり、アイヌ資料の取扱に関する研修会を初めて対面とオンライン併用で開催しました。

資料の収集・保存・整備では、78 件 129 点の資料を購入し、正式に登録されず収蔵庫外で保管されていた展示備品のうち 70 件を列品へ編入しました。また、他館の展示等へ 4 件 50 点の資料が貸し出されました。開館以来の懸案だった旧社台小学校からの資料の移転は昨年度完了し、今年度は旧アイヌ民族博物館の資料と 2015（平成 27）年度から 2020（令和 2）年度までの文化庁購入資料のデータベースシステムへの登録作業が行われました。その結果、資料登録 11,958 件（そのうち借用資料 104 件）、画像登録 7,839 件、音声登録 14 件となりました。

教育普及事業では、教育旅行で来館した児童生徒向け入門コース「はじめてのアイヌ博」について、168 校 172 回 11,784 名が受講しました。前年度作成した小学校用と中学校用の動画教材については、当年度に実験的な授業を開始しました。教員向けの研修会、「教員のための博物館の日 at 国立アイヌ民族博物館」は

当年度も対面とリモートの平行で実施し、対面参加 18 名、リモート参加 9 名の計 27 名の先生が受講されました。一般来館者向けの普及事業では、特別展示やテーマ展示に関連するイベントを中心とした「ホリデーイベント」を計 47 回実施し（工作型 4 件、講演型 16 件、対話型 4 件、ガイド型 23 件）、延べ 1783 名の方にご参加いただきました。また、基本展示室では「ギャラリートーク」として、感染症対策のために普段は使うことができない探究展示の各キットや「ことば」展示のタッチパネルの使い方を見せる「かわりにテンパテンパ」と「Touch itak」を実施し、通算 2,657 組 5,613 名の方にご参加いただきました。

運営では、アイヌ文化を担う方々やアイヌの歴史と文化を研究されている方々の意見を広く受け止め、それを中長期的な視野を持って博物館の運営に生かしていくために、2020 年度に設けました博物館運営会議では、2021 年度に設置された展示検討、研究推進、学術交流の 3 つのワーキング会議を当年度も引き続き開催して、それぞれの課題について助言、提言をいただきました。

このようにアヌココロ アイヌ イコロマケンル、国立アイヌ民族博物館は、開館 3 年目の 2022 年度にも様々な事業を実施しました。詳細はこの年報に収められていますので、是非ご覧下さい。今後とも皆様のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2024 年 10 月
アヌココロ アイヌ イコロマケンル サパネクル　エトゥナンカラ
国立アイヌ民族博物館館長　佐々木史郎

目　次

館長あいさつ……3

Ⅰ 概要……9
Ⅰ-01 理念・目的……9
Ⅰ-02 沿革……10
Ⅰ-03 館内におけるアイヌ語の表記･方言について……12
Ⅰ-04 博物館のロゴマークについて……15
Ⅰ-05 位置と周辺環境……17

Ⅱ 管理運営……19
Ⅱ-01 組織……19
Ⅱ-01-01 組織図
Ⅱ-01-02 人員構成
Ⅱ-01-03 専門グループ
Ⅱ-02 運営組織……24
Ⅱ-02-01 国立アイヌ民族博物館運営会議
Ⅱ-02-02 国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会
Ⅱ-02-03 その他の運営組織

Ⅲ 施設……31
Ⅲ-01 施設概要……31
Ⅲ-01-01 整備の基本方針
Ⅲ-01-02 施設概要
Ⅲ-02 建物の整備の基本方針と計画内容……32
Ⅲ-03 建物の平面図……35
Ⅲ-04 1階の施設……36
Ⅲ-04-01 1階来館者ゾーンの施設

アパ サム	エントランスロビー
イノカヌカラ トゥンプ	シアター
ウウェネウサラ トゥンプ	交流室
カンピソシ ヌカラ トゥンプ	ライブラリ
イコロマケンル イホク ウシ	ミュージアムショップ
チエトゥン スウォプ オマ トゥンプ	ロッカー室

イカオイキ トゥンプ　救護室
アシンル・セプ アシンル　トイレ・多目的トイレ
Ⅲ -04-02 1 階管理・運営ゾーンの施設
カンピヌイェ トゥンプ　調査研究室
ヤイパカシヌ トゥンプ　研修室
イコロ ウワンテ トゥンプ　分析調査室
CT トゥンプ　CT 室
イパカレ トゥンプ　燻蒸室
イノカ ウク トゥンプ　撮影室
Ⅲ -05 2 階の施設……48
Ⅲ -05-01 来館者ゾーンの施設
インカラ ウシ　パノラミックロビー
イコロ トゥンプ　基本展示室
イアシケウク　導入展示
アエキルシ　プラザ展示
イタク　私たちのことば
イノミ　私たちの世界
ウレシパ　私たちのくらし
ウパシクマ　私たちの歴史
ネプキ　私たちのしごと
ウコアプカシ　私たちの交流
イケレウシ「テンパテンパ」　探究展示 テンパテンパ
シサク イコロ トゥンプ　特別展示室
アシンル　トイレ
ニカラ、トゥシエリキンペ、シモイェニカラ　階段、エレベーター、エスカレーター
Ⅲ -05-02 管理・運営ゾーンの施設
イコロ プ　収蔵庫
イコロ プ セム　収蔵庫前室
イコロ プ　一般収蔵庫
シサク イコロ プ　特別収蔵庫
サパネクル トゥンプ　館長室
ウエカプ トゥンプ　応接室

Ⅳ 2022（令和 4）年度事業……71
Ⅳ -01 2022(令和 4)年度主要事項……71
Ⅳ -02 入館者数（月別）……74
Ⅳ -03 展示……75
Ⅳ -03-01 特別展示の企画立案・計画策定、開催
Ⅳ -03-02 交流展示及びテーマ展示の立案・計画策定、開催
Ⅳ -03-03 2023（令和 5）年度の特別展示及びテーマ展示の立案・計画策定、準備
Ⅳ -03-04 展示関連の解説書・図録等の企画及び編集、発行

Ⅳ -04 調査研究……87
Ⅳ -04-01 調査研究事業
Ⅳ -04-02 ネットワーク事業
Ⅳ -04-03 研究集会の企画・開催
Ⅳ -04-04 研究成果の社会発信
Ⅳ -04-05 レファレンス
Ⅳ -04-06 外部資金獲得のための体制整備
Ⅳ -04-07 国内外の博物館等が所蔵するアイヌ資料の調査の実施
Ⅳ -04-08 刊行物
Ⅳ -04-09 国際交流
Ⅳ -05 資料の収集、保管、活用……109
Ⅳ -05-01 アイヌ文化関係資料等の受入及び貸出
Ⅳ -05-02 博物館における列品等の整理及び整備
Ⅳ -05-03 収蔵品管理システムへのデータ登録、外部公開、保守管理
Ⅳ -05-04 資料の熟覧・画像利用
Ⅳ -05-05 分析機器運用
Ⅳ -05-06 資料収蔵環境整備（IPM、燻蒸を含む）
Ⅳ -05-07 博物館ライブラリの運営
Ⅳ -06 教育普及……116
Ⅳ -06-01 博物館における教育事業の企画立案及び実施
Ⅳ -06-02 アイヌの文化伝承に資する研修の企画立案及び実施
Ⅳ -06-03 学芸員を目指す学生に対する博物館実習の検討
Ⅳ -06-04 教育旅行等で来館する学校に対する教育プログラム
Ⅳ -06-05 学校教育と連携した取り組みの企画立案
Ⅳ -07 一般運営業務……127
Ⅳ -07-01 利用サービス
Ⅳ -07-02 広報企画
Ⅳ -07-03 事業予算

Ⅰ　概　要

Ⅰ -01 理念・目的

理　念

この博物館は、先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する。

（『「民族共生の象徴となる空間」における博物館の基本構想』2013 年 8 月より）

目　的

1. アイヌの歴史・文化・精神世界等に関する正しい知識を提供し、理解を促進する博物館
2. アイヌの歴史・文化に関する十分な知識を持つ次世代の博物館専門家を育成する博物館
3. アイヌの歴史・文化に関する調査と研究を行う博物館
4. アイヌの歴史・文化等を展示する博物館等をつなぐ情報ネットワーク拠点となる博物館

（『「民族共生の象徴となる空間」における博物館の基本構想』2013 年 8 月より）

Ⅰ-02 沿　革

1965年　白老町でポロトコタン営業開始
1967年　白老町立白老民俗資料館開業
1984年　北海道ウタリ協会総会で「アイヌ民族に関する法律（案）」が採択される
1984年　アイヌ民族博物館開業
1987年　第5回国連人権委員会人権保護小委員会先住民作業部会にアイヌ民族の代表が参加
1992年　国連総会で野村義一北海道ウタリ協会理事長が記念演説
1993年　国連総会が「世界の先住民族の国際年」を宣言（1995年～2004年を「世界の先住民の国際の10年」、2005年～2014年を「第2次世界の先住民の国際の10年」に指定）
1995年3月　ウタリ対策のあり方に関する有識者懇談会設置
1996年4月　ウタリ対策のあり方に関する有識者懇談会が『報告書』を提出
1997年5月　「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」（アイヌ文化振興法）公布。この法律の成立に伴い北海道旧土人保護法、並びに旭川市旧土人保護地処分法が廃止される
1997年11月　アイヌ文化振興法の指定法人として財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構を指定
2007年9月　国連総会「先住民族の権利に関する国際連合宣言」採択
2008年6月　衆参両院「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」採択
2008年7月　アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会設置
2009年7月　アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会が『報告書』を提出
「民族共生の象徴となる空間」（民族共生象徴空間）の構想が初めて打ち出される
2009年12月　アイヌ政策推進会議（座長：内閣官房長官）発足
2010年3月　アイヌ政策推進会議に民族共生の象徴となる空間、北海道外アイヌの生活実態調査の両作業部会設置
2011年6月　両作業部会が『報告書』を提出（民族共生象徴空間の設置場所を北海道白老郡白老町のポロト湖畔に選定）
2011年8月　アイヌ政策推進会議に政策推進作業部会設置
2012年3月　「民族共生の象徴となる空間」における博物館の整備・運営に関する調査検討委員会（以下、博物館調査検討委員会）発足
2012年7月　『「民族共生の象徴となる空間」基本構想』（アイヌ政策関係省庁連絡会議）
2013年8月　『「民族共生の象徴となる空間」における博物館の基本構想』（博物館調査検討委員会）
2013年11月　博物館調査検討委員会の下に「展示・調査研究」、「施設整備」、「組織運営」の3つの専門部会を設置
2014年6月　「アイヌ文化の復興等を促進するための「民族共生の象徴となる空間」の整備及び管理運営に関する基本方針」が閣議決定
2015年3月　『「民族共生の象徴となる空間」における民族共生公園（仮称）基本構想』（国土交通省北海道開発局）、『「民族共生の象徴となる空間」における博物館基本計画報告書』（博物館調査検討委員会）
2015年7月　『国立のアイヌ文化博物館（仮称）基本計画』（文化庁）
2015年11月　文化庁が「国立のアイヌ文化博物館（仮称）設立準備室」を文化庁内と札幌（北海道大学

北キャンパス総合研究棟 3 号館 2 階）に設置

2016 年 4 月　『国立の民族共生公園（仮称）基本計画』（国土交通省北海道開発局）

2016 年 5 月　アイヌ政策推進会議にて民族共生の象徴となる空間を「民族共生象徴空間」、中核施設の名称をそれぞれ「国立アイヌ民族博物館」、「国立民族共生公園」、「慰霊施設」とすることが決定される。それにともない博物館設立準備室も「国立アイヌ民族博物館設立準備室」となる

2016 年 5 月　『国立アイヌ民族博物館展示計画』（文化庁）

2016 年 7 月　『「民族共生象徴空間」基本構想（改訂版）』（アイヌ総合政策推進会議）

2017 年 3 月　『国立アイヌ民族博物館展示基本設計』、『国立アイヌ民族博物館建物基本設計』公表

2017 年 6 月　『アイヌ文化の復興等を促進するための「民族共生の象徴となる空間」の整備及び管理運営に関する基本方針について』の一部変更閣議決定

2017 年 9 月　『国立アイヌ民族博物館展示実施設計』、『国立アイヌ民族博物館建物実施設計』策定

2017 年 12 月　国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会設置

2018 年 1 月　白老町の博物館建設予定地でアイヌ民族博物館主催のチセコテノミ（地鎮祭）実施

2018 年 3 月　アイヌ民族博物館閉館

2018 年 4 月　一般財団法人アイヌ民族博物館と公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構が合併して公益財団法人アイヌ民族文化財団設立

2018 年 5 月　国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表現・新語検討ワーキング会議設置

2018 年 12 月　民族共生象徴空間の愛称を「ウポポイ」（UPOPOY）とし、そのロゴと博物館のロゴを定める

2019 年 5 月　「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」（アイヌ施策推進法）施行。この法律の成立に伴いアイヌ文化振興法が廃止される

2019 年 9 月　「アイヌ施策の総合的かつ効果的な推進を図るための基本的な方針」閣議決定（この閣議決定により 2014 年の基本方針は廃止）

2019 年 9 月　国立アイヌ民族博物館建物本体竣工、11 月には博物館内（白老）にも準備室を設置

2020 年 2 月　国立アイヌ民族博物館展示施工完了

2020 年 3 月　国立アイヌ民族博物館設立準備室閉鎖

2020 年 4 月　国立アイヌ民族博物館発足

2020 年 7 月　民族共生象徴空間開業記念式典挙行（11 日）　国立アイヌ民族博物館を含む民族共生象徴空間が開業（12 日）　新型コロナウイルス感染症対策として、マスクの着用の義務化、入場入館前の検温と手指消毒の徹底とともに、博物館展示室への入室者を 1 時間当り 100 人に制限する

2020 年 10 月　展示室への入室制限を 1 時間当り 200 人に緩和する

2021 年 6 月　新型コロナウイルス感染症の蔓延により休館（6 月 1 日～ 20 日）

2021 年 7 月　民族共生象徴空間開業 1 周年を迎える

2021 年 9 月　新型コロナウイルス感染症の蔓延により休館（8 月 31 日～ 9 月 30 日）

2022 年 3 月　2021 年度のウポポイの入場者 190,618 名

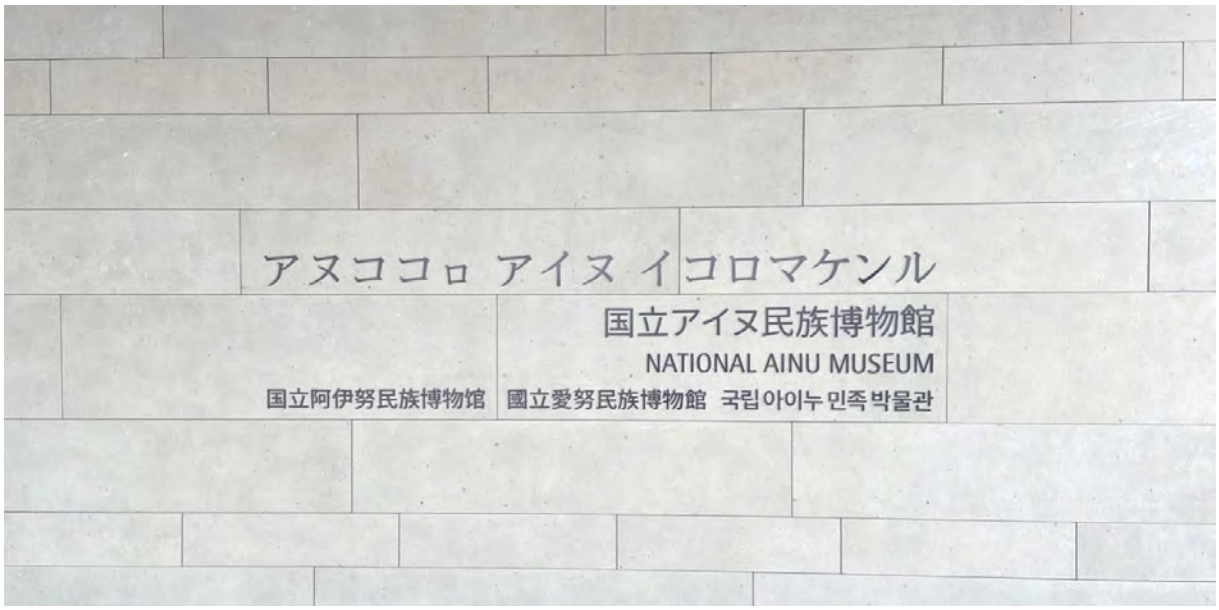
2022 年 7 月　民族共生象徴空間開業 2 周年を迎える

2022 年 11 月　文化の日（3 日）に無料入場を実施し、1 日で 6,490 名の入場者を迎える

2023 年 3 月　2022 年度のウポポイ入場者数 369,038 名

Ⅰ -03 館内におけるアイヌ語の表記・方言について

アイヌ語の復興を目的として、当館をはじめ民族共生象徴空間（ウポポイ）ではアイヌ語を第一言語と定めている。そのために館内及び展示室の解説パネルや案内サインにはアイヌ語が１行目、あるいは最初に表示されている。

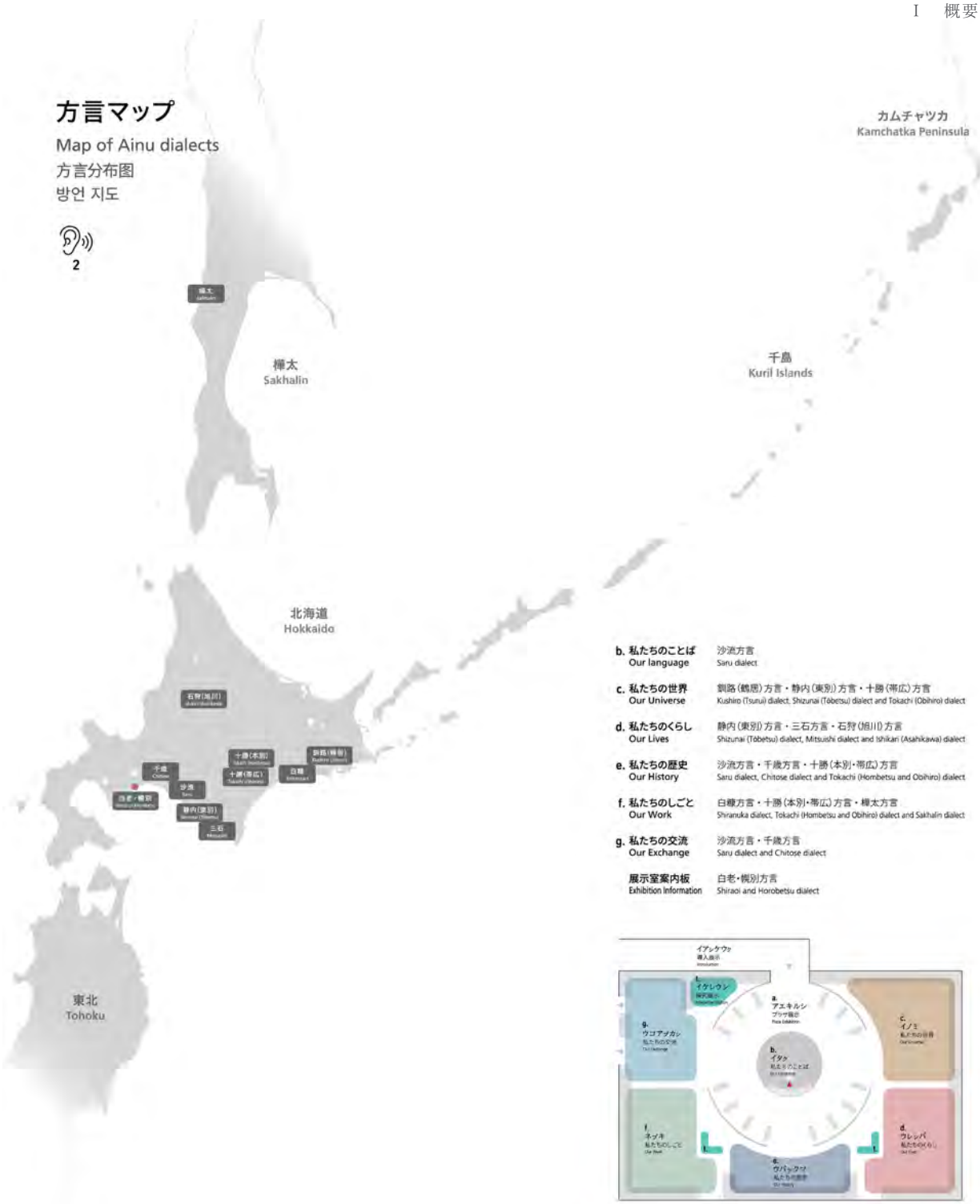


博物館の館名板　第１行目がアイヌ語

館名板の１行目にあるアイヌ語の館名は、国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表現・新語検討ワーキング会議が検討、提案し、国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会が決定したものである。「アヌココロ」＝「私たちが共有する」、「イコロマケンル」＝「宝が入った建物」で、直訳すると「私たちが共有するアイヌの宝物が入った建物」となる。「私たちが共有する」が「国立」に対応し、「宝物が入った建物」が「博物館」を意味する。

また、アイヌ語は復興とともにその方言の多様性を守っていくために、当館では基本展示室の中テーマ解説のアイヌ語文の作成を、各地域でことばを受け継ぐ人たちに依頼した。執筆者は自分が学んでいる方言や書きたい方言で記述しているために、解説文ごとに異なる方言が使われている。基本展示の各テーマで使用された方言は以下の通りである。

私たちのことば	沙流方言
私たちの世界	釧路（鶴居）方言、静内（東別）方言、十勝（帯広）方言
私たちのくらし	静内（東別）方言、三石方言、石狩（旭川）方言
私たちの歴史	沙流方言、千歳方言、十勝（本別、帯広）方言
私たちのしごと	白糠方言、十勝（本別、帯広）方言、樺太方言
私たちの交流	沙流方言、千歳方言
展示室案内板	白老・幌別方言



基本展示の解説で使用されているアイヌ語の方言（基本展示「私たちのことば」より）

5 言語で記された中テーマ解説
上から順にアイヌ語、日本語、英語、中国語（簡体字）、韓国・朝鮮語
（基本展示「私たちの世界」より）

Ⅰ-04 博物館のロゴマークについて

NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

Ⅰ-04-01 国立アイヌ民族博物館ロゴマークコンセプト

伝統的なアイヌの家屋における屋根を支える構造のひとつである三脚（ケトゥンニ）をイメージ。アイヌ文化の復興、新たな文化の創造を「支える」イメージ。

メインカラーとして、伝統的なアイヌの服飾に用いられることも多い、紺と赤を採用。

下の縦線の本数は、アイヌ語で「たくさん」を表す表現にも用いられる数「6」とし、多くの人びとが集うことをイメージ。博物館の基本展示を構成するテーマ展示の数「6」とも合致。

（『国立アイヌ民族博物館ロゴマークマニュアル』より

Ⅰ-04-02 その他のロゴマークの使い方

■カラー表示

Aタイプ

NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

Bタイプ

NATIONAL AINU MUSEUM

Cタイプ

NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

Dタイプ

NATIONAL AINU MUSEUM

■モノクロ表示

Aタイプ

Bタイプ

Cタイプ

Dタイプ

■白抜き表示

Aタイプ

Bタイプ

Cタイプ

Dタイプ

Ⅰ -05 位置と周辺環境

Ⅰ -05-01 民族共生象徴空間の候補地選定の経緯

特に自然環境や交通アクセス等の自然的・地理的条件、アイヌ文化振興の活動の基盤となる人材や施設等の集積状況、地元の関係機関等の協力体制等において優れている北海道白老町が候補地としてふさわしいと判断した。

白老町内においては、ポロト湖畔において、アイヌの人々が自ら設立したアイヌ文化に関する施設等を中心に舞踊等の伝承者の育成や体験学習等の活動が展開され、国内外から多くの観光客等が訪れているとともに、同湖の周辺の区域に、アイヌ文化の伝承活動等における利活用の実績のある森林、海洋等の自然環境等の資源がコンパクトにまとまって存在すること等から、同湖周辺の区域が象徴空間の中心的な区域として最もふさわしいと想定される。

（『「民族共生の象徴となる空間」作業部会報告書』アイヌ政策推進会議「民族共生の象徴となる空間」作業部会、2011 年、pp.9-10 より）

Ⅰ -05-02 民族共生象徴空間設置対象地と周辺の概況

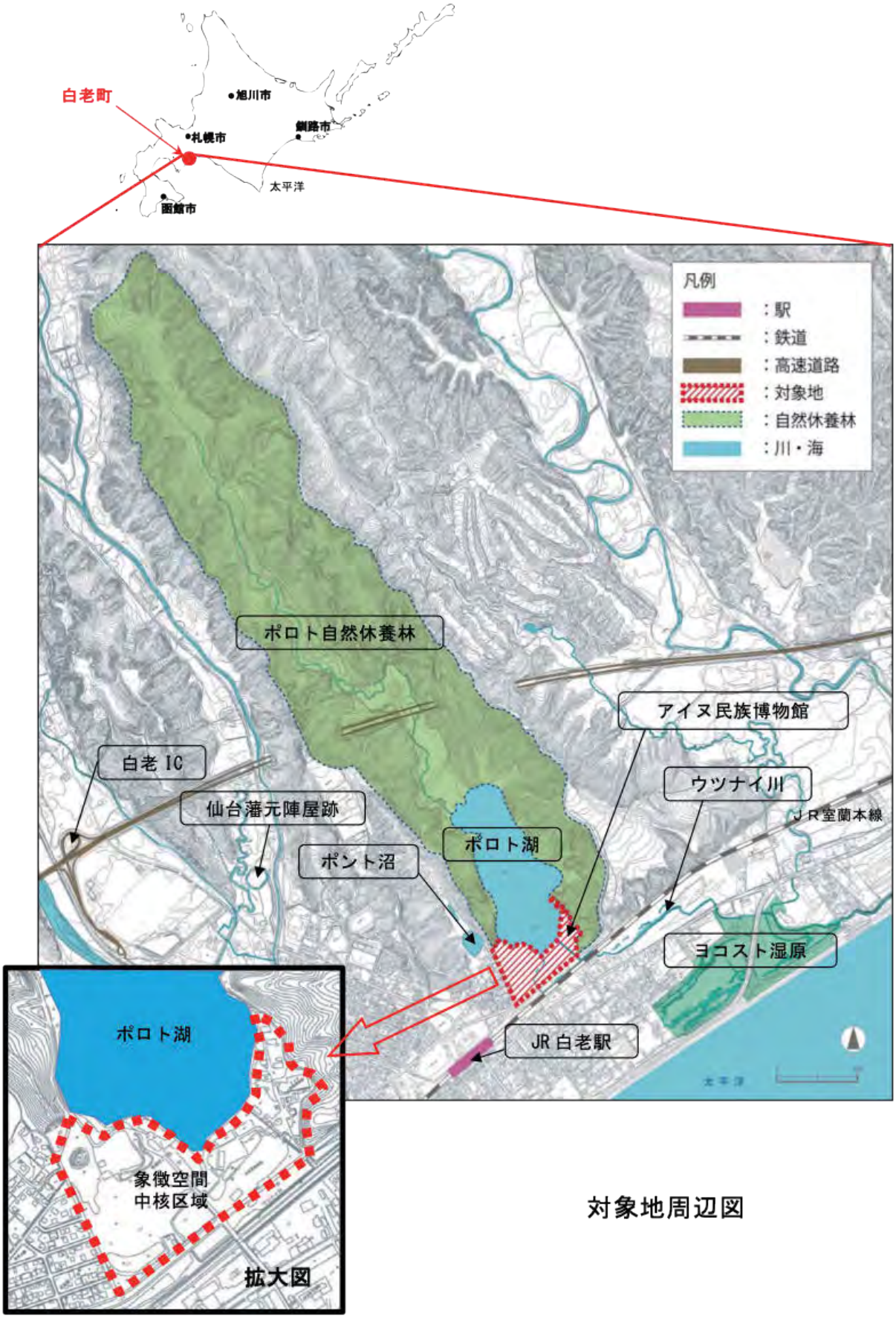
対象地は、社台川水系ウツナイ川の流域にあり、背後の山々から自然休養林、ポロト、ウツナイ川を経て、ヨコスト湿原、太平洋につながる一連の自然環境が形成されており、ポロトの近隣には、アイヌの伝承においてポロトと対をなすポントも位置している。

対象地周辺のポロト遺跡からは縄文中期の土器などが出土しており、その時代にはすでに、この地域に人が居住していたことがうかがえる。また、古くからコタンをつなぐ海に沿ったネットワークを通じて遠距離交易が行われていた。

—中略—

交通の面では、JR 白老駅から北東約 500m に位置するとともに、道央自動車道白老 IC から道道白老大滝線と町道を介して約 3Km で接続しており、道南の函館方面及び道央の札幌方面のいずれからも交通条件の至便な場所にある。

（『「民族共生の象徴となる空間」における民族共生公園（仮称）基本構想』国土交通省北海道開発局、2015 年、p.5 より）



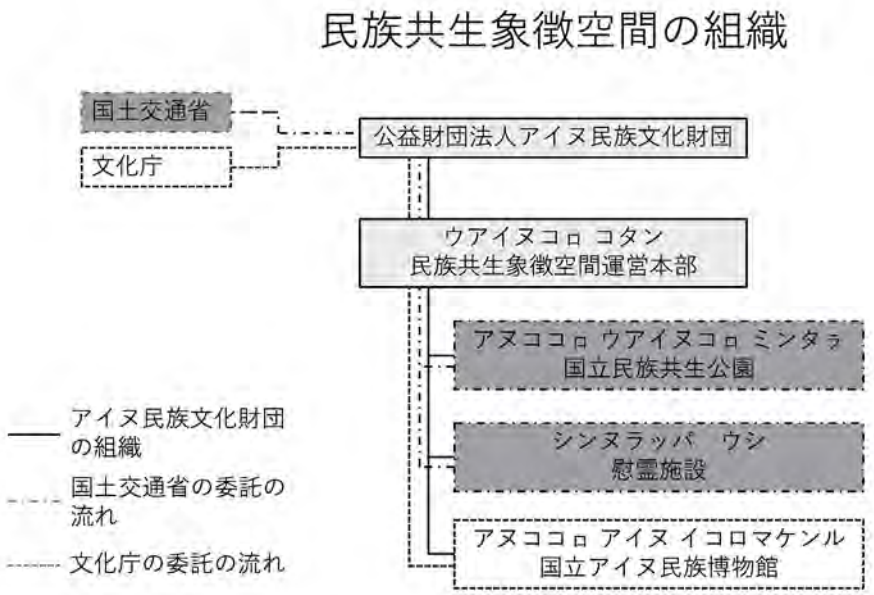
対象地周辺図

（『「民族共生の象徴となる空間」における民族共生公園（仮称）基本構想』国土交通省北海道開発局、2015 年、p.6 より）

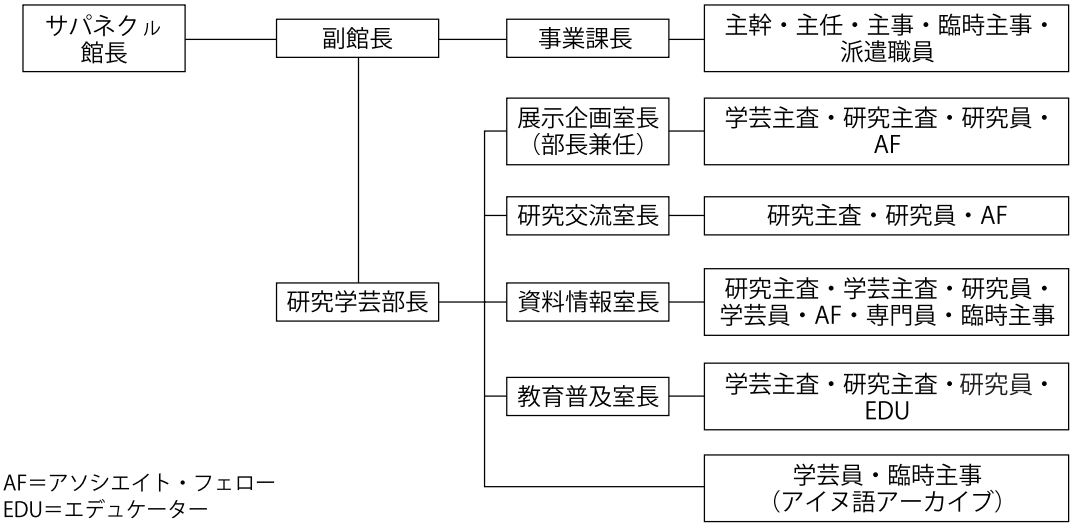
Ⅱ　管理運営

Ⅱ -01 組織

Ⅱ -01-01 組織図



国立アイヌ民族博物館組織図　2022（令和 4）年度



AF＝アソシエイト・フェロー
EDU＝エデュケーター

Ⅱ -01-02 人員構成

2022（令和 4）年度国立アイヌ民族博物館　人員構成（2022 年 12 月時点）

所属室・課	役職名	氏　　名
	館長	佐々木　史郎
	副館長	南　　健一
	研究学芸部長	藪中　剛司
事業課	課長	深澤　博昭
事業課	主幹	小田島　威
事業課	主任	佐々木　智恵
事業課	主任	山田　琴美
事業課	主任	上林　春奈
事業課	主事	小林　真綾
事業課	主事	澤口　利枝
事業課	主事	赤堀　友里恵
事業課	主事	宮本　ゆか
展示企画室	室長（部長兼務）	藪中　剛司
展示企画室	研究主査	鈴木　建治
展示企画室	研究主査	関口　由彦
展示企画室	学芸主査	立石　信一
展示企画室	研究員	小林　美紀
展示企画室	アソシエイトフェロー	古田嶋　智子
展示企画室	アソシエイトフェロー	劉　　高力
展示企画室	アソシエイトフェロー	是澤　櫻子
研究交流室	室長	霜村　紀子
研究交流室	研究主査	奥山　英登
研究交流室	研究主査	宮地　鼓
研究交流室	研究員	赤田　昌倫
研究交流室	研究員	深澤　美香
研究交流室	アソシエイトフェロー	マーク　ジョン　ウィンチェスター
研究交流室	アソシエイトフェロー	谷地田　未緒
資料情報室	室長	田村　将人
資料情報室	学芸主査	八幡　巴絵
資料情報室	研究員	大江　克己
資料情報室	学芸員	竹内　隼人
資料情報室	学芸員	矢崎　春菜
資料情報室	専門員	工藤　綾華
資料情報室	臨時主事	宮谷　初美
資料情報室	臨時主事	中村　孝子
資料情報室	臨時主事	和泉　典子

教育普及室	室長	森岡　健治
教育普及室	研究主査	笹木　一義
教育普及室	研究主査	中井　貴規
教育普及室	学芸主査	北嶋　由紀
教育普及室	研究員	市川　暢子
教育普及室	エデュケーター	両角　佑子
教育普及室	エデュケーター	今野　彩
教育普及室	エデュケーター	永石　理恵
教育普及室	エデュケーター	カサド　パルド　ケラール
教育普及室	エデュケーター	シン　ウォンジ
教育普及室	エデュケーター	長谷　仁美
	学芸員（アイヌ語アーカイブ）	安田　益穂
	臨時主事（アイヌ語アーカイブ）	安田　千夏

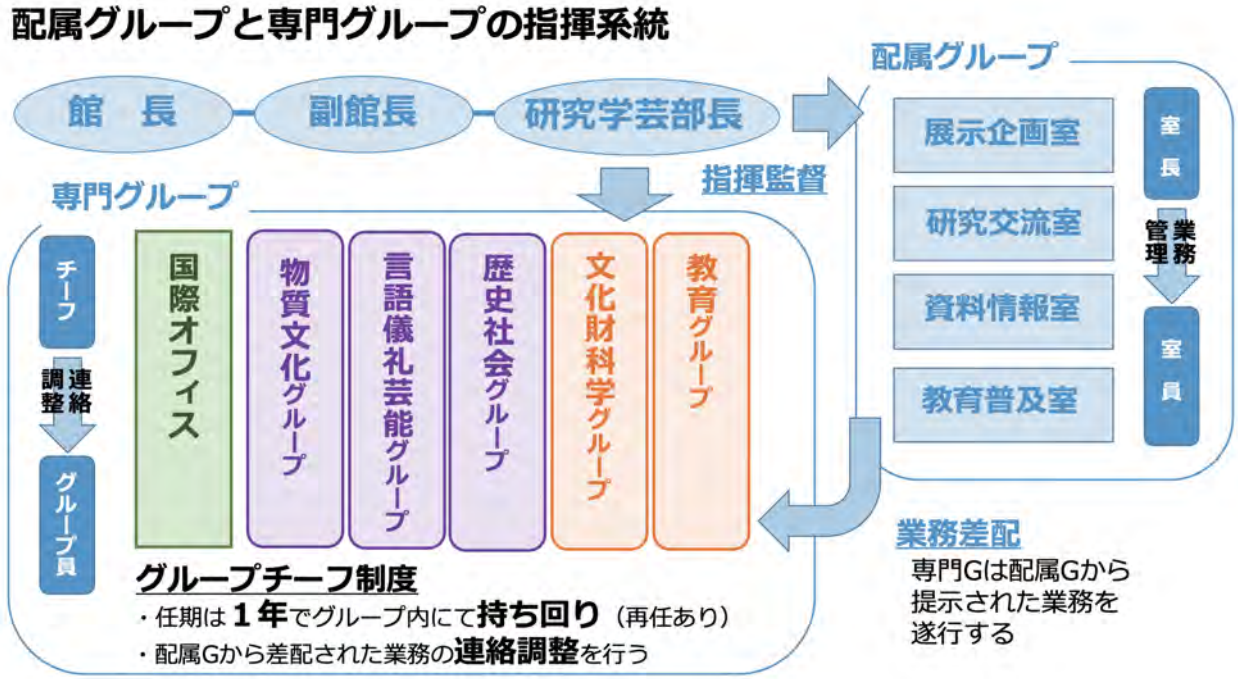
Ⅱ -01-03 専門グループ

当館では、基本的に展示企画室、研究交流室、資料情報室、教育普及室の 4 室によって研究学芸業務がなされている。しかし、各研究員・学芸員はそれぞれの専門性をもって採用されているものの、各室の業務と合致していることは少ない。そのため専門が近い者どうしが集まり、室を越えて業務を処理することも多々あり、歪な状況にあった。

そこで、館長裁定による「国立アイヌ民族博物館における研究・学芸業務の実施体制について」に基づいて、5 つの専門グループ（物質文化、言語儀礼芸能、歴史社会、文化財科学、教育）と国際オフィスを設置し、各室長から指示された用務を専門的に処理することとした。そこには、「専門的知見等を研究学芸部の業務に随時反映し処理する体制を整備することにより、博物館の機能強化及び調査研究・学芸業務の充実・深化等を図る」という狙いがある（「国立アイヌ民族博物館における研究・学芸業務の実施体制について」第 1 条による）。

研究学芸部所属の研究員・学芸員はいずれかの専門グループに所属する。国際オフィスには専門グループと重複して所属することを妨げない。なお、指揮系統としては、各グループとオフィスは研究学芸部長に直属する。また、各グループからチーフを選出し、研究学芸部長あるいは各グループ間の連絡調整を行う。チーフは 1 年交代として再任を妨げない。

この専門グループ、オフィスの体制は館長裁定により 2020 年 9 月 1 日より実施した。



2022（令和 4）年度専門グループ構成（2022 年 12 月時点）

【物質文化グループ】		
アイヌの歴史文化の基礎研究　主に物質文化に関する各分野を専門とする		
《担当資料》	氏　名	専門分野
	藪中　剛司	物質文化
	北嶋　由紀	アイヌ文化
民具資料一般	宮地　　鼓	環境学
動植物標本	鈴木　建治	考古学
	八幡　巴絵	アイヌ文化
	竹内　隼人	アイヌ文化
	両角　佑子	学芸職
	長谷　仁美	学芸職

【言語儀礼芸能グループ】		
アイヌの歴史・文化の基礎研究　主に言語儀礼技能に関する各分野を専門とする		
《担当資料》	氏　名	専門分野
	中井　貴規	アイヌ文化、アイヌ語
	小林　美紀	アイヌ語
映像・音声資料	深澤　美香	アイヌ語
民具資料（儀礼・芸能系）	矢崎　春菜	アイヌ語
	竹内　隼人	アイヌ文化
	谷地田未緒	文化政策
	劉　　高力	文化人類学
	市川　暢子	教育学

【歴史社会グループ】		
アイヌの歴史・文化の基礎研究　主に歴史社会に関する各分野を専門とする		
《担当資料》	氏　名	専門分野
	霜村　紀子	美術史
	田村　将人	近現代史
文書・絵図資料	関口　由彦	近現代史
現代資料一般	鈴木　建治	考古学
考古資料	立石　信一	近現代史
	マーク　ジョン ウィンチェスター	アイヌ近現代史・歴史社会学
	是澤　櫻子	歴史、文化人類学

【文化財科学グループ】		
博物館機能強化のための研究　文化財科学に関する各分野を専門とする		
《担当資料》	氏　名	専門分野
	赤田　昌倫	保存科学
資料全般の保存環境	大江　克己	保存科学
	古田嶋　智子	保存科学、保存環境学

【教育グループ】		
博物館機能強化のための研究　教育に関する各分野を専門とする		
《担当資料》	氏　名	専門分野
	森岡　健治	考古学
	奥山　英登	博物館教育
	笹木　一義	博物館学
	北嶋　由紀	アイヌ文化
	中井　貴規	アイヌ文化、アイヌ語
教育普及資料	八幡　巴絵	アイヌ文化
	市川　暢子	教育学
	シン　ウォンジ	学芸職
	カサド　パルド　ケラール	学芸職
	永石　理恵	学芸職
	両角　佑子	学芸職
	今野　　彩	学芸職
	長谷　仁美	学芸職

【国際オフィス】		
博物館の多言語化及び国際交流に関する分野を専門とする		
主担当	氏　名	専門分野
国際交流	谷地田　未緒	文化政策

Ⅱ -02 運営組織

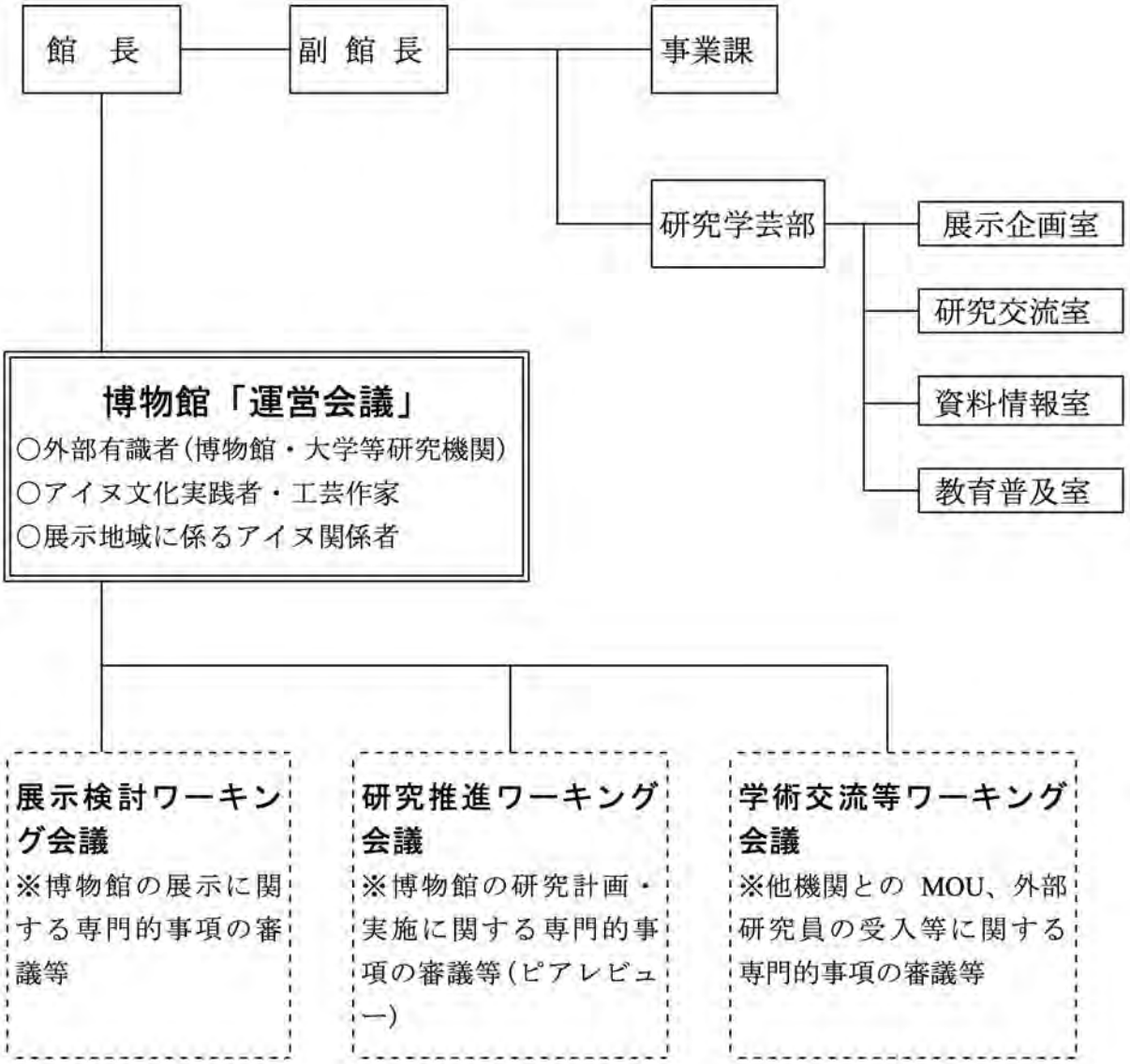
Ⅱ -02-01 国立アイヌ民族博物館運営会議

当館では、「博物館の展示及び学術研究等に関する専門事項について、外部有識者及びアイヌ文化実践者等アイヌ関係者（以下「外部有識者等」という）の意見を聞くため」（公財ア事業第51号『国立アイヌ民族博物館運営会議設置要領』（2020年10月30日国立アイヌ民族博物館長裁定）第1条より）、運営会議を置いている。

なお、本運営会議は決定機関ではなく、諮問機関である。

1）組織

当運営会議では、同要領第3条第4項に基づき、下にワーキング会議を設置している。それに必要な事項は運営会議の座長が別に定めるとあり、また、その構成員も座長が委嘱する。



国立アイヌ民族博物館運営会議組織図

2）2022（令和 4）年度運営会議構成員（五十音順）

氏　　名	所　属・職
○秋辺　日出男	阿寒アイヌ工芸協同組合専務理事
秋山　純子	国立文化財機構東京文化財研究所保存科学研究センター保存環境研究室長
宇梶　剛士	俳優
宇治　義之	豊浦アイヌ協会会長
小川　正人	北海道博物館学芸副館長
貝澤　和明	北海道アイヌ協会事務局長
貝澤　　守	アイヌ工芸家
萱野　志朗	萱野茂二風谷アイヌ資料館館長
◎佐々木　利和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター招へい教員
品川　欣也	東京国立博物館学芸企画部博物館教育課教育普及室室長
田澤　　守	樺太アイヌ協会会長
谷本　晃久	北海道大学大学院文学研究院教授
中川　　裕	千葉大学名誉教授

◎：座長、○：副座長

3）開催状況

2022（令和 4）年度には以下の日程と議題で会議を開催した。

日時：2023 年 3 月 14 日（火）10:00 ～ 12:00

会場：国立アイヌ民族博物館　1 階　交流室

議題：

1. 審議事項

(1) 議長と副議長の選出

2. 報告事項

(1) 研究推進ワーキングの報告

(2) 展示検討ワーキングの報告

(3) 学術交流等ワーキングの報告

(4) 展示企画室の業務について

(5) 研究交流室の業務について

(6) 資料情報室の業務について

(7) 教育普及室の業務について

(8) その他

4）ワーキング会議開催状況

2022年度は2021年度の運営会議での諮問に基づき、展示検討、研究推進、学術交流等の3つのワーキング会議を組織し、展示、研究、学術交流等の3つの業務について、意見を求め、それに基づき、各業務の改善を図った。

① 展示検討ワーキング会議

2022（令和4）年度構成員（五十音順）

○秋辺　日出男	阿寒アイヌ工芸協同組合専務理事
大坂　拓	北海道博物館学芸主査
岡田　育子	アイヌ文様刺繍サークルフッチコラチ代表
貝澤　珠美	TAMA kor DESIGN ～タマ コロ デザイン代表
佐藤　優香	東京大学大学院情報学環客員研究員
関根　真紀	二風谷民芸組合
百瀬　響	北海道教育大学教育学部札幌校教授
山﨑　幸治	北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授

○：座長

開催状況

日時：2022年7月4日（月）　13:00～16:00

場所：国立アイヌ民族博物館　1階　交流室　オンライン併用

検討事項：

(1) 基本展示室に関する事項

(2) テーマ展示、特別展示及びその他展示事業に関する事項

(3) その他

② 研究推進ワーキング会議

2022（令和4）年度構成員（五十音順）

秋山　純子	国立文化財機構東京文化財研究所保存科学研究センター保存環境研究室長
五十嵐　聡美	北海道立三岸好太郎美術館副館長
小川　義和	国立科学博物館調整役
小野　哲也	標津町ポー川史跡自然公園園長
北原　次郎太 モコットゥナシ	北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授
○谷本　晃久	北海道大学大学院文学研究院教授
中川　裕	千葉大学名誉教授

○：座長

開催状況

日時：2022年5月30日（月）　10:00～12:00

場所：国立アイヌ民族博物館　オンライン（zoom）併用

検討事項：

(1) 令和3年度調査研究プロジェクト課題について（報告）

(2) 令和 4 年度調査研究プロジェクト事業について
(3) その他

③ 学術交流等ワーキング会議
2022（令和 4）年度構成員（五十音順）

小川　正人	北海道博物館学芸副館長
○加藤　博文	北海道大学アイヌ・先住民研究センター長
齋藤　玲子	国立民族学博物館学術資源研究開発センター准教授
品川　欣也	東京国立博物館学芸企画部博物館教育課教育普及室室長
本田　優子	札幌大学地域共創学群教授

○：座長
開催状況
日時：2022 年 8 月 19 日（金）　10:00 ～ 12:00
場所：国立アイヌ民族博物館　1 階　研修室　オンライン併用
検討事項：
(1) 国内・国外の博物館及び大学等研究・教育機関との学術交流に関する実施状況について
(2) 国立アイヌ民族博物館ネットワーク運営委員会（プンカㇲ）について
(3) 国立アイヌ民族博物館のレファレンス実施状況について
(4) その他

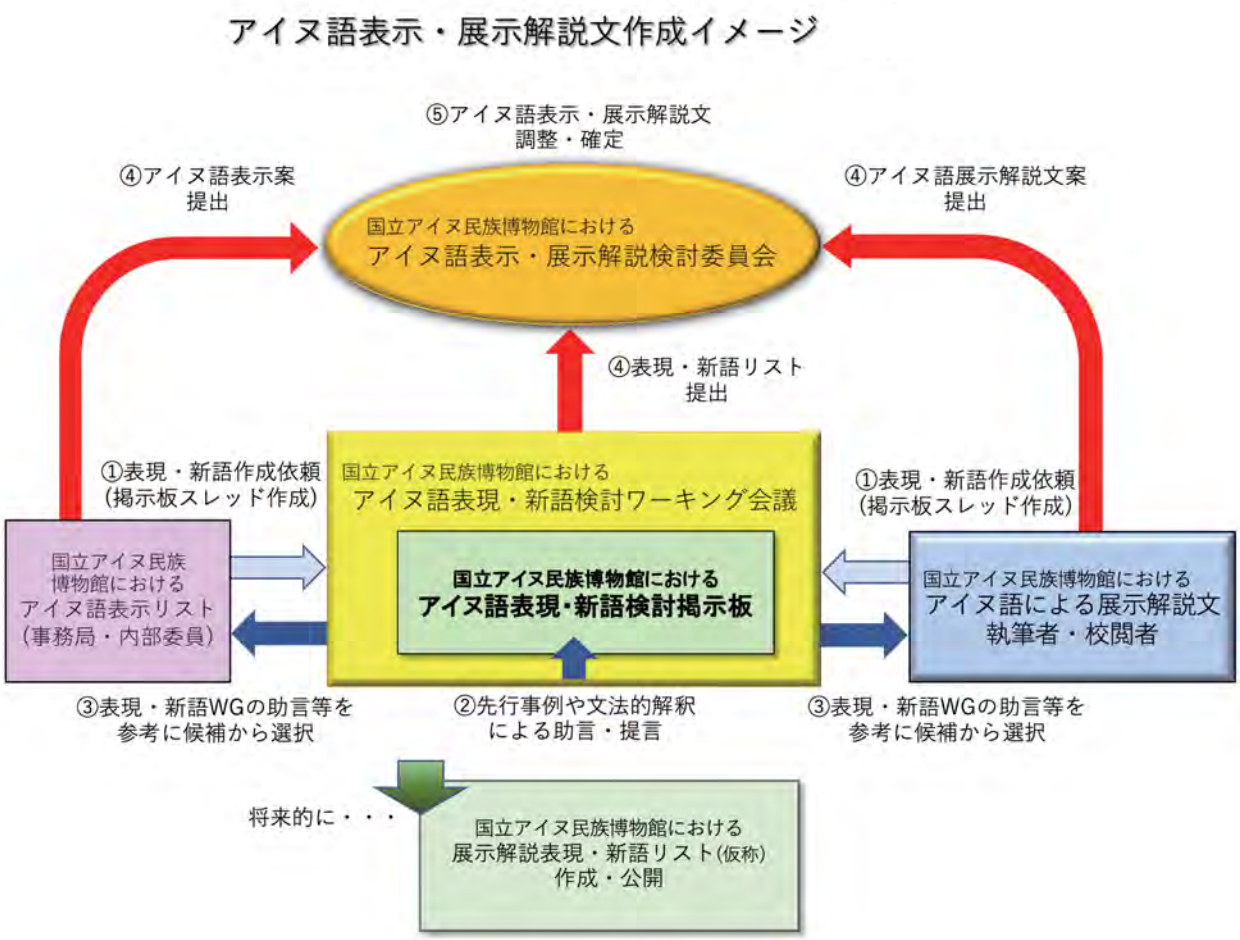
Ⅱ -02-02 国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会

博物館におけるアイヌ語の表示と展示に用いるアイヌ語の表記の方法、方言の選定、新しい言葉の作成に際してのガイドラインなどについて検討するために、2017（平成 29）年度に当時の（公財）アイヌ文化振興・研究推進機構が「国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会」を設置した。また、この委員会の設置要綱第 3 条第 3 項に基づいて、博物館で使用する数多くの専門用語をアイヌ語で表現するための新しい言葉について議論するために、同財団は 2018（平成 30）年度に「国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表現・新語検討ワーキング会議」を設置した。

この委員会とワーキング会議は、当初は博物館内のアイヌ語の表示について検討することが主目的だった。しかし、ウポポイ（民族共生象徴空間）全体でのアイヌ語のあり方についての議論が必要になったために、事実上ウポポイにおけるアイヌ語表示についての議論をする委員会とワーキング会議となった。

この委員会とワーキング会議は 2020（令和 2）年度の博物館の正式な発足に伴い、設置母体が博物館に変更された（委員委嘱者が財団理事長から博物館長に変更）。

1）国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語検討の仕組み



2）2022（令和４）年度アイヌ語表示・解説検討委員会構成員

氏　　名	所　属・職
大須賀　るえ子	白老楽しく・やさしいアイヌ語教室講師
奥田　統己	札幌学院大学人文学部教授
○萱野　志朗	萱野茂二風谷アイヌ資料館館長
北原　次郎太　モコットゥナシ	北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授
佐藤　知己	北海道大学大学院文学研究院教授
関根　健司	平取町教育委員会生涯学習課アイヌ文化学習係係長
◎中川　　裕	千葉大学名誉教授
中村　吉雄	公益社団法人北海道アイヌ協会副理事長 千歳アイヌ協会会長
村木　美幸	アイヌ民族文化財団民族共生象徴空間運営本部副本部長

◎：委員長、○：副委員長

3）2022（令和 4）年度アイヌ語表現・新語検討ワーキング会議構成員

氏　　名
奥田　統己
神崎　雅好
○北原　次郎太　モコットゥナシ
◎佐藤　知己
関根　健司
八谷　麻衣
浜田　隆史

◎：座長、○：副座長

4）2022（令和 4）年度実施状況

2022（令和 4）年度には以下の日程で委員会とワーキング会議を開催した。

◆ 第 1 回委員会

日時：2022 年 11 月 1 日（火）　9:00 ～ 11:00

会場：国立アイヌ民族博物館　研修室（オンラインシステムを併用）

1. 開会
2. 委員長・副委員長の選出
3. 議事

(1) 今年度の予定について

(2) アイヌ語に関連するテーマ展の開催について

(3) 昨年度アイヌ語表現・新語検討ワーキング会議で検討した内容について

(4) その他

4. 閉会

※委員の 3 分の 1 が欠席していたため、委員長、副委員長ともに第 1 回委員会では選出せず、次回に持ち越しとなった。

◆ 第 2 回委員会

日時：2023 年 3 月 24 日（金）　13:30 ～ 15:30

会場：国立アイヌ民族博物館　交流室（オンラインシステムを併用）

1. 開会
2. 委員長・副委員長の選出
3. 議事

(1) アイヌ語解説文について

(2) アイヌ語表現・新語検討ワーキング会議について

(3) その他

4. 閉会

◆ 第 1 回ワーキング会議

日時：2023 年 2 月 28 日（火）　13:30 ～ 15:30

会場：国立アイヌ民族博物館　研修室（オンラインシステムを併用）

1. 開会
2. 座長・副座長の選出
3. 議題
(1) 表現・新語検討にまつわるディスカッション（話題提供者：奥田統己先生）
(2) 表現・新語の検討
(3) その他
4. 閉会

Ⅱ -02-03 その他の運営組織

1）外部委員を含むもの

アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク運営委員会（詳細はⅣ -04 参照）
国立アイヌ民族博物館鑑査会議（詳細はⅣ -05 参照）
国立アイヌ民族博物館買取協議会（詳細はⅣ -05 参照）
国立アイヌ民族博物館買取評価（詳細はⅣ -05 参照）
国立アイヌ民族博物館寄贈評価（詳細はⅣ -05 参照）

2）館内の会議、委員会

博物館連絡会議
博物館全体会議
情報セキュリティ委員会
図書委員会
印刷物等編集委員会

Ⅲ　施　設

Ⅲ -01 施設概要

Ⅲ -01-01 整備の基本方針

民族共生象徴空間の中核施設となる博物館として以下の方針にて整備

●ポロト湖畔の自然景観等、周辺環境との調和

●アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点

●国内外の多様な人々に向けたアイヌの歴史・文化等の発信拠点

Ⅲ -01-02 施設概要

建設場所：北海道白老郡白老町若草町（民族共生象徴空間内）

延べ面積：約 8,600m²（1 階：3,500 ㎡、2 階：4,800 ㎡、3 階：300 ㎡）

規 模：地上 3 階

構 造：鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造

設 計：久米設計

建 築：竹中・田中特定建設企業体

国立アイヌ民族博物館　概要

整備の基本方針

民族共生象徴空間の中核施設となる博物館として以下の方針にて整備

- ●ポロト湖畔の自然景観等，周辺環境との調和
- ●アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点
- ●国内外の多様な人々に向けたアイヌの歴史・文化等の発信拠点

施設概要

建設場所：北海道白老郡白老町若草町（民族共生象徴空間内）
延べ面積：約8,600㎡
規　　模：地上3階
構　　造：鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造

※国立民族共生公園内の施設等については別途設計を行っており，本イメージ図には含まれていない。

文化庁ホームページ「国立アイヌ民族博物館　建物基本設計」より

III -02 建物の整備の基本方針と計画内容

（文化庁ホームページ「国立アイヌ民族博物館　建物基本設計」より）

基本方針①　ポロト湖畔の自然景観等、周辺環境との調和

◯自然豊かなポロト湖畔周辺の景観との調和

・ポロト湖畔周囲に広がるすり鉢状の山並みや自然林とゆるやかに連続する建物形状

・展示室ロビーにポロト湖畔が眺望できるスペースを確保

◯国立民族共生公園と一体となった魅力ある空間の創出

・来館者が公園と相互に利用できるよう、公園入口側とポロト湖畔側にエントランスを設置

基本方針②　アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点

◯来館者がアイヌの歴史・文化に親しみやすい平面計画

・展示室ロビーから導入展示を経て展示室へ導く、期待感を高められる動線計画

・映像や音声でアイヌ文化を紹介するシアター、アイヌ文化の講座や講演会を行うスペースを用意

◯確実な資料保存や研究に必要な空間の確保

・貴重な資料を展示、収蔵するため、展示室や収蔵庫の適切な環境を維持するとともに、調査・研究に必要なスペースを用意

基本方針③　国内外の多様な人々に向けたアイヌの歴史・文化等の発信拠点

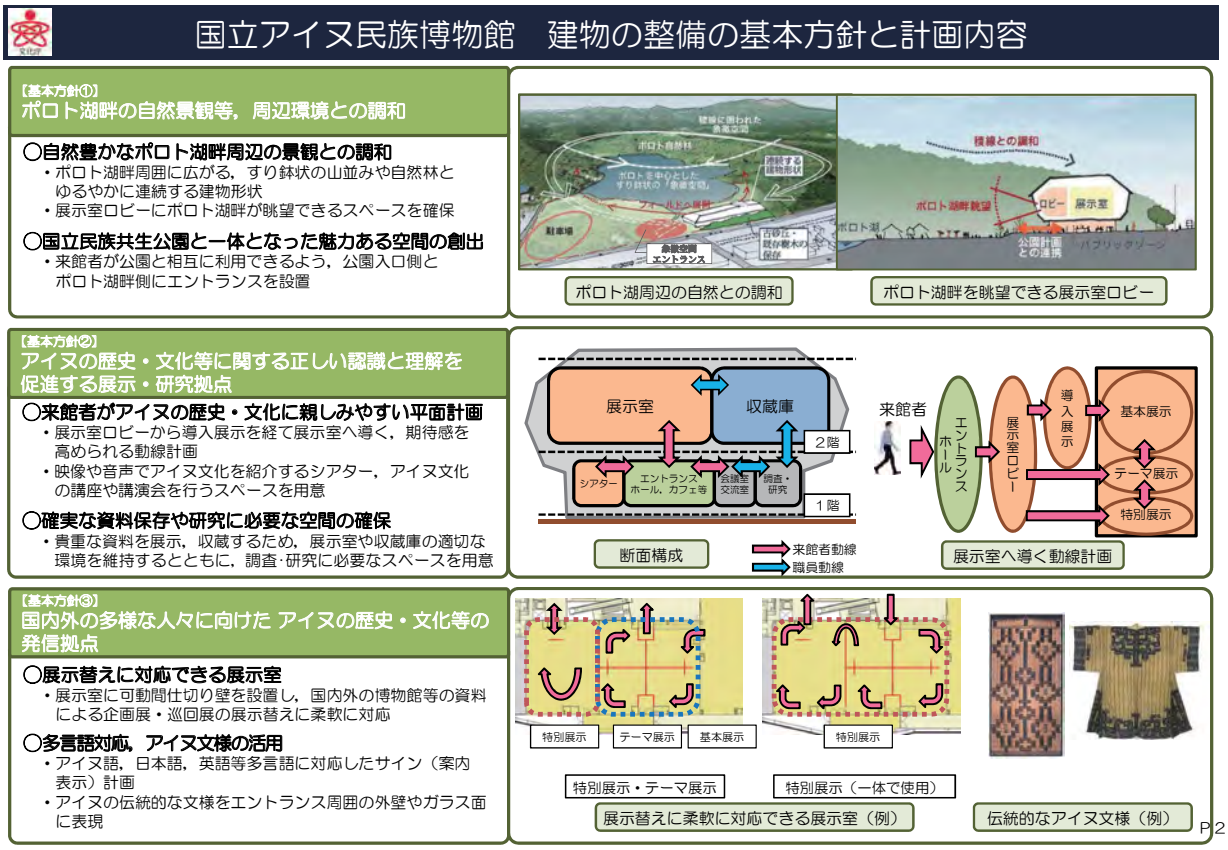
○展示替えに対応できる展示室

・展示室に可動間仕切り壁を設置し、国内外の博物館等の資料による企画展・巡回展の展示替えに柔軟に対応

○多言語対応、アイヌ文様の活用

・アイヌ語、日本語、英語等多言語に対応したサイン（案内表示）計画

・アイヌの伝統的な文様をエントランス周囲の外壁やガラス面に表現



文化庁ホームページ「国立アイヌ民族博物館　建物基本設計」より

参考：博物館の建物を飾るアイヌの伝統的な文様について

博物館内には要所要所にアイヌ文様を図案化した模様を入れている。

例えば、博物館の正面エントランスの自動ドアの周囲には、アイヌのゴザ文様を図案化した模様を金属板で表現し、自動ドアのガラス面には衣服の文様にヒントを得た模様を入れて、この博物館がアイヌ文化を展示する博物館であることを強調している。また、透明なガラスに貼り付ける衝突防止用シートにも、アイヌ文様を図案化した模様を使用している。

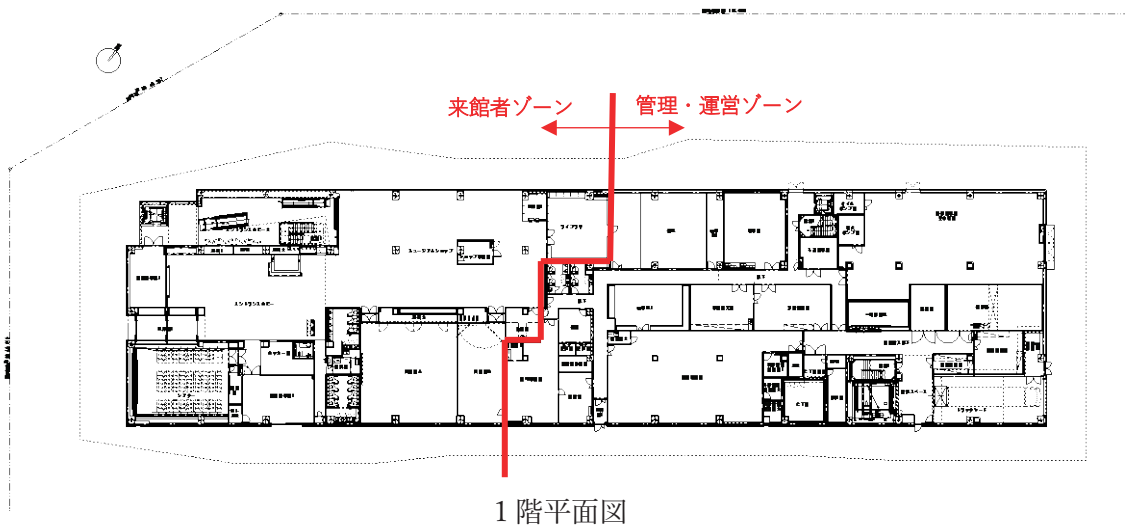
1階ロビーからエレベータールームに向かう入り口の自動ドアには、アイヌの衣服に使われる切り伏せと刺繍の文様を施し、同じ模様をインフォメーション奥の壁面に投影している。また、1階と2階のトイレの洗面台の鏡にもアイヌ文様を図案化した模様を入れた。

これらの文様、模様はいずれも、文化伝承者でアイヌの服飾や刺繍を数多く手がけてきた津田命子氏がデザインしたものである。

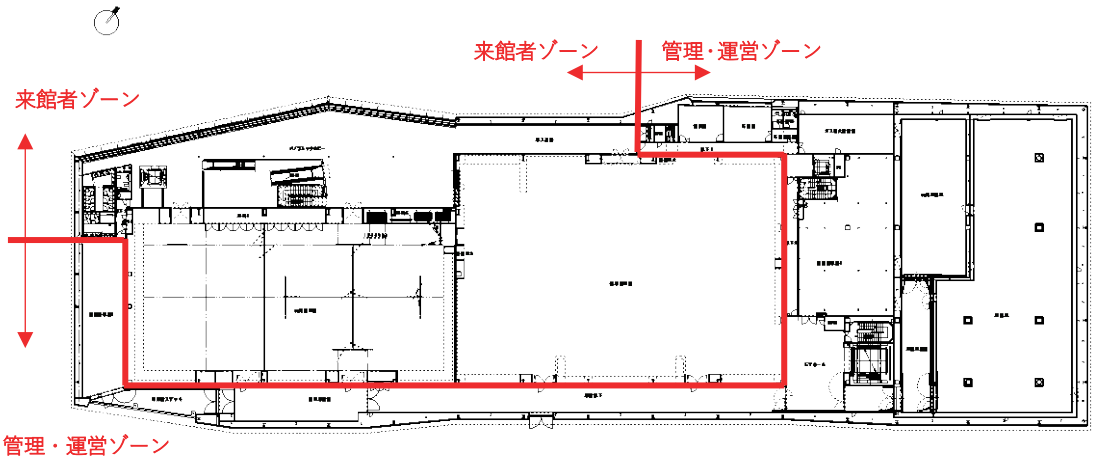
正面エントランスを飾るゴザ文様を図案化した模様

1階ロビーからエレベータールームへ続くドアのアイヌ文様

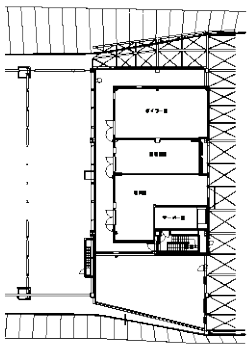
Ⅲ -03 建物の平面図



1 階平面図



2 階平面図



3 階平面図

参考図　国立民族共生公園　全体平面図

III -04 1階の施設

1階の施設は一般来館者を迎え入れる「来館者ゾーン」と博物館のバックヤードである「管理・運営ゾーン」とに大別できる。

○ 来館者ゾーンの施設

風除室、エントランスロビー、シアター、交流室、ライブラリー、ミュージアムショップ、ロッカー室、救護室、トイレ

○ 管理・運営ゾーンの施設

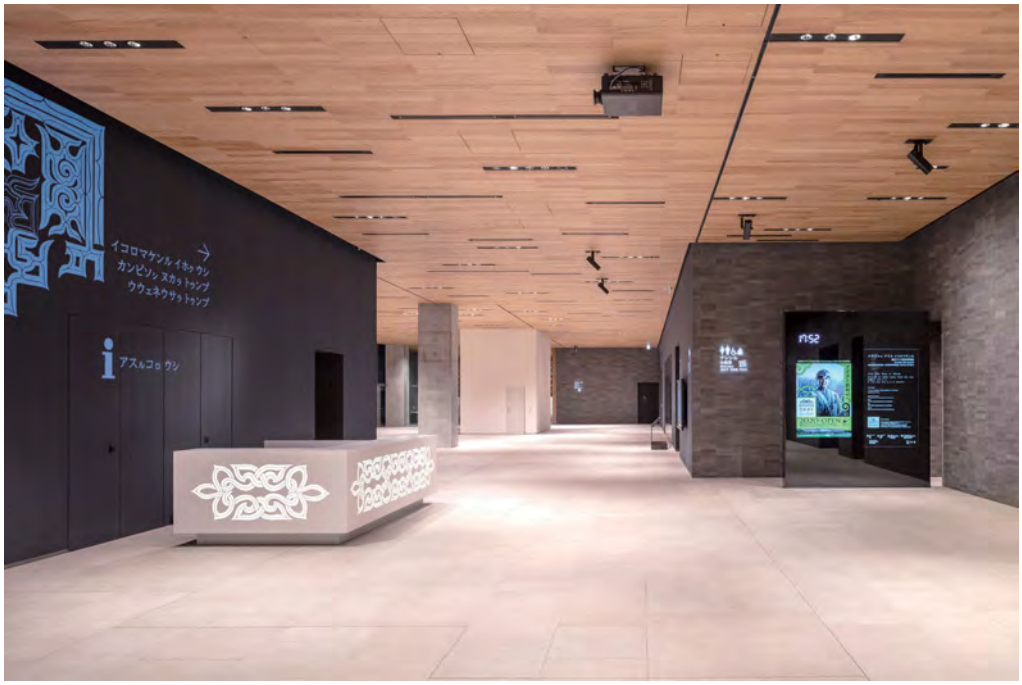
管理事務室、警備員室、休憩室、調査研究室、物品庫1、書庫、物品庫2、研修室、修復復元室、分析実験室、CT室、資料一時保管庫、燻蒸室、撮影室、梱包荷解室、トラックヤード、資料整備室、機械室

ここでは、そのうち主立った施設を紹介する。

III -04-01 1階来館者ゾーンの施設

アパ サム（エントランスロビー）

大勢の来館者を迎えるため、風除室を2重とすることで館内空気環境の安定と防虫対策を行った。また、2階の展示室に向かうエスカレーター等の交通部分を区画することで、さらなる防虫対策を行った。（国土交通省北海道開発局営繕部編『国立アイヌ民族博物館事業記録』2020年、p.76）



建物完成直後のエントランスロビー（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

エントランスロビーに入ると総合案内がお客様を迎え、壁面にはアイヌ語をはじめとした多言語による館内案内が映像で表示される。ロッカーやデジタルサイネージなどの設備も備えられている。2 階の展示室に向かう途中には、6 面マルチモニターによる「アイヌ文化ゆかりの地ガイド」があり、アイヌ民族のこれまでの歩みや、現代のアイヌ文化に触れられる場所を紹介する。

ミュージアムショップから 6 面マルチ画面方面への眺め

イノカヌカラ トゥンプ（シアター）

1階にはアイヌ文化を映像でわかりやすく紹介するシアターがある。

座席数96席、入場無料。アイヌ文化を大画面映像でわかりやすく紹介する。現在用意しているプログラムは2本で、どちらも上映時間は約20分である。映像プログラム「アイヌの歴史と文化」では、人類が日本列島にやってきてから現代までのアイヌ民族の歴史と文化についてわかりやすく解説する。また、映像プログラム「世界が注目したアイヌの技」では、18世紀以降、世界から高い注目を集め、ヨーロッパとアメリカの博物館に約1万点収蔵されているアイヌ民族資料について紹介する。

建物完成直後のシアター（両写真とも提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

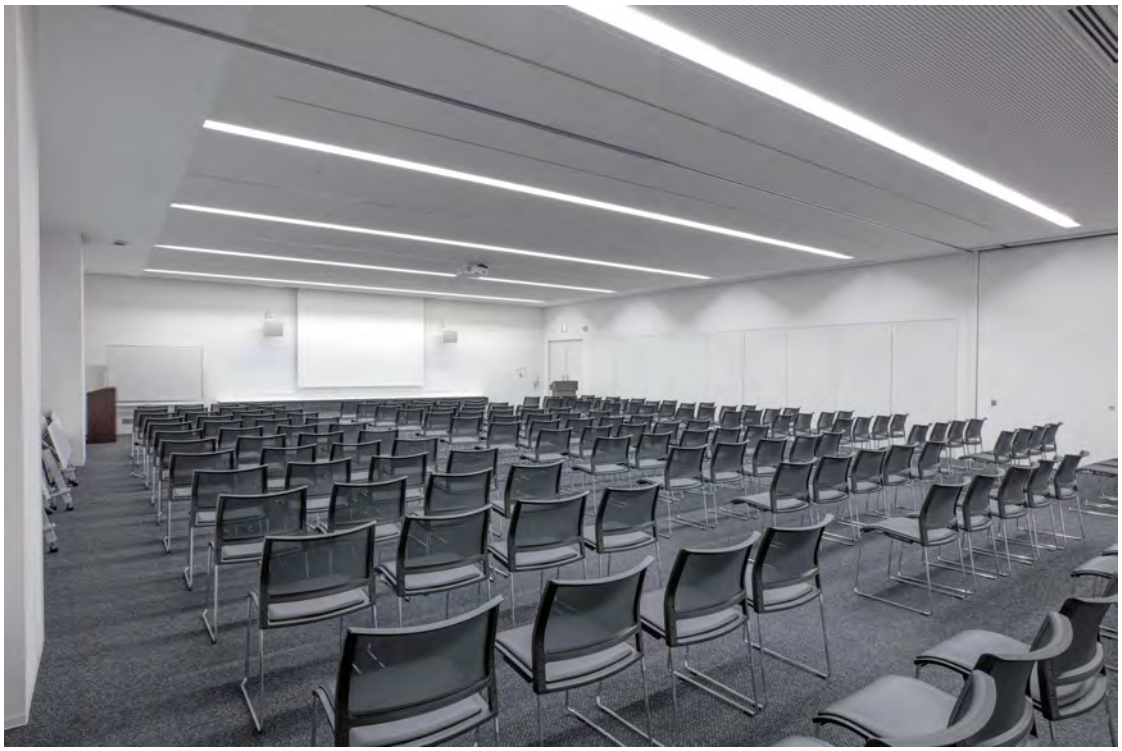
ウウェネウサラ トゥンプ（交流室）

館主催の教育普及事業や修学旅行での説明会（「はじめてのアイヌ博」）など来館者対応に利用する他、館の会議や研究集会、研修、ウポポイ全体での集会や会議など多目的に利用するためのスペース。スクリーン、プロジェクター、ホワイトボード、演台、マイク・スピーカーシステム、ビデオカメラなどプレゼンや会議に必要な装置を備える。

間仕切りによってＡとＢの区画に区切ることができる。

広さ：約 274 ㎡（交流室Ａ：約 186 ㎡、交流室Ｂ：約 88 ㎡）

最大収容人数　Ａ・Ｂ合わせて 169 名

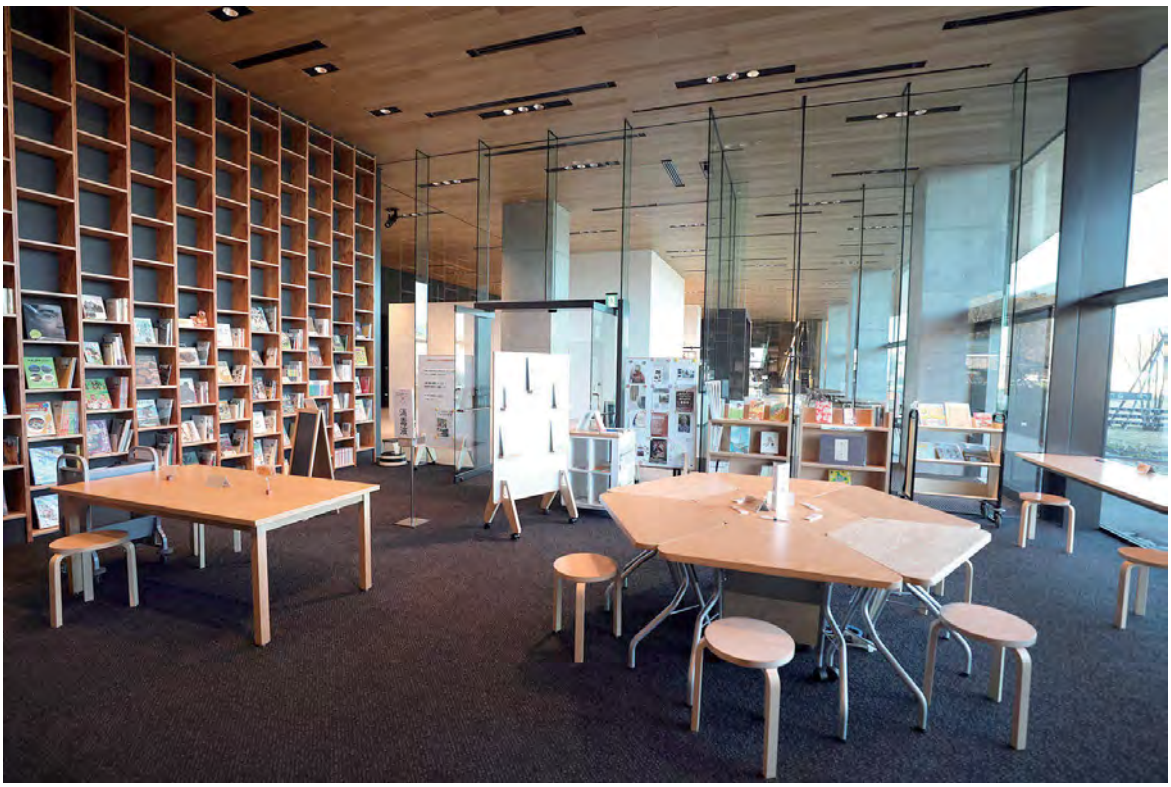


交流室

カンピソシ ヌカラ トゥンプ（ライブラリ）

アイヌに関する書籍を閲覧できるライブラリは、立ち寄りやすいようにガラスの間仕切りとし、室内の壁面には CLT で制作した棚を配置した（国土交通省北海道開発局営繕部編『国立アイヌ民族博物館事業記録』2020 年、p.76）。開館後は開架式図書室として、新型コロナウイルス感染症対策のため入室者数を制限しながら運用している。

建物完成直後のライブラリ（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）



ライブラリ内部

イコロマケンル イホㇰ ウシ（ミュージアムショップ）

1 階北側の湖に面した空間にミュージアムショップが設置されている。ここでは木彫、刺繍などのアイヌ工芸品の他、アイヌ文様をデザイン化した商品、アイヌ料理の缶詰・レトルト食品、アイヌの歴史と文化についての書籍などを販売している。また、コーヒー他の飲料も販売され、湖に面した席で軽い飲食も可能。

ミュージアムショップ

チエトゥン スウォㇷ゚ オマ トゥンプ（ロッカー室）

博物館内を快適に観覧できるよう、荷物を一時的に保管するコインロッカーを 180 基設置した（解錠時にコインは返還）。

ロッカー室

イカオイキ トゥンプ（救護室）

来館者の急な体調不良などに備え、来館者ゾーン内に救護室を設けた。2基のベッドと洗面台を備えており、体調不良の来館者が一時的に休憩できるようにしている。

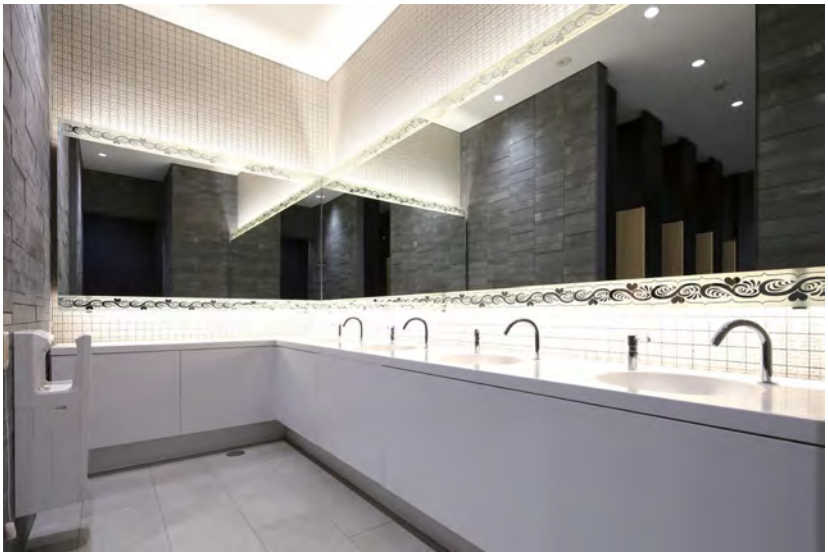
救護室

アシンル・セㇷ゚ アシンル（トイレ・多目的トイレ）

来館者ゾーンの1階と2階のトイレには必ず多目的トイレを設置し、障がいを持つ人だけでなく、様々なニーズを持つ人が利用できるようにした。

また、男女のトイレの手洗い場の鏡に津田命子氏デザインのアイヌ文様を図案化した模様を施し、トイレ空間に華やぎを持たせた。

多目的トイレ（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）



手洗い場の鏡のアイヌ文様（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

Ⅲ -04-02 1 階管理・運営ゾーンの施設

カンピヌイェ トゥンプ（調査研究室）

研究学芸部の研究員、学芸員が研究業務に従事する部屋である。広大な一間だが、中をブースで仕切り、研究に集中できる環境を整えている。打合せ用のブースとテーブル、研究員、学芸員がすぐに必要とする図書、資料等を収納する書棚、コピー・印刷機なども設置されている。

調査研究室に隣接して映像音響室が 3 室並び、また、各課、室の必要な書類等を収納するための物品庫も設けられている。

建物完成直後の調査研究室（写真提供：北海道開発局営繕部）

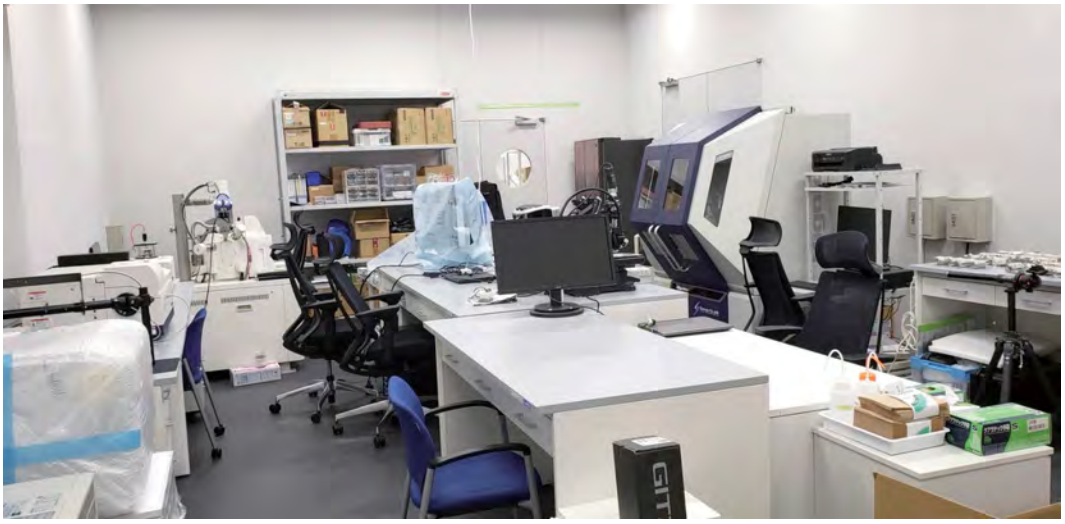
ヤイパカシヌ トゥンプ（研修室）

研修室は会議、打合せ、研究会、研修、資料熟覧など多目的に使える部屋である。食文化に関する研修もできるように水道、流し台、給湯設備も設けられている。また、ホワイトボードの他、モニター、マイクロフォン、スピーカーなどペーパーレスの会議やリモート会議、各種プレゼンにも対応できる設備も備えた。普段は机をロの字型に並べた会議形式の調度配置をしているが、用途に応じて机、椅子の並びは自由に変更できる。

研修室（左：窓方面、右：出入り口方面）

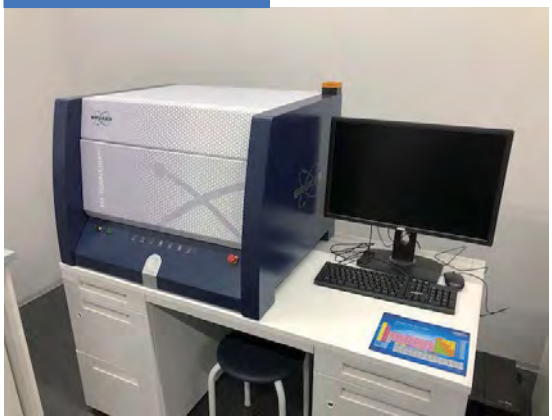
イコロ ウワンテ トゥンプ（分析調査室）

当館では収蔵資料の科学分析も調査研究の一環として重視しており、またその成果を展示に活用している。当館で使用する分析機器には、蛍光X線分析装置、携帯型蛍光X線分析装置、X線回折装置、走査電子顕微鏡、X線CT装置、レントゲン装置、デジタルマイクロスコープ、三次元蛍光分光分析装置、ハイパースペクトルカメラ、キセノン型耐候試験機、純水製造装置、恒温恒湿装置、恒温装置、真空凍結乾燥機、3D プリンタ、3D スキャナがある。



分析調査室

蛍光X線分析装置

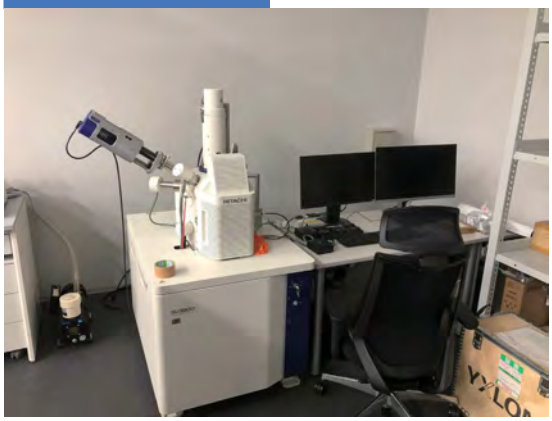


資料表面の元素分析を行う装置。アイヌ民族資料の中で、特に金属製品や絵画資料の調査に利用。鉄 (Fe) や銅 (Cu) の様に、資料を構成する元素分析から、利用された材料の調査を行う。

X線回折装置

資料表面の化合物を調べる装置。アイヌ民族資料の中で、特に金属製品の調査に利用。例えば、鉄を調査した場合、酸化鉄 (Fe_3O_4) か塩化鉄 ($FeCl_2$) など、化合物の情報が得られる。この情報を基に、劣化具合の判断や修復方法の検討を行う。

走査電子顕微鏡



資料表面を数万倍まで拡大し観察する装置。拡大面の元素分析も可能。アイヌ民族資料の脱落片（繊維片、漆片、金属片等）の調査から、素材の加工法等を観察する。

三次元蛍光分光分析

資料表面の光学情報を捉える装置。アイヌ民族資料中で、特に染色製品（衣類等）の調査に利用。退色や繊維の劣化の様子などを調査し、劣化診断やコンディション向上に関する検討を行う。

分析調査室・CT室の利用について

★導入した分析装置一覧

・内部構造調査装置

調達機器
X線CT装置
レントゲン装置

・表面等観察装置

調達機器
走査電子顕微鏡
電動型ズーム顕微鏡、実体顕微鏡
デジタルマイクロスコープ
3Dスキャナ（広域用・高精細用）
3Dプリンタ

・材質調査装置

調達機器
蛍光X線分析装置
携帯型蛍光X線分析装置
X線回折装置
三次元蛍光分光分析装置
ハイパースペクトルカメラ

・処置装置類

調達機器
恒温恒湿装置
恒温装置
真空凍結乾燥機
生物処理装置（二酸化炭素殺虫処理装置）
キセノン型耐候試験機

CT トゥンプ（CT 室）

当館には最新のコンピュータ断層撮影装置（X 線 CT）を備えた分析室がある。X 線の漏洩を防ぐため、壁、天井、床は鉛張りとなっている。

X 線断層撮影装置（CT）

X 線断層撮影装置（CT）の概要

資料内部を三次元的に観察できる装置。アイヌ民族資料の中でも立体物の調査に利用。非破壊で安全に資料構造の把握や内面加工の観察ができる。（2021 年度 /23 件調査）

機器寸法　左右幅：約 3760mm　総高：約 2900mm　奥行：約 980mm

撮影範囲　高さ：1400mm 程度　直径：600mm 程度

特　　徴　・アイヌ民族資料に合わせ装置性能を設計。

・金属製品等の資料を調査する高出力管球と、木製品等の細部を調査する管球を有する。

・画像検出器は、フラットパネルを使用。

イパカレ トゥンプ（燻蒸室）

博物館に搬入した直後の展示・収蔵資料には、文化財を劣化させる害虫が付着していたり内蔵していたりする場合がある。この部屋は、害虫や蛹、卵等の生物処理（二酸化炭素処理）を行うための部屋である。害虫の付着が見られない場合の経過観察でも使用する。ただし、カビの除去はこの装置ではできないため、アウトソーシングしている。

二酸化炭素処理装置

イノカ ウィ トゥンプ（撮影室）

展示図録や調査研究、資料管理等に使用するための写真を撮影する部屋。大型照明装置、資料の背景となるスクリーン、資料を置く机などが装備されている。また天井近くにはキャットウォークが設置されており、そこから床面に向かって真下に撮影することができる。

撮影室

III -05 2階の施設

2階の施設も1階と同様に一般来館者を迎え入れる「来館者ゾーン」と博物館のバックヤードである「管理・運営ゾーン」とに大別できる。

○ 来館者ゾーンの施設

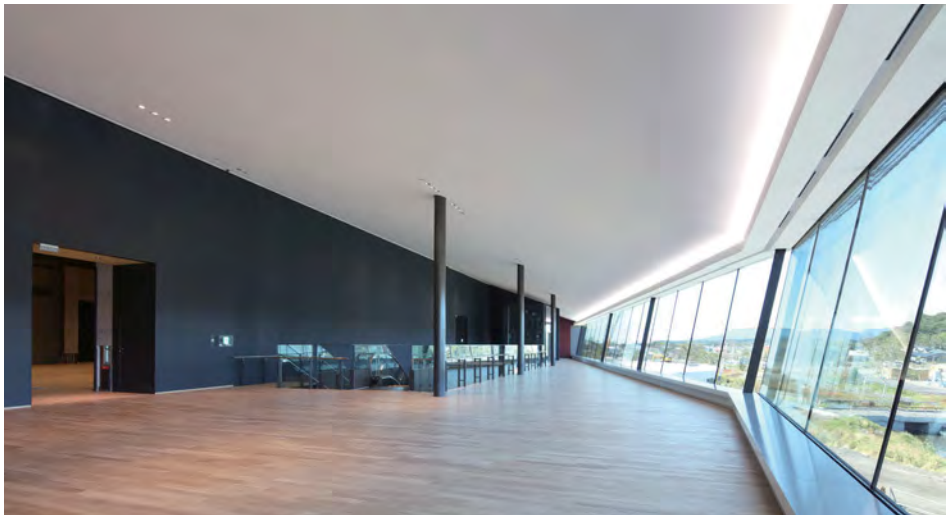
パノラミックロビー、基本展示室（導入展示、プラザ展示、6テーマの展示、探究展示　テンパテンパ）、特別展示室、トイレ、エレベーター、エスカレーター

○ 管理・運営ゾーンの施設

展示準備室、収蔵庫前室、一般収蔵庫、特別収蔵庫、館長室、応接室、機械室

III -05-01 来館者ゾーンの施設

インカラ ウシ（パノラミックロビー）



建物完成直後のパノラミックロビー（上：冬景色、下：基本展示室入口からの眺め）
（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

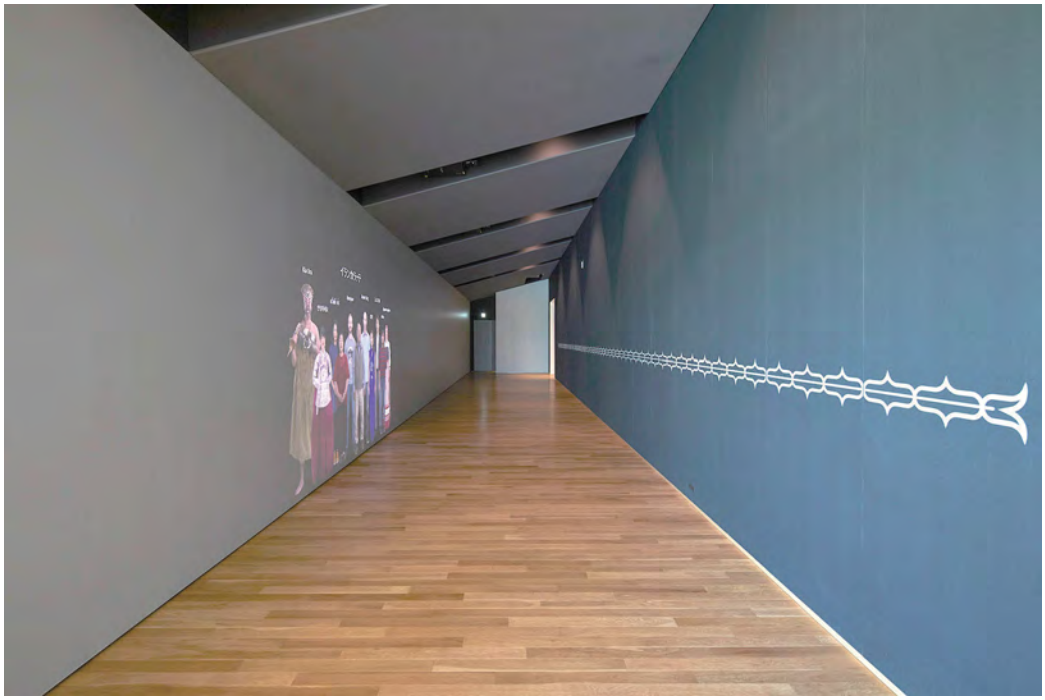
1階のエントランスロビーからエスカレーターで2階に上がると、まず目に飛び込むのはポロト湖の眺望とウポポイの全景である。それらを見渡すことができるこの大空間をパノラミックロビーと呼ぶことにしている。ここでは四季を通じてポロトの様々な姿を楽しむことができる。

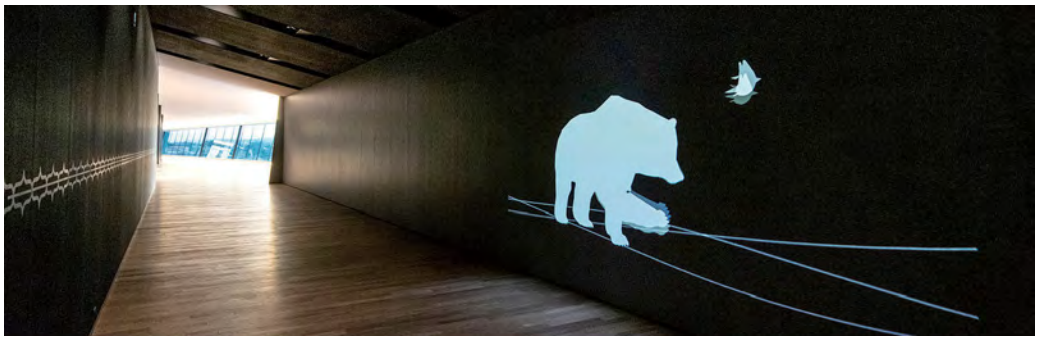
イコロ トゥンプ（基本展示室）

約1250㎡ある基本展示室に設置されている基本展示は導入展示、プラザ展示、アイヌの視点で描く6つのテーマ（ことば、世界、くらし、歴史、しごと、交流）、探究展示　テンパテンパから構成されている。

イアシケウㇰ（導入展示）

ポロト湖を望むパノラミックロビーを抜けると、導入展示が始まる。そこでは、明かりを落としたトンネル状の空間にアイヌ民族を含む世界の諸民族が自分たちのことばであいさつする。その中からアイヌの人々が抜け出して、自分たちの活動を紹介する。世界の民族と出会い、そのひとつの民族であるアイヌの人々が来館者を展示室へ誘う。





導入展示（上：展示場入り口方向、下：待機画面）

アエキルシ（プラザ展示）

この博物館の展示の魅力のひとつは、プラザ方式という中心から周辺へと自由に展示室を回れる構成である。基本展示室の中央に設置したプラザにはアイヌ文化の粋を集めた、芸術品としても高いレベルにある作品を展示して、それを見るだけでもアイヌ文化の概略とすぐれた芸術性を理解できるようにしている。そして、より詳しく知りたい人には周辺の個別の展示を見て理解を深めてもらう構成となっている。

プラザ展示全景

プラザ展示（イナウ）

プラザ展示（女性の装い）

イタㇰ（私たちのことば）

アイヌ語や口承文芸、地名やアイヌ語復興のための現在の取り組みを紹介する。資料の展示だけではなく、アイヌ語に親しめる空間にもなっている。いろり端に座っているような気分でアイヌ語の語りを聞くことができるコーナーの他、アイヌ語の仕組みや発音を、ゲームを通して知ることができるコンテンツや、地名や会話についての映像もある。

私たちのことば全景

私たちのことば（囲炉裏）

イノミ（私たちの世界）

アイヌ文化の中で重要な位置を占める精神文化を紹介する展示。ありとあらゆるものにラマッ（霊魂）が宿るという世界観、その中で特に人間（アイヌ）と深い関わりを持つカムイという存在などアイヌの精神世界についてグラフィックを交えて解説する。樺太のクマの霊送り儀礼でクマを繋ぐ高さ６ｍ余りの木の杭は当館で最大の展示物である。その周囲ではさまざまな儀礼に関わる諸道具を、使い方を含めて紹介する。

私たちの世界全景

私たちの世界（樺太アイヌのクマつなぎ杭）

ウレシパ（私たちのくらし）

装い・食・住まいをはじめ音楽や舞踊、子どもたちの遊びにも触れながら、くらしの文化について、道具や映像を通じて紹介する。衣服については、樹皮衣に使うオヒョウ樹皮の皮剥ぎから糸づくり、機織りまでを映像と織機類の実物で紹介する他、江戸時代以降に導入された木綿素材の衣服と刺繍についても展示する。また様々な食材と料理、伝統的な住居の構造、人の一生、伝統芸能、さらには伝承に携わる人々の取り組みなども映像や実物資料を交えて紹介する。

私たちのくらし全景

私たちのくらし（d.1 今に受け継ぐ衣服と心、d.2 受け継がれる食文化）

私たちのくらし（d.3 住まう）

ウパシクマ（私たちの歴史）

アイヌ民族が語り継ぎ、残してきた歴史と、周辺の民族が残したアイヌ民族の足跡を取り上げる。当館では北海道に人が移住してきた約 3 万年前から当館が開館する 2020 年までをアイヌ民族の歴史として、その視点で紹介する。上部壁面に事柄とそれに呼応する年代や地図が連動する年表が表示され、アイヌ民族の出来事を次々に紹介するとともに、展示ケースでは各時代をよく表す考古遺物や文書類、さらには実物資料を展示する。

私たちの歴史全景

私たちの歴史（e.1 遺跡から見た私たちの歴史）

私たちの歴史（e.3 私たちの生活が大きく変わる）

ネㇷゲキ（私たちのしごと）

アイヌ民族が過去から現在にわたって携わってきたしごとを取り上げる。前半は、狩猟・漁撈・農耕・採集など「伝統的」とされてきたしごとで使用された道具やその仕組みを紹介する。一年を通して行うしごとを検索するタッチパネルもある。後半では、明治以降に従事してきたしごとや工芸品を取り上げる。使う道具や作品などを通じて、現代のアイヌ民族の活動などを伝えるとともに、アイヌ民族が来館者と同じ時代を生きる人々であることを理解してもらう。

私たちのしごと全景

私たちのしごと（f.1 先祖のしごと）

私たちのしごと（f.3 現代のしごと）

ウコアㇷ゚カㇱ（私たちの交流）

アイヌ民族を取り巻く周辺諸民族との過去から現在にいたるまでの交流を紹介する。展示のシンボルの一つとして北海道厚岸湖出土の板綴舟（厚岸町所蔵）を展示する。そのために厚岸町でクリーニング作業を行い、白老町に輸送後、展示に向けて微細クリーニング・補強処理作業を実施した。また、「北海道」という名称の名付け親である松浦武四郎の事績を紹介するコーナーも設けている。

私たちの交流全景

私たちの交流（g.1 生活圏と海を越える交流）

私たちの交流（g.2 外からみたアイヌ文化、g.3 伝統を魅せる）

イケレウシ「テンパテンパ」（探究展示 テンパテンパ）

体験を通じてアイヌ文化にふれることができるコーナー。ジオラマ・住居模型・タマサイ（首飾）作りキット、サケとシカの立体パズルなど、18の体験ユニットがあり、大人も子どもも楽しめる。来館者には探究展示とまわりの6テーマ展示を行き来しながら、アイヌ文化への理解をさらに深めてもらうことをねらっている。（※「テンパテンパ」とは、「さわってね」という意味のアイヌ語。）

探究展示 テンパテンパ　t.1

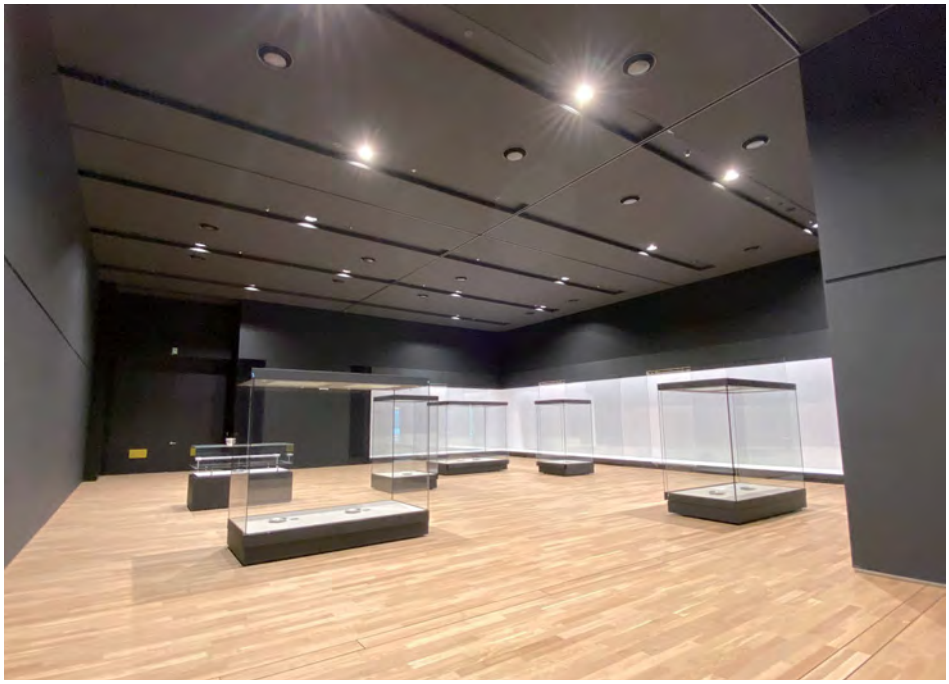
探究展示 テンパテンパ　t.2

探究展示 テンパテンパ　t.3

シサㇰ イコㇺ トゥンプ（特別展示室）

約 1000 ㎡ある特別展示室は、規模の異なる特別展示とテーマ展示を実施するために、可動壁によって複数の部屋に仕切ることができる。

2022 年度は開催順に、第 4 回特別展示：「CHIRI　MASHIHO　知里真志保　― アイヌ語研究にかけた熱意―」、第 5 回特別展示：「イコㇺ　ウエカリレ－アイヌ資料をコレクションする－」、第 3 回テーマ展示：「ウアイヌコㇺ　コタン　アカㇲ－民族共生象徴空間（ウポポイ）のことばと歴史－」、第 4 回テーマ展示：「地域からみたアイヌ文化展　アカント　ウン　コタン－阿寒湖畔のアイヌ文化－」を実施した。



特別展示室

特別展示室

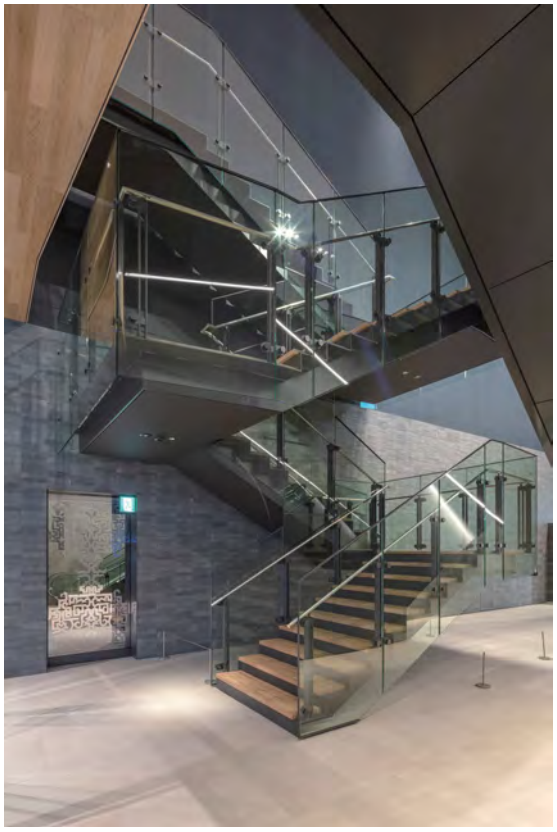
アシンル（トイレ）

来館者ゾーンの１階と２階のトイレには必ず多目的トイレを設置し、障がいを持つ人だけでなく、様々なニーズを持つ人が利用できるようにした。また、男女のトイレの手洗い場の鏡に津田命子氏デザインのアイヌ文様を図案化した模様を施し、トイレ空間に華やぎを持たせた。

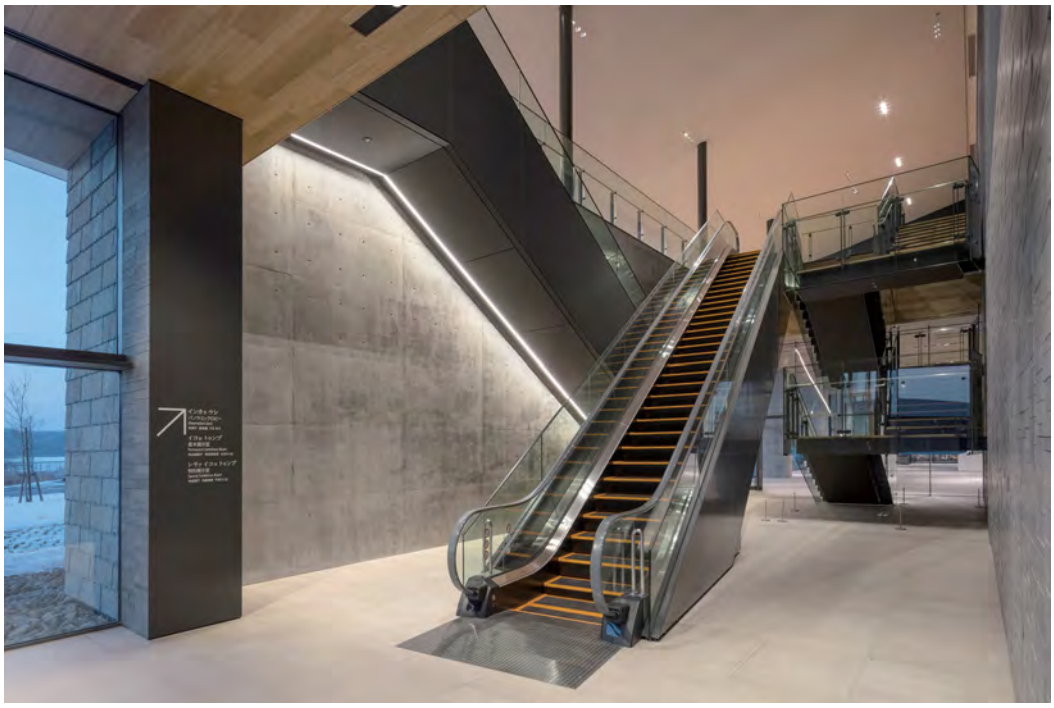
２階トイレ洗面台（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

ニカㇲ、トゥシエリキンペ、シモイェニカㇲ（階段、エレベーター、エスカレーター）

１階ロビーから展示室へと向かう扉の向こうに広がる吹き抜けに、エレベーター、エスカレーター、階段が設置され、１階と２階とをつないでいる。エレベーターには内部に手すりが設けられ、日英のアナウンスが流れ、点字表示がなされている。



階段（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）



エスカレーター（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

エレベーター（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

Ⅲ -05-02 管理・運営ゾーンの施設

イコロ プ（収蔵庫）

当館の収蔵庫は、収蔵庫前室、一般収蔵庫、特別収蔵庫からなる。

収蔵品は、着物、木製品、植物を利用した民具、動物の皮類、金属・石、絵画類、はく製、漆器類など多種多様である。そうした資料たちは、民具等の立体の資料から絵画等の平面の資料というように、多岐にわたる形状を有している。そこで、効率よく安全に収蔵して保管するために特注寸法の収蔵棚を設置した。

また、東北地方太平洋沖地震や北海道胆振東部地震等の災害例を踏まえ、収蔵棚の本体構造は地震等による縦横の揺れが発生した場合でも容易に倒れないものとなっている。

収蔵庫前室、一般収蔵庫、特別収蔵庫ともに、24 時間空調で温度 20 ～ 22℃、湿度 55%を維持することを目標としている。ただし、特別収蔵庫は漆器類を保管しているため、55%よりも若干高めに設定している。

将来的な収蔵資料の増加に備え、メザニン増設も可能な作りになっている。

イコロ プ セム（収蔵庫前室）

一般収蔵庫や特別収蔵庫が直接バックヤードに面しないための緩衝の役割を果たすとともに、計測器具、薄葉紙、マット等を収納しておくための部屋。資料情報の入力作業や簡易な資料調査も行うことが可能。

収蔵庫前室

イコロ プ（一般収蔵庫）

衣類、木製品、植物を利用した民具、動物の皮類、金属・石、絵画類、はく製、舟といった大型資料を収蔵している。

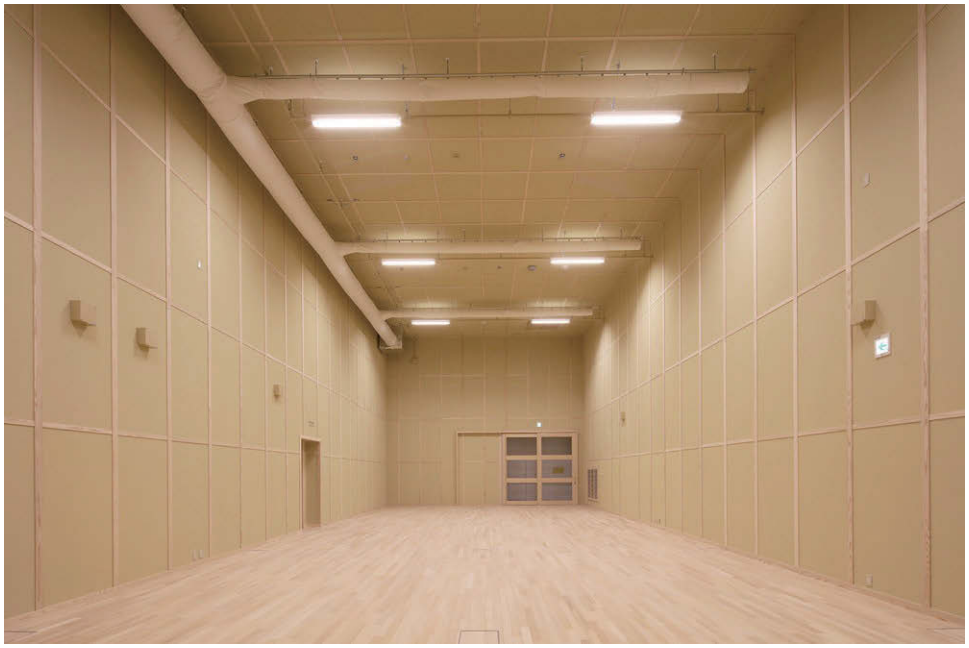
一般収蔵庫全景（右側に舟を収納する棚）

イナウのような民具を立てて収納するための移動集密棚

棚上部には、資料落下防止対策として引き戸を備えている

シサク イコロ プ（特別収蔵庫）

素材により最適な温湿度条件が異なるため、特別収蔵庫にはシントコやトゥキといった漆器類を収蔵している。



特別収蔵庫（棚設置前、写真提供：久米設計）

特別収蔵庫全景

サパネクル トゥンプ（館長室）

館長の執務用のデスクと椅子、書類棚、給湯施設、少人数での打合せのためのテーブルと椅子が設置されている。ここでは4人までの打合せが可能。

館長室

ウエカプ トゥンプ（応接室）

内外の賓客等を迎え入れることが可能な応接室。テーブル２脚と椅子８脚が設置され、最大８人での会合が可能。専用のトイレも完備されている。

応接室

応接室

Ⅳ　2022（令和 4）年度事業

Ⅳ -01　2022（令和 4）年度主要事項

2022 年

（3 月 15 日）

第 2 回テーマ展示：「地域からみたアイヌ文化展　白老の衣服文化」開幕（会期：2022 年 3 月 15 日～ 5 月 15 日）

4 月 2 日

相田俊一北海道環境生活部アイヌ政策監視察

4 月 10 日

岩渕友参議院議員視察

4 月 16 日

ホリデーイベント きいてみよう！「白老の衣服文化」①

4 月 30 日

ホリデーイベント きいてみよう！「白老の衣服文化」②

5 月 4 日

ホリデーイベント 講演会「白老の衣服文化」

5 月 7 日

ホリデーイベント きいてみよう！「白老の衣服文化」③

5 月 8 日

松野博一内閣官房長官視察

5 月 28 日～ 29 日

ホリデーイベント「動物の毛皮に触ってみよう―アイヌ民族と北方民族の毛皮利用を知る・触る」

6 月 9 日

フランス共和国　フィリップ・セトン（Philippe Setton）大使来館

6 月 17 日

谷内正太郎元国家安全保障局長・元外務事務次官視察

6 月 23 日

石田優国土交通審議官視察

6 月 25 日

第 4 回特別展示：「CHIRI　MASHIHO　知里真志保　― アイヌ語研究にかけた熱意―」開幕（会期：2022 年 6 月 25 日～ 8 月 21 日）

ホリデーイベント ギャラリートーク「知里真志保の調査と研究について」

7月2日
ホリデーイベント ギャラリートーク「知里真志保のことばの分析」
7月12日
渡辺猛之国土交通副大臣視察
7月13日
オランダ王国　教育文化科学省文化遺産庁（オランダ王国大使館）ジンナ・スミット（Jinna Smit）氏来館
7月16日
ホリデーイベント 講演会「知里真志保と久保寺逸彦 ― アイヌ（の）文学 ―」
7月16日～18日
ウポポイ2周年特別イベント　開催
7月17日
ホリデーイベント 講演会「言語学からみた知里真志保の業績 ― アイヌ語の「動詞価」をめぐって ―」
7月18日
ホリデーイベント 講演会「知里真志保の生涯 ― まわりの人々・登別での地名調査 ―」
7月21日
高橋はるみ文部科学大臣政務官視察
7月23日
ホリデーイベント「植物と暮らし紹介～コタンの樹木案内」第4回特別展示知里真志保展拡大版①
7月24日
ホリデーイベント「植物と暮らし紹介～コタンの樹木案内」第4回特別展示知里真志保展拡大版②
7月28日
武笠圭志法務省訟務局長視察
7月29日
吉井浩内閣官房アイヌ総合政策室長視察
7月30日
ホリデーイベント 講演会「知里真志保が考えたこと　― 高校時代の日記からアイヌ文化史へ ―」
8月9日
宮路拓馬内閣府大臣政務官視察
8月11日
ホリデーイベント 講演会「知里真志保の調査・研究の足跡」
8月13日
ホリデーイベント 夏休みの子ども向けイベント「言語学者になってみよう」①
8月14日
ホリデーイベント 夏休みの子ども向けイベント「言語学者になってみよう」②
8月20日
ホリデーイベント ギャラリートーク「知里真志保を描くウタリ」
9月8日
アイヌ政策推進北海道議会議員連盟視察

9 月 17 日

第 5 回特別展示：「イコロ　ウエカリレ－アイヌ資料をコレクションする－」開幕（会期：2022 年 9 月 17 日～ 11 月 20 日）

開会記念講演会「日本最初の文部省博覧会とそのコレクターたち」

9 月 22 日

ドイツ連邦共和国クレーメンス・フォン・ゲッツェ（Dr. Clemens von Goetze）大使来館

9 月 23 日

ホリデーイベント ギャラリートーク ①

10 月 1 日

ホリデーイベント 講演会「海外アイヌ・コレクションから見えること」

10 月 8 日

ホリデーイベント ギャラリートーク ②

10 月 14 日

米国 ジョン・ナイリン (John Nylin) 政治担当公使来館

10 月 15 日

高円宮妃殿下視察

ホリデーイベント バックヤードツアー ①

10 月 23 日

ホリデーイベント ギャラリートーク ③

10 月 26 日

花角英世新潟県知事視察

11 月 3 日

ウポポイ無料開放 DAY

見て・聞いて・学ぼう！“アイヌ文化”開催

ホリデーイベント ギャラリートーク ④

11 月 5 日

ホリデーイベント シンポジウム「アイヌ資料をコレクションすることを考える」

11 月 10 日

豪州ピーター・ロバーツ（Peter Roberts）臨時代理大使来館

11 月 12 日

ホリデーイベント バックヤードツアー ②

11 月 19 日

ホリデーイベント ギャラリートーク ⑤

12 月 13 日

第 3 回テーマ展示：「ウアイヌコロ　コタン　アカㇲ－民族共生象徴空間（ウポポイ）のことばと歴史－」開幕（2022 年 12 月 13 日～ 2023 年 2 月 12 日）

12 月 18 日

ホリデーイベント オープニングイベント「ギャラリートークと、みんなでウポポ」

12 月 24 日

ホリデーイベント ギャラリートーク「サパネクㇽとめぐる「ウアイヌコロ コタン アカㇲ」展」

2023 年

1 月 15 日

ホリデーイベント トークイベント「国立アイヌ民族博物館の建物ができるまで」

1 月 28 日

ホリデーイベント ワークショップ「博物館のアイヌ語表示を探してみよう！」①

2 月 3 日

英国　ヘレン・スミス（Helen Smith ACMA, CGMA）首席公使来館

2 月 5 日

ホリデーイベント ワークショップ「博物館のアイヌ語表示を探してみよう！」②

2 月 11 日

ホリデーイベント トークイベント「博物館設立準備室の試み」

3 月 14 日

第 4 回テーマ展示：「地域からみたアイヌ文化展　アカント　ウン　コタン－阿寒湖畔のアイヌ文化－」開幕（2023 年 3 月 14 日～ 5 月 14 日）

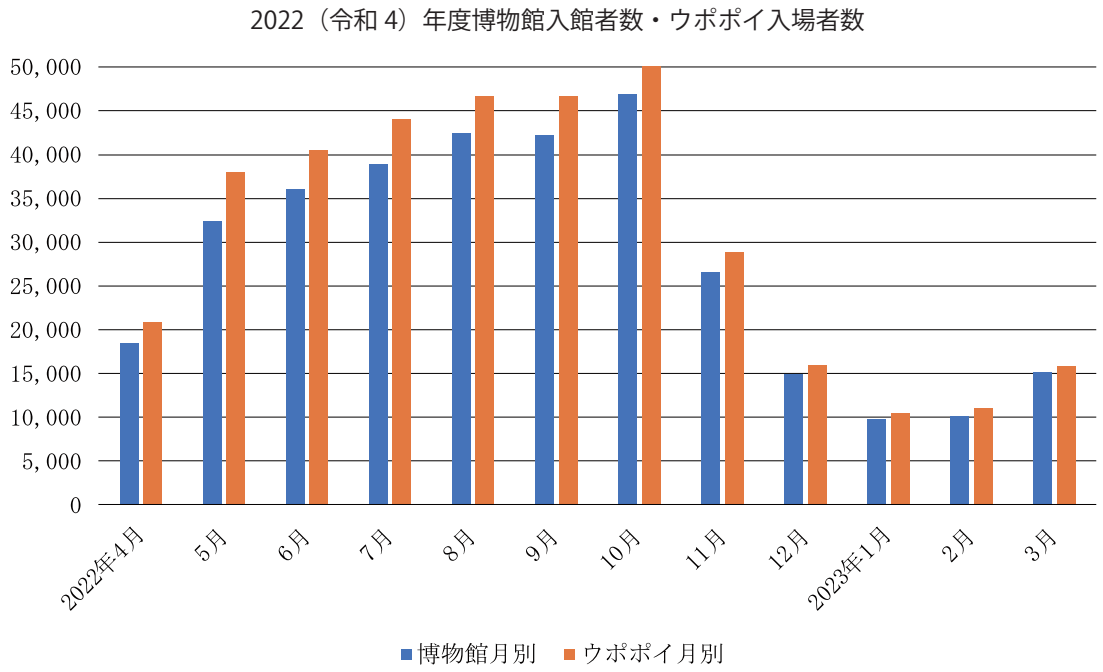
Ⅳ -02　入館者数（月別）

2022 年

	博物館月別	博物館累計	ウポポイ月別	ウポポイ累計
4 月	18,519	18,519	20,795	20,795
5 月	32,509	51,208	38,241	59,036
6 月	35,999	87,027	40,405	99,441
7 月	38,798	125,825	44,150	143,591
8 月	42,363	168,188	46,289	189,880
9 月	42,100	210,288	46,265	236,145
10 月	46,804	257,092	50,061	286,206
11 月	26,746	283,838	28,551	314,757
12 月	14,969	298,807	16,057	330,814

2023 年

1 月	9,799	308,606	10,684	341,498
2 月	10,128	318,734	11,435	352,933
3 月	15,110	333,844	16,105	369,038



Ⅳ -03　展示

Ⅳ -03-01 特別展示の企画立案・計画策定、開催

1) 第 4 回特別展示：「CHIRI　MASHIHO　知里真志保　―アイヌ語研究にかけた熱意―」

下記のとおり実施した。

後援者名	北海道、北海道教育委員会、公益社団法人北海道アイヌ協会
実施会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実施期間	2022 年 6 月 25 日（土）～ 2022 年 8 月 21 日（日）[58 日間]
入場者数	9,027 名
入場料金	大人 300 円　高校生 200 円　中学生以下無料（ウポポイ入園料は別途）

概要

当展覧会では、北海道南部、現在の登別市でアイヌの首長の家系に生まれた言語学者、民族学者である知里真志保（ちりましほ：1909.2.24-1961.6.9）について、アイヌ語やアイヌ口承文芸、アイヌ文化研究で彼に関わりのあった人びとを取り上げ、研究の道のりをたどり、今に受け継がれる彼の研究をふりかえった。

事業内容	出品協力及び展示数：旭川市博物館、帯広百年記念館、掛川源一郎写真委員会、神奈川大学日本常民文化研究所、公益財団法人千里文化財団、国立民族学博物館、渋沢史料館、仙台藩白老元陣屋資料館、知里幸恵 銀のしずく記念館、弟子屈町図書館、登別アイヌ協会、登別市郷土資料館、北海道大学アイヌ・先住民研究センター、北海道博物館、北海道立図書館、北海道立文学館、北海道立北方民族博物館、幕別町教育委員会、盛岡市先人記念館 約161点
	関連事業： ・当館職員によるギャラリートーク「知里真志保の調査と研究について」(2022年6月25日（土)) ・当館職員によるギャラリートーク「知里真志保のことばの分析」(2022年7月2日（土)) ・講演会「知里真志保と久保寺逸彦 ―アイヌ（の）文学 ―」(2022年7月16日（土)) ・講演会「言語学からみた知里真志保の業績 ― アイヌ語の「動詞価」をめぐって ―」(2022年7月17日（日)) ・講演会「知里真志保の生涯 ― まわりの人々・登別での地名調査 ―」(2022年7月18日（月・祝)) ・ホリデーイベント 「植物と暮らし紹介～コタンの樹木案内」第4回特別展示知里真志保展拡大版（2022年7月23日（土)、24日（日)) ・講演会「知里真志保が考えたこと ― 高校時代の日記からアイヌ文化史へ ―」(2022年7月30日（土)) ・講演会「知里真志保の調査・研究の足跡」(2022年8月11日（木・祝)) ・夏休みの子ども向けイベント「言語学者になってみよう」(2022年8月13日（土)、14日（日)) ・当館職員によるギャラリートーク「知里真志保を描くウタリ」(2022年8月20日（土))
事業成果	当展覧会では、知里真志保の没後60年を振り返り、アイヌ語やアイヌ口承文芸、アイヌ文化研究で彼に関わりのあった人びとを取り上げ、研究の道のりをたどり、今に受け継がれる彼の研究を紹介した。知里が遺したアイヌ語辞典や調査資料から、言語学、口承文芸、民族学、歴史学研究など多岐にわたり与えた影響について広く紹介する展示となった。
担当者	田村将人、小林美紀、赤田昌倫、深澤美香、マーク・ウィンチェスター、是澤櫻子、長谷仁美、シン ウォンジ

第 4 回特別展示：「CHIRI　MASHIHO　知里真志保　― アイヌ語研究にかけた熱意―」

第 4 回特別展示：「CHIRI　MASHIHO　知里真志保　― アイヌ語研究にかけた熱意―」

第４回特別展示：「CHIRI　MASHIHO　知里真志保　―アイヌ語研究にかけた熱意―」

第４回特別展示：「CHIRI　MASHIHO　知里真志保　―アイヌ語研究にかけた熱意―」

2) 第 5 回特別展示 「イコㇿ　ウエカリレ－アイヌ資料をコレクションする－」

下記のとおり実施した。

後援者名	北海道、北海道教育委員会、公益社団法人北海道アイヌ協会
実施会場 実施期間	国立アイヌ民族博物館 特別展示室 2022 年 9 月 17 日（土）～ 2022 年 11 月 20 日（日）[65 日間]
入場者数	17,232 名
入場料金	大人 300 円　高校生 200 円　中学生以下無料（ウポポイ入園料は別途）

概要

当展覧会では、アイヌ資料をコレクションしてきた人物や組織等（以下、コレクター）に焦点を当て、アイヌ民族の文化や歴史をあらわす素材として機能する資料、いわゆる「アイヌ資料」がコレクションされてきた過程を 3 つの時代に区分しその変遷を展示した。また、コレクターが集めたアイヌ・コレクション以外の資料も展示対象とすることで、コレクションされた同時代の動きにも目を向け「アイヌ資料」との相対化を図った。

事業内容	出品協力及び展示数：九州国立博物館、国立民族学博物館、東京国立博物館、天理大学附属天理参考館、東北大学大学院文学研究科、東北大学附属図書館、北海道大学植物園・博物館、北海道大学附属図書館、北海道立文書館、東北歴史博物館、広島県立歴史博物館、石巻市教育委員会、市立函館博物館、根室市歴史と自然の資料館、松浦武四郎記念館、平取町二風谷アイヌ文化博物館、別海町加賀家文書館、幕別町教育委員会、川村カ子トアイヌ記念館、萱野茂二風谷アイヌ資料館、松浦史料博物館　約 500 点
	関連事業： ・開会記念講演会「日本最初の文部省博覧会とそのコレクターたち」(2022 年 9 月 17 日（土)) ・ギャラリートーク［1］(2022 年 9 月 23 日（金祝)) ・講演会「海外アイヌ・コレクションから見えること」(2022 年 10 月 1 日（土)) ・ギャラリートーク［2］(2022 年 10 月 8 日（土)) ・バックヤードツアー（2022 年 10 月 15 日（土)) ・ギャラリートーク［3］(2022 年 10 月 23 日（日)) ・ギャラリートーク［4］(2022 年 11 月 3 日（木祝)) ・シンポジウム「アイヌ資料をコレクションすることを考える」(2022 年 11 月 5 日(土)) ・バックヤードツアー（2022 年 11 月 12 日（土)) ・ギャラリートーク［5］(2022 年 11 月 19 日（土))
事業成果	当展覧会では、「アイヌ資料」がコレクションされてきた過程を 3 つの時代に区分しその変遷を展示することで、各時代のコレクターが「アイヌ資料」から何をみてきたのかを明らかにすることを試みた。また、コレクションされた同時代の動きにも目を向け「アイヌ資料」との相対化を図るという新たな視点からアイヌ・コレクションを広く紹介する展示となった。
担当者	藪中剛司、鈴木建治、関口由彦、宮地鼓、大江克己、竹内隼人、古田嶋智子、是澤櫻子、今野彩 内田祐一、永野正宏（文化庁）

第５回特別展示：「イコロ　ウエカリレ－アイヌ資料をコレクションする－」

第５回特別展示：「イコロ　ウエカリレ－アイヌ資料をコレクションする－」

第 5 回特別展示：「イコㅁ　ウエカリレ－アイヌ資料をコレクションする－」

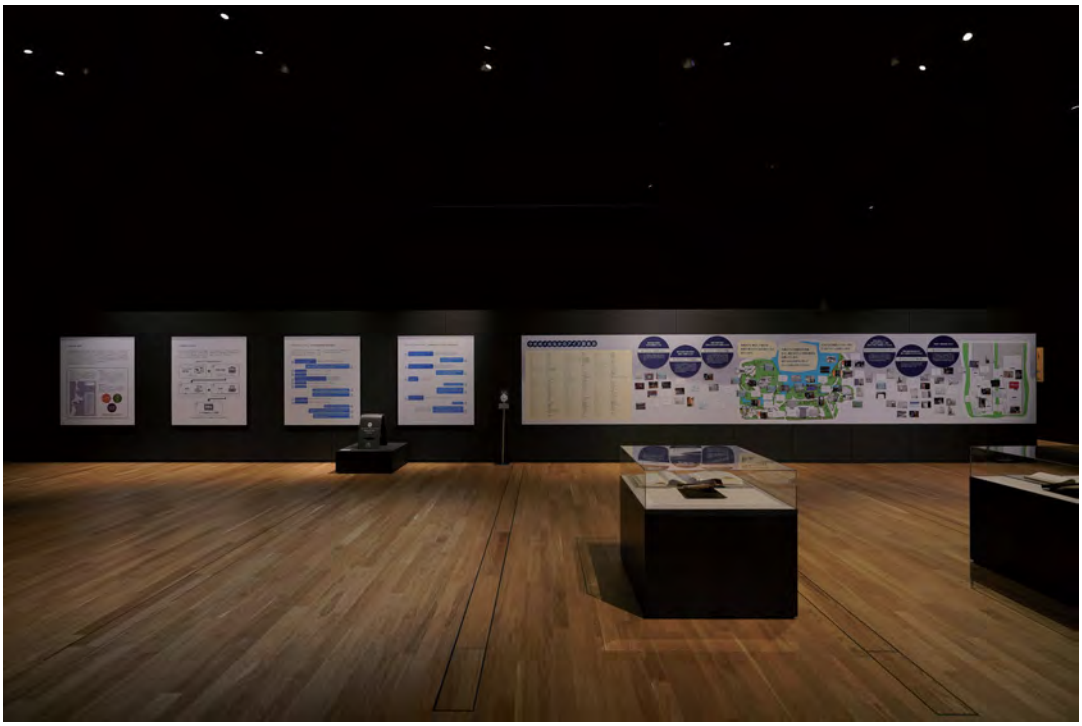
第 5 回特別展示：「イコㅁ　ウエカリレ－アイヌ資料をコレクションする－」

Ⅳ -03-02 交流展示及びテーマ展示の立案・計画策定、開催

1) 第3回テーマ展示：「ウアイヌコロ　コタン　アカラ－民族共生象徴空間（ウポポイ）のことばと歴史－」

下記のとおり実施した。

後　　援	北海道、北海道教育委員会、公益社団法人北海道アイヌ協会、一般社団法人白老アイヌ協会
協　　力	白老町、白老町教育委員会
実施会場 実施期間	国立アイヌ民族博物館　特別展示室 2022年12月13日（火）～2023年2月12日（日）[62日間]
入場者数	17,775名
入場料金	無料
事業内容	関連事業： ・オープニングイベント「ギャラリートークと、みんなでウポポ」(2022年12月18日（日)) ・ギャラリートーク「サパネクルとめぐる「ウアイヌコロ コタン アカラ」展」(2022年12月24日（土)) ・トークイベント「国立アイヌ民族博物館の建物ができるまで」(2023年1月15日（日)) ・ワークショップ「博物館のアイヌ語表示を探してみよう！」①（2023年1月28日（土)) ・ワークショップ「博物館のアイヌ語表示を探してみよう！」②（2023年2月5日（日)) ・トークイベント「博物館設立準備室の試み」(2023年2月11日（土・祝))
事業成果	当展覧会では、ウポポイ設立に至る歴史的な経緯とともに、所在する場の歴史を展示することによって、ウポポイの設立経緯や意義について紹介した。また、2009年にユネスコにより「消滅の危機にある言語」とされたアイヌ語について、当館において第一言語とし、解説文や案内表示などでアイヌ語による表示を行っていることについて広く紹介することで、当館及びウポポイの理解を促進する展示となった。
担　当　者	立石信一、笹木一義、佐々木史郎、小林美紀、奥山英登、永石理恵、野本正博 内田祐一（文化庁）



第 3 回テーマ展示：「ウアイヌコㄹ　コタン　アカㄅ－民族共生象徴空間（ウポポイ）のことばと歴史－」

第 3 回テーマ展示：「ウアイヌコㄹ　コタン　アカㄅ－民族共生象徴空間（ウポポイ）のことばと歴史－」

2) 第4回テーマ展示「地域からみたアイヌ文化展　アカント ウン コタン －阿寒湖畔のアイヌ文化－」

下記のとおり実施した。

協　　力	阿寒アイヌ協会、阿寒アイヌ工芸協同組合、阿寒アイヌ民族文化保存会、一般社団法人阿寒アイヌコンサルン、環境省阿寒摩周国立公園管理事務所、釧路市阿寒湖アイヌ施策推進室、釧路市産業振興部阿寒観光振興課、釧路市中央図書館、阿寒アドベンチャーツーリズム株式会社、一般財団法人前田一歩園財団、NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構、鶴雅ホールディングス株式会社
実施会場 実施期間	国立アイヌ民族博物館　特別展示室 2023年3月14日（火）～2023年5月14日（日）［62日間］
入場者数	40,732名
入場料金	無料
事業内容	関連事業： ・オープニングイベント「阿寒湖アイヌコタンの“今”と“昔”を語る」(2023年4月1日（土)) ・「アイヌ語のおはなしを聴いてみよう！」(2023年4月2日（日)) ・ギャラリートーク 第5章「ことば」(2023年5月3日（水・祝)) ・ギャラリートーク 第6章「観光」(2023年5月7日（日)) ・スペシャルトークイベント（2023年5月13日（土)、2023年5月14日（日))
事業成果	当展覧会では、阿寒湖畔に暮らすアイヌ民族やそれに携わる人たちの歴史やアイヌ工芸、芸能について紹介した。また、過去から現在までの伝承活動や新しい取り組みに注目し、今後シリーズ化される展覧会「地域からみたアイヌ文化展」の第1弾として、各地のアイヌ文化の違いの理解を促進する展示となった。
担当者	北嶋由紀、関口由彦、カサド・パルド・ケラール、霜村紀子、中井貴規、長谷仁美、深澤美香、両角佑子、矢崎春菜 内田祐一（文化庁）

第4回テーマ展示「地域からみたアイヌ文化展　アカント ウン コタン －阿寒湖畔のアイヌ文化－」

第 4 回テーマ展示「地域からみたアイヌ文化展　アカント ウン コタン －阿寒湖畔のアイヌ文化－」

Ⅳ -03-03 2023（令和 5）年度の特別展示及びテーマ展示の立案・計画策定、準備

・第 6 回特別展示：「“アウタリオピッタ” ― アイヌ文学の近代－バチラー八重子、違星北斗、森竹竹市－」を下記のとおり実施する。

実 施 会 場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実 施 期 間	2023 年 6 月 24 日（土）～ 2023 年 8 月 20 日（日）［58 日間］

・第 7 回特別展示：「アイヌ史展　文化からみる」（仮称）を下記のとおり実施する。

実 施 会 場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実 施 期 間	2023 年 9 月 16 日（土）～ 2023 年 11 月 19 日（日）［65 日間］

・第 5 回テーマ展示：「ウポポイにあるもの」（仮称）を下記のとおり開催する。

実 施 会 場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実 施 期 間	2023 年 12 月 16 日（土）～ 2024 年 2 月 12 日（月）［59 日間］

・第 6 回テーマ展示：「マール」（仮称）を下記のとおり開催する。

実 施 会 場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実 施 期 間	2024 年 3 月 16 日（土）～ 2024 年 5 月 12 日（日）［58 日間］

Ⅳ -03-04 展示関連の解説書・図録等の企画及び編集、発行

第４回および第５回特別展、第４回テーマ展のパンフレットを作成し、特別展示室にて無料配布した。また、これらのパンフレットを、国内の博物館、図書館等の関係諸機関、さらに展示協力者等に発送した。

また、第３回テーマ展示「ウアイヌコロ　コタン　アカラ　－民族共生象徴空間（ウポポイ）のことばと歴史－」については関連書籍を刊行した。

パンフレット３種

『ウアイヌコロ　コタン　アカラ　ウポポイのことばと歴史』（国立アイヌ民族博物館編，2023）

Ⅳ -04　調査研究

Ⅳ -04-01 調査研究事業

1. 調査研究プロジェクト

アイヌの歴史と文化に関する調査研究及び博物館機能強化を目的とした調査研究を 9 件（A 基幹研究 8 件、B 個別研究は昨年度より継続 1 件）実施した。C は成果を国内外に発表（論文投稿や学会等での研究発表等）するための支援（C 成果発表支援）へと枠組みの変更を行い、9 件の計 18 件のプロジェクトを実施した。プロジェクトは下記の一覧の通りである。

2022（令和4）年度調査研究プロジェクト課題一覧

課題番号	調査研究課題名	専門G	代表者	メンバー	メンバー（外部）
A 基幹研究					
2021A01	博物館利用者ならびに、国立アイヌ民族博物館基本展示の展示観覧行動と展示評価に関する研究	教育	笹木一義	奥山英登、シン ウォンジ	佐藤優香（東京大学）
2021A02	芸能の持続的な継承と発展に関する研究：保存会の実態調査と担い手の人材育成	言語儀礼芸能	押野朱美、谷地田未緒		野本正博（アイヌ民族文化財団）、山道ヒビキ（アイヌ民族文化財団）、甲地利恵（北海道博物館）
2021A03	アイヌ語資料等のアーカイブ化とその活用に関する基礎研究	言語儀礼芸能	小林美紀	深澤美香、矢崎春菜、中井貴規	荒田このみ（アイヌ民族文化財団）、山丸賢雄（アイヌ民族文化財団）、山道ヒビキ（アイヌ民族文化財団）
2021A04	アイヌ民具と技術伝承に関する研究	物質文化	北嶋由紀	藪中剛司、八幡巴絵、宮地鼓、竹内隼人、鈴木建治、長谷仁美、両角佑子	
2021A05	アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究	文化財科学	大江克己	赤田昌倫、古田嶋智子、霜村紀子、中井貴規、八幡巴絵	呂俊民（文化財虫菌害研究所）
2021A06	近現代アイヌ民族史（誌）と博物館展示をめぐる実証的研究	歴史社会	田村将人	立石信一、関口由彦、マーク ウィンチェスター、是澤櫻子	内田順子（国立歴史民俗博物館）、山崎幸治（北海道大学）
2021A07	チャシの形成に関する考古学的研究	歴史社会	藪中剛司	鈴木建治、大江克己	小田島賢（厚岸町教育委員会）
2022A01	17 ～ 19 世紀の蝦夷地像に係る図像史料等の基礎的調査	歴史社会	霜村紀子	劉高力、シン ウォンジ、深澤美香	
B 個別研究（昨年度より継続分、新規募集はなし）					
2021B01	視覚障害者の鑑賞支援・体験型プログラムの開発と実践	物質文化	宮地　鼓	立石信一、押野朱美、今野　彩、カサドパルド　ケラール	

C 成果発表支援					
2022C01	日本の科学教育における Indigenous knowledge としてのアイヌ文化／日本科学教育学会	教育	奥山英登		
2022C02	17 世紀蝦夷地に漂着した朝鮮人関連記録の日本における情報の伝播／東北アジア文化学会	歴史社会	シン　ウォンジ		
2022C03	MLA 連携に関する実践例の収集と検討：レファレンス連携の構築を中心に (2020B20, 2021B04) ／図書館総合展	教育	笹木一義	関口由彦 工藤綾華	
2022C04	教育普及事業ホリデーイベント「伝承から自然災害を記憶する－津波」／日本地質学会	教育	シン　ウォンジ		
2022C05	バーチャル博物館に関する映像発表／ICOM プラハ大会	言語儀礼芸能	劉　高力		
2022C06	17 世紀蝦夷地に漂着した朝鮮人及び欧米人等によるアイヌ文化に関する記録の比較研究 (2021B03) ／北海道民族学会 2022 年度第 2 回研究会	歴史社会	シン　ウォンジ		
2022C07	視覚障害者の鑑賞支援・体験型プログラムの開発と実践 (2021B01)（さわる展示の実施と課題）／ユニバーサル・ミュージアム研究会	歴史社会	立石信一		
2022C08	日本の科学教育における Indigenous knowledge としてのアイヌ文化 (2022C01) ／日本科学教育学会機関誌「科学教育研究」	教育	奥山英登		
2022C09	教育普及事業ホリデーイベント「伝承から自然災害を記憶する－津波」／日本地球惑星科学連合 2023 年大会	教育	シン　ウォンジ		

2. 連携協定の締結等

・東京国立博物館（2023 年 3 月 14 日～ 2025 年 3 月 31 日）で、「東京国立博物館が所蔵する文化財を対象とした共同研究の実施及び成果物の管理と利用に関する覚書」を締結した。東京国立博物館と当館が共同して、東京国立博物館が管理する文化財に関する共同研究を実施することを目的とする。

継続は以下のとおりである。

・苫小牧市弁天地区海岸で発見された丸木舟について、苫小牧市美術博物館との覚書（2021 年 8 月 27 日締結）に基づき、昨年度に引き続き資料保存のための脱塩作業を実施した。更には同館所蔵の道指定出土舟をめぐる共同調査研究の新たな枠組みを設定し、舟の 3D 計測を 2 月に 2 回実施した。

・北海道大学アイヌ・先住民研究センターとの学術連携・協力に関する協定（2020 年 11 月 13 日締結）に基づき合同勉強会を 3 回行った。

・北海道アイヌ協会との研修者の取り扱いに関する協定（2021 年 12 月 22 日締結）に基づき、研修者の受け入れを行った。

・公益財団法人アイヌ民族文化財団と札幌大学との連携協力協定（2022 年 1 月 13 日締結）に基づき、講師派遣を行った。

Ⅳ -04-02 ネットワーク事業

1)「**アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク**」**運営委員会及びネットワーク運営**

a)「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」運営委員会の開催

「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」運営委員会の会議を 2022 年 7 月と 2023 年 3 月に 2 回開催し、ネットワーク運営に関する協議を行った。

当運営委員会の委員名簿は以下の通りである。

参加組織	氏　名	地　域
旭川市博物館	飯岡　郁穂	旭川
北海道博物館	小川　正人	札幌
市立函館博物館	奥野　進	函館
北海道大学植物園	加藤　克	札幌
新ひだか町博物館	斉藤　大朋	新ひだか
北海道立北方民族博物館	笹倉　いる美	網走
北海道博物館協会学芸職員部会	志賀　健司	石狩
釧路市立博物館	城石　梨奈	釧路
（公財）北海道埋蔵文化財センター	田口　尚	札幌
平取町立二風谷アイヌ文化博物館	長田　佳宏	平取
帯広百年記念館	池田　亨嘉	帯広
松浦武四郎記念館	山本　命	松阪

・第 1 回会議：2022 年 7 月 8 日

・第 2 回会議：2023 年 3 月 17 日

b）アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク（愛称プンカㇲ）の運営

当館を中心にした、アイヌの歴史、文化等に関する資料情報の集約と利活用の促進や様々な事業を行う独自のネットワークを通じて、各種事業を実施した。

11 月には会員機関の所属職員を対象としたアイヌの歴史・文化に関する基礎的知識及び各機関の実践事例等に関する研修会を対面、オンライン配信により実施し、70 名の参加があった。会員機関向け会報「プンカㇲ通信」創刊準備号および 2022SUMMER 臨時号を発行した。

会員機関向け Web ページについて、開設準備を行った。新たに 3 機関より入会申込があり、会員は 62 機関となった。

令和４年度プンカラ研修会

令和４年度の会員機関一覧は以下の通りである（番号は入会申込み順による会員機関番号）。

令和４年度アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク会員機関一覧

No.	会員機関番号	施設・機関名
1	namnet001	富良野市博物館
2	namnet002	だて歴史文化ミュージアム
3	namnet003	湧別町ふるさと館 JRY
4	namnet004	浦幌町立博物館
5	namnet005	厚真町軽舞遺跡調査整理事務所
6	namnet006	天理大学附属天理参考館
7	namnet007	恵庭市郷土資料館
8	namnet008	厚岸町海事記念館
9	namnet009	平取町立二風谷アイヌ文化博物館
10	namnet010	沙流川歴史館
11	namnet011	根室市歴史と自然の資料館
12	namnet012	苫前町郷土資料館
13	namnet013	様似郷土館
14	namnet014	しらおいイオル事務所チキサニ
15	namnet015	登別市教育委員会（登別市郷土資料館）
16	namnet016	北海道立埋蔵文化財センター
17	namnet017	旭川市博物館
18	namnet018	美幌博物館
19	namnet019	弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民族資料館

20	namnet020	オホーツクミュージアムえさし
21	namnet021	松浦武四郎記念館
22	namnet022	北海道立北方四島交流センター
23	namnet023	下川町ふるさと交流館
24	namnet024	勝山館跡ガイダンス施設、重要文化財旧笹浪家住宅
25	namnet025	標茶町博物館ニタイ・ト
26	namnet026	仙台藩白老元陣屋資料館
27	namnet027	標津町ポー川史跡自然公園
28	namnet028	浜頓別町郷土資料館
29	namnet029	知内町郷土資料館
30	namnet030	新冠町郷土資料館
31	namnet031	北海道立北方民族博物館
32	namnet032	札幌市アイヌ文化交流センター
33	namnet033	北海道博物館
34	namnet034	市立函館博物館
35	namnet035	函館市北方民族資料館（公益財団法人函館市文化・スポーツ振興財団）
36	namnet036	大黒屋光太夫記念館
37	namnet037	北海道立文学館（公益財団法人北海道文学館）
38	namnet038	アポイ岳ジオパークビジターセンター
39	namnet039	釧路市立博物館
40	namnet040	北海道立近代美術館
41	namnet041	帯広百年記念館
42	namnet042	國學院大學博物館
43	namnet043	新ひだか町博物館
44	namnet044	大阪府立近つ飛鳥博物館
45	namnet045	新潟県立歴史博物館
46	namnet046	八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館
47	namnet047	知里幸恵 銀のしずく記念館
48	namnet048	余市水産博物館
49	namnet049	九州国立博物館
50	namnet050	最上徳内記念館
51	namnet051	室蘭市民俗資料館
52	namnet052	苫小牧市美術博物館
53	namnet053	美唄市郷土史料館
54	namnet054	幕別町蝦夷文化考古館
55	namnet055	日本民藝館
56	namnet056	阿寒アイヌ民族文化保存会
57	namnet057	三石民族文化保存会
58	namnet058	市立小樽美術館・市立小樽文学館
59	namnet059	別海町郷土資料館 附属施設加賀家文書館
60	namnet060	音更町郷土資料室
61	namnet061	石巻市博物館
62	namnet062	岩手県立博物館

Ⅳ -04-03 研究集会の企画・開催

国内の研究集会（シンポジウム）の企画・開催（4 件）

・ArCS II 沿岸環境課題、北海道立北方民族博物館、国立アイヌ民族博物館 主催 コラボイベント「毛皮と北方民族の多彩な関係」

講座「毛皮と北方民族」

開催日時・場所：2022 年 4 月 16 日、北海道立北方民族博物館

講師（敬称略、順不同）：国立アイヌ民族博物館：田村将人、北海道大学：山口未花子、日下稜

・ホリデーイベント「動物の毛皮に触ってみよう！ ― アイヌ民族と北方民族の毛皮利用を知る・触る ― 」／「館長のお話を聞こう！ ― クロテンの毛皮にまつわるお話 ― 」

開催日時・場所：2022 年 5 月 28 日、29 日、国立アイヌ民族博物館

講師（敬称略、順不同）：国立アイヌ民族博物館：佐々木史郎、是澤櫻子、

北海道立北方民族博物館：中田篤、神戸大学：大石侑香、北海道大学：山口未花子、日下稜

・国立アイヌ民族博物館第 5 回特別展示シンポジウム「アイヌ資料をコレクションすることを考える」

開催日時・場所：2022 年 11 月 5 日、国立アイヌ民族博物館

登壇者（敬称略・順不同）：北海道大学大学院文学研究院：谷本晃久、北海道大学植物園：加藤克、萱野茂二風谷アイヌ資料館：萱野志朗、北海道大学アイヌ・先住民研究センター：山崎幸治、佐々木利和、国立アイヌ民族博物館：鈴木建治、関口由彦

・北海道大学アイヌ・先住民研究センターとの共催シンポジウムに向けた勉強会（3 回）

第 1 回合同勉強会

開催日時・場所：2022 年 7 月 9 日、オンライン

講師（敬称略、順不同）：北海道大学アイヌ・先住民研究センター：加藤博文、落合研一、

国立アイヌ民族博物館：佐々木史郎

第 2 回合同勉強会

開催日時・場所：2022 年 8 月 31 日、オンライン

話題提供者（敬称略、順不同）：国立アイヌ民族博物館：笹木一義、立石信一、マーク・ウィンチェスター

第 3 回合同勉強会

開催日時・場所：2022 年 12 月 27 日、オンライン

話題提供者（敬称略・順不同）：北海道大学アイヌ・先住民研究センター：山崎幸治、

民族共生象徴空間運営本部文化振興部：早坂駿、山道陽輪、山丸賢雄、杉本リウ

Ⅳ -04-04 研究成果の社会発信

研究成果の社会発信として、論文（査読有）7 件、論文（査読無）10 件、寄稿・解説等 37 件のほか、学会発表（国外）8 件、学会発表（国内）19 件、講演会・講義 77 件を実施した。

1）2022 年度研究業績

2022 年度の研究業績として、1. 論文（査読有）、2. 論文（査読無）※学術雑誌、研究報告書等、3. 学会発表 ＜国際学会＞＜国内学会＞、4. 生涯学習・学校教育に関わる活動等、5. 寄稿・解説※一般誌、新聞、6. 図書として区分した

1.　**論文（査読有）**

※著者名（館スタッフにはアンダーライン），論文標題，雑誌名，巻（号），発行年，最初と最後の頁，掲載論文の DOI

1）　田村将人，樺太アイヌに関する民族学・文化人類学上の研究史，国立民族学博物館調査報告，156，2022，135-168，https://doi.org/10.15021/00009998

2）　T. Miyaji, T. Yabunaka, and S. Sasaki，Punkar: Building a museum network on Ainu Culture, UNIVERSITY MUSEUMS AND COLLECTIONS JOURNAL，14(2)，2022，102

3）　小野洋平，深澤美香，アイヌ語諸方言の語形の類似に関する基礎データの復元：論文に書ききれなかった研究者の判断・思考に迫る，北方言語研究，13，2023，213-246

4）　大江克己，竹内隼人，八幡巴絵，X 線 CT による細長形のアイヌ民族資料の測定と形状計測，北海道民族学，19，2023，1-13

5）　シン・ウォンジ，17 世紀蝦夷地に漂着した朝鮮人関連記録『漂舟録』と『李志恒漂海録』にみえる地名「石将浦」について，北海道民族学，19，2023，38-50

6）　北嶋由紀，研究ノート　アイヌ民族に対するマイクロアグレッション - 博物館や技術講習会などの学習施設での体験 -，アイヌ・先住民研究 Aynu Teetawanoankur Kanpinuye = Journal of Ainu and Indigenous Studies，3，2023，35-46，https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/journals/index.php?jname=456&vname=6931

7）　佐々木史郎，書評　池谷和信著『トナカイの大地、クジラの海の民族誌―ツンドラに生きるロシアの先住民チュクチ』，文化人類学，87，2023，532-535

2.　論文（査読無）※学術雑誌，研究報告書等

※著者名（館スタッフにはアンダーライン），論文標題，雑誌名，巻（号），発行年，最初と最後の頁

8）　田村将人，GHQ 幹部宛て北海道アイヌ協会関係資料について，北海道・東北史研究，12，2021，1-3

9）　マーク・ウィンチェスター，いま、戸塚美波子「一九七三年ある日ある時に」を読む，『思想』（特集：北海道・アイヌモシリ～セトラー・コロニアリズムの 150 年），12，2022，69-90

10）Mio Yachita，Comparison of Performers' Training for Japan's Intangible Cultural Heritage: Case of Traditional Ainu Dance and Bunraku Puppet Theater，Conference Proceedings of Asia Pacific Network for Cultural Education and Research[ANCER] 2022 Singapore，2022

11）Mio Yachita，Re-framing "Traditional Ainu Dance" within Cultural Policy: Japan's Indigenous Policy and Professionalisation of Performing Arts，Conference Proceedings for the 12th International Conference on Cultural Policy Research(ICCPR)，2022

12）笹木一義，国際委員会セッション CECA 教育・文化活動国際委員会，第 26 回 ICOM（国際博物館会議）プラハ大会 2022 報告書，2023，86-90

13）宮地鼓，北海道立北方民族博物館所蔵―アイヌの刀掛帯の製織技法と素材，北海道立北方民族博物館研究紀要，32，2023，51-56

14）谷地田未緒，ウェルビーイング、多文化共生とアイヌ民族――「マジョリティ特権」と「和

人フラジリティ」，アートマネジメント研究，23，2023，51-53

15）佐々木史郎，クローズアップ「北方の国際貿易と蝦夷錦」，山川歴史 PRESS，12，2023，1-6

16）佐々木史郎，ほくとう地域の文化資本　アイヌ プリ カンナ アシトゥリレ クニネ：アイヌ文化の振興と普及のために～国立アイヌ民族博物館～，NETT，120，2023，2-5

17）佐々木史郎，民族共生象徴空間におけるアイヌ文化の復興と新たな創造，創，56，2023，47-83

3. **学会発表**

＜国際学会＞

※発表者名，発表表題，学会等名，発表年月日，発表場所

18）Koresawa, S., Possibilities and Difficulties involved in the holding Arctic Exhibitions in Museums with Small Arctic Collections, ISAR-7(Seventh International Symposium on Arctic Research), 2022.3.7, National Institute of Polar Research

19）Sasaki, K., Okuyama, H., Oshino, A. and SATO, Y., “How to interpret and have a dialogue with visitors of the National Ainu Museum in order to bridge gaps in knowledge concerning indigenous people and culture”, ICOM CECA (International Councils of Museums International Committee for Education and Cultural Action) Conference, 2022.8.23, Prague Congress Centre, Prague, Czech Republic

20）Miyaji, T., Yabunaka, T., and Sasaki, S., Punkar: Building a museum network on Ainu Culture, ICME-UMAC-NATHIST-ICR 2022 JOINT ANNUAL CONFERENCE, 2022.8.23, Prague Congress Centre, Prague, Czech Republic

21）liu gaoli, National Ainu Museum Virtual Tour, ICME-AVICOM ANNUAL CONFERENCE, 2022.8.25, Prague Congress Centre, Prague, Czech Republic

22）Kotajima, T., Selection of Wood for Museums Based on Its Trends in Chemical Emission, 15th International Conference on Indoor Air Quality in Heritage and Historic Environments, 2022.9.15, online

23）Yachita, M., Re-framing “Traditional Ainu Dance” within Cultural Policy: Japan’s Indigenous Policy and Professionalisation of Performing Arts, 12th International Conference on Cultural Policy Research(ICCPR), 2022.9.21, University of Antwerp/Online

24）シン・ウォンジ , 17 世紀蝦夷地に漂着した朝鮮人関連記録の日本における情報の伝播 —『松前家記』と『北海随筆』を中心に —, 2022 年度東北アジア文化学会・東アジア日本學會秋季聯合国際学術大会 , 2022.11.26, 兵庫大学

25）Yachita, M., Comparison of Performer’s Training for Japan’s Intangible Cultural Heritage: Case of Traditional Ainu Dance and Bunraku Puppet Theatre, The Asia-pacific Network of Cultural Education and research (ANCER) 5th Conference, 2022.12.3, Singapore LASALLE Collage of the Arts

＜国内学会＞

※発表者名，発表表題，学会等名，発表年月日，発表場所

26）　笹木一義,「カンピソシ ヌカラ トゥンプ［国立アイヌ民族博物館 ライブラリ］の活動紹介」, アート・ドキュメンテーション学会 2022 年度年次大会 , 2022 年 6 月 12 日 , 慶應義塾大学 , ハイブリッド開催 , 発表依頼あり

27）　田村将人 , 開催テーマ「未来を共創する展示」: 先進事例発表 1　国立アイヌ民族博物館 , 2021 日本展示学会研究大会 , 2021 年 6 月 12 日 , オンライン

28）　大江克己 , 古田嶋智子 , 八幡巴絵 , X 線 CT による北海道白老地域のアイヌ民族資料「木綿衣」の襟構造 , 文化財保存修復学会　第 44 回大会 , 2022 年 6 月 18 日 , 熊本県立劇場 演劇ホール

29）　杉山智昭 , 鳥越俊行 , 赤田昌倫 , 長田佳宏 , 今津節生 , 大江克己 , アイヌ民族の飾り矢筒における装飾金属の構成調査 , 文化財保存修復学会　第 44 回大会 , 2022 年 6 月 18 日 , 熊本県立劇場 演劇ホール

30）　古田嶋智子 , 大江克己 , 呂俊民 , 国立アイヌ民族博物館収蔵庫の気流及び温湿度分布 , 文化財保存修復学会　第 44 回大会 , 2022 年 6 月 19 日 , 熊本県立劇場 演劇ホール

31）　犬塚将英 , 古田嶋智子 , 高橋佳久 , 収蔵庫・展示室の建材等から放散する有機酸等の定量評価のための開発研究 , 文化財保存修復学会　第 44 回大会 , 2022 年 6 月 19 日 , 熊本県立劇場 演劇ホール

32）　笹木一義 , 奥山英登 , 押野朱美 , 佐藤優香 ,「国立アイヌ民族博物館の教育普及ツール開発 ― 着物のぬりえワークシートを事例として」, 全日本博物館学会第 48 回研究大会 , 2022 年 6 月 26 日 , 國學院大學

33）　奥山英登 , 笹木一義 , 押野朱美 , カサド・パルド・ケラール , 今野彩 , シン・ウォンジ , 永石理恵 , 長谷仁美 , 両角佑子 , 佐藤優香 , 体験型展示「探究展示 テンパテンパ」における、コロナ禍での運用の工夫とその評価 , 全日本博物館学会第 48 回研究大会 , 2022 年 6 月 26 日 , 國學院大學

34）　宮地鼓 ,「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク（愛称プンカラ）」の取り組み , 第 60 回北海道博物館大会 , 2022 年 7 月 14 日 , 士別市市民文化センター

35）　シン・ウォンジ , 白老における津波に関するアイヌ民族の口承：17 世紀の巨大津波の解明に向けて , 日本地質学会第 129 年学術大会 , 2022 年 9 月 5 日 , 早稲田大学

36）　大江克己 , 直江康雄 , 和田由希絵 , 茅原明日香 , X 線ＣＴによる北海道千歳市ウサクマイＡ遺跡出土蕨手刀の構造解析 , 日本文化財科学会　第 39 回大会 , 2022 年 9 月 11 日 , 千葉大学

37）　奥山英登 , 日本の科学教育における Indigenous knowledge とアイヌ文化 , 日本科学教育学会第 46 回年会愛知大会 , 2022 年 9 月 17 日 , オンライン（愛知教育大学）

38）　シン・ウォンジ , 17 世紀蝦夷地に漂着した朝鮮人関連記録『漂舟録』と『李志恒漂海録』にみえる地名「石将浦」について , 2022 年度北海道民族学会第 2 回研究会 , 2022 年 10 月 22 日 , 北海学園大学 豊平キャンパス

39）　関口由彦 , 工藤綾華 , 笹木一義 ,「博物館学芸員と図書館司書の協働によるレファレンス体制の構築にむけて ― カンピソシ ヌカラ トゥンプ 国立アイヌ民族博物館 ライブラリの研究活

動から」，第24回図書館総合展，2022年11月1日，オンライン開催

40）立石信一，さわる展示の実施と課題－『ケレ ヤン、ヌカㇲ ヤン、ヌ ヤン　さわる、みる、きく、国立アイヌ民族博物館』を通じた実証的検討－，ユニバーサルミュージアム研究会，2022年11月27日，ヴァンジ彫刻庭園美術館

41）小野洋平，深澤美香，アイヌ語諸方言の語形の類似に関する基礎データの復元 ―論文に書ききれなかった研究者の判断・思考に迫る―，日本北方言語学会 第5回大会，2022年11月27日，オンライン（静岡大学）

42）立石信一，「菅原幸助『現代のアイヌ－民族移動のロマン』に描かれた白老とアイヌ民族表象をめぐって」，成均館大学校文科大学－日本大学文理学部　第1回次世代研究者ワークショップ「人文学の境界を問う　身体・言語・テクノロジー」，2023年1月26日，日本大学文理学部

43）笹木一義，「多民族共生に向けた博物館教育の試みと、「探究展示 テンパテンパ」」，京都国立博物館国際シンポジウム「アジアの博物館教育は、いま ―国立博物館の事例から―」，2023年2月4日，京都国立博物館、ハイブリッド開催，シンポジウム登壇招待

44）谷地田未緒，無形文化財と無形民俗文化財に関する考察：文化財『アイヌのユーカラ』を事例に，日本文化政策学会，2023年3月19，芸術文化観光専門職大学（豊岡市）

4. 生涯学習・学校教育に関わる活動等

＜講演会・講義＞

※講演・講義者名，題目，主催者，実施年月日

45）谷地田未緒，Artistic Expressions and Ainu Culture，シンガポール南洋理工大学（Nanyang Technological University）スクールオブアート・デザイン・メディア，2022年4月2日，オンライン，招待講演

46）北嶋由紀，第1回　アイヌ文様（刺繍）の技法の種類について　バッグの作製（基本）：アイヌ文様（刺繍）の準備，札幌大学　講義「アイヌ工芸A1」（15コマ），4月11日，札幌大学

47）北嶋由紀，第1回　アイヌ工芸の織りについて　エムシアッの技法を用いたコースターの作製（基本）：材料の準備など，札幌大学　講義「アイヌ工芸A2」（15コマ），4月11日，札幌大学

48）田村将人．1940年代、サハリン先住民族の毛皮獣狩猟，講座　「毛皮と北方民族」，2022年4月16日，北海道立北方民族博物館，共催

49）北嶋由紀，第2回　アイヌ文様について　バッグの作製（基本）：アイヌ文様（刺繍）の準備，札幌大学　講義「アイヌ工芸A1」（15コマ），4月18日，札幌大学

50）北嶋由紀，第2回　エムシアッの織りの種類と技法について　エムシアッの技法を用いたコースターの作製（基本）：基本の編み方を学ぶ1，札幌大学　講義「アイヌ工芸A2」（15コマ），4月18日，札幌大学

51）北嶋由紀，第3回　現在のアイヌ工芸の作り手について　バッグの作製（基本）：チチリの技法について学ぶ，札幌大学　講義「アイヌ工芸A1」（15コマ），4月25日，札幌大学

52）北嶋由紀，第3回　エムシアッの織りの種類と技法について　エムシアッの技法を用いたコースターの作製（基本）：基本の編み方を学ぶ2，札幌大学　講義「アイヌ工芸A2」（15コマ），4月25日，札幌大学

53）是澤櫻子, ロシア連邦の先住民族の現在について―組織の変遷から考える ,『K』3 号関連企画「ポストソ連地域における権威主義と多様性 ロシアによるウクライナ侵略に直面して」, 2022 年 5 月 1 日 , オンライン , 招待講演

54）北嶋由紀 , 第 4 回　バッグの作製（基本）：チチリの技法について学ぶ　基準線と文様の下書き , 札幌大学　講義「アイヌ工芸 A1」（15 コマ）, 5 月 9 日 , 札幌大学

55）北嶋由紀 , 第 4 回　エムシアッの織りの種類と技法について　エムシアッの技法を用いたコースターの作製（基本）：基本の編み方を学ぶ 3 , 札幌大学　講義「アイヌ工芸 A2」（15 コマ）, 5 月 9 日 , 札幌大学

56）是澤櫻子 , なぜライポンはプーチン支持を表明したのか？―組織の活動変遷から考える , 科学研究費助成事業「国公立博物館における先住民族の権利実現の可能性と課題―アイヌとマオリの比較研究」研究会 , 2022 年 5 月 14 日 , 北海道大学及びオンライン , 招待講演

57）北嶋由紀 , 第 5 回　バッグの作製（基本）：チチリの技法について学ぶ　イカラリとオホ , 札幌大学　講義「アイヌ工芸 A1」（15 コマ）, 5 月 16 日 , 札幌大学

58）北嶋由紀 , 第 5 回　エムシアッの織りの種類と技法について　エムシアッの技法を用いたコースターの作製（基本）：基本の編み方を学ぶ 4 , 札幌大学　講義「アイヌ工芸 A2」（15 コマ）, 5 月 16 日 , 札幌大学

59）北嶋由紀 , 第 6 回　バッグの作製（基本）：カパラミプの技法について学ぶ　文様の下書きと布の縫い付け , 札幌大学　講義「アイヌ工芸 A1」（15 コマ）, 5 月 23 日 , 札幌大学

60）北嶋由紀 , 第 6 回　エムシアッの織りの種類と技法について　エムシアッの技法を用いたコースターの作製（基本）：仕上げ 1 , 札幌大学　講義「アイヌ工芸 A2」（15 コマ）, 5 月 23 日 , 札幌大学

61）北嶋由紀 , 第 7 回　バッグの作製（基本）：カパラミプの技法について学ぶ　布の縫い付けと糸刺繍 , 札幌大学　講義「アイヌ工芸 A1」（15 コマ）, 5 月 30 日 , 札幌大学

62）北嶋由紀 , 第 7 回　エムシアッの織りの種類と技法について　エムシアッの技法を用いたコースターの作製（基本）：仕上げ 2 , 札幌大学　講義「アイヌ工芸 A2」（15 コマ）, 5 月 30 日 , 札幌大学

63）北嶋由紀 , 第 8 回　バッグの作製（基本）：カパラミプの技法について学ぶ　糸刺繍 , 札幌大学　講義「アイヌ工芸 A1」（15 コマ）, 6 月 6 日 , 札幌大学

64）北嶋由紀 , 第 8 回　エムシアッの文様について　エムシアッの技法を用いたブレスレットの作製（応用）：材料の準備など , 札幌大学　講義「アイヌ工芸 A2」（15 コマ）, 6 月 6 日 , 札幌大学

65）深澤美香 , 国立アイヌ民族博物館ヴァーチャルツアー , 明星大学　講義「地域文化研究」, 2022 年 6 月 7 日 , 明星大学（オンライン）, ゲストスピーカー

66）naakay, ①「アイヌ文化における川漁　マレㇰという漁具～伝承者育成事業の経験より～」, 札幌大谷大学　講義「アイヌ文化論」（4 コマ）, 2022 年 6 月 8 日 , オンデマンド方式（札幌大谷大学の授業用ページに掲載）

67）谷地田未緒 , ゲスト講義　日本の文化政策と多様性 , 九州大学大学院芸術工学研究院未来共生デザイン部門「アーツマネジメント」, 2022 年 6 月 9 日 , オンライン , 招待講演

68）北嶋由紀 , 第 9 回　バッグの作製（基本）：ルウンペの技法について学ぶ　基準線と布の縫い付け , 札幌大学　講義「アイヌ工芸 A1」（15 コマ）, 6 月 13 日 , 札幌大学

69）北嶋由紀 , 第 9 回　エムシアッの技法を用いたブレスレットの作製（応用）：文様のデザイン

又は模写 , 札幌大学　講義「アイヌ工芸 A2」（15 コマ）, 6 月 13 日 , 札幌大学

70）naakay, ②「アイヌ文化におけるオオウバユリ　トゥレプとその利用～伝承者育成事業の経験より②」, 札幌大谷大学　講義「アイヌ文化論」（4 コマ）, 2022 年 6 月 15 日 , オンデマンド方式（札幌大谷大学の授業用ページに掲載）

71）北嶋由紀 , 第 10 回　バッグの作製（基本）：ルウンペの技法について学ぶ　布の縫い付けと糸刺繍 , 札幌大学　講義「アイヌ工芸 A1」（15 コマ）, 6 月 20 日 , 札幌大学

72）北嶋由紀 , 第 10 回　エムシアッの技法を用いたブレスレットの作製（応用）：文様のデザイン又は模写 , 札幌大学　講義「アイヌ工芸 A2」（15 コマ）, 6 月 20 日 , 札幌大学

73）naakay, ③「国立アイヌ民族博物館の役割と展示」, 札幌大谷大学　講義「アイヌ文化論」（4 コマ）, 2022 年 6 月 22 日 , オンデマンド方式（札幌大谷大学の授業用ページに掲載）

74）北嶋由紀 , 第 11 回　バッグの作製（基本）：ルウンペの技法について学ぶ　糸刺繍 , 札幌大学　講義「アイヌ工芸 A1」（15 コマ）, 6 月 27 日 , 札幌大学

75）北嶋由紀 , 第 11 回　エムシアッの技法を用いたブレスレットの作製（応用）：文様のデザイン又は模写 , 札幌大学　講義「アイヌ工芸 A2」（15 コマ）, 6 月 27 日 , 札幌大学

76）naakay, ④「旭川地方のアイヌ語と文学」, 札幌大谷大学　講義「アイヌ文化論」（4 コマ）, 2022 年 6 月 29 日 , オンデマンド方式（札幌大谷大学の授業用ページに掲載）

77）小林美紀 , 第 5 回「アイヌ語とアイヌの口承文学」, 放送大学講義「ウポポイで学ぶアイヌ文化」（1 コマ）, 2022 年 7 月 3 日 , 放送大学北海道学習センター , 非常勤講師

78）北嶋由紀 , 第 12 回　アイヌ文様（刺繍）の種類や名称について　バッグの作製（基本）：バッグに仕立てる , 札幌大学　講義「アイヌ工芸 A1」（15 コマ）, 7 月 4 日 , 札幌大学

79）北嶋由紀 , 第 12 回　エムシアッの技法を用いたブレスレットの作製（応用）：デザイン又は模写した文様の編み方を学ぶ 1 , 札幌大学　講義「アイヌ工芸 A2」（15 コマ）, 7 月 4 日 , 札幌大学

80）笹木一義 , 探究展示のオンライン中継での展示解説 ,「国立アイヌ民族博物館『探究展示テンパテンパ』オンライン見学会」, 2022 年 7 月 4 日 , オンライン , 講演依頼あり

81）北嶋由紀 , アイヌの衣服（素材、織り）, 札幌大谷大学　講義「アイヌ文化論」（3 コマ）, 2022 年 7 月 6 日 , オンデマンド方式（札幌大谷大学の授業用ページに掲載）

82）深澤美香 , 日本語の多様性、アイヌ語の世界と言語接触 , 明星大学　講義「日本文化特講 1C」, 2022 年 7 月 8 日 , 明星大学（オンライン）, ゲストスピーカー

83）北嶋由紀 , 第 13 回　アイヌ文様（刺繍）の種類や名称について　バッグの作製（基本）：バッグに仕立てる 1 , 札幌大学　講義「アイヌ工芸 A1」（15 コマ）, 7 月 11 日 , 札幌大学

84）北嶋由紀 , 第 13 回　エムシアッの技法を用いたブレスレットの作製（応用）：デザイン又は模写した文様の編み方を学ぶ 2 , 札幌大学　講義「アイヌ工芸 A2」（15 コマ）, 7 月 11 日 , 札幌大学

85）田村将人 , 特別講演会「国立アイヌ民族博物館とその試み」, 釧路公立大学　科目「北海道の歴史」, 2022 年 7 月 11 日 , 釧路公立大学（オンライン）, 招待講演

86）佐々木史郎 , 国立アイヌ民族博物館開設の経緯と現在の課題 , 中央大学総合政策学部「民族と文化」講演 , 2022 年 7 月 12 日 , 中央大学総合政策学部 , 招待講演

87）北嶋由紀 , アイヌの衣服文化（仕立てと装飾）, 札幌大谷大学　講義「アイヌ文化論」（3 コマ）, 2022 年 7 月 13 日 , オンデマンド方式（札幌大谷大学の授業用ページに掲載）

88）マーク・ウィンチェスター , 知里真志保における「起源」の問題 , NPO 法人さっぽろ自由学

校「遊」連続講座「20 世紀を切り開いたアイヌ列伝」, 2022 年 7 月 13 日 , NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」, 招待講演

89）北嶋由紀 , 浦河町のアイヌ文化 , 札幌大谷大学　講義「アイヌ文化論」（3 コマ）, 2022 年 7 月 20 日 , オンデマンド方式（札幌大谷大学の授業用ページに掲載）

90）北嶋由紀 , 第 14 回　アイヌ文様（刺繍）の種類や名称について　バッグの作製（基本）: バッグに仕立てる 2 , 札幌大学　講義「アイヌ工芸 A1」（15 コマ）, 7 月 25 日 , 札幌大学

91）北嶋由紀 , 第 14 回　エムシアッの技法を用いたブレスレットの作製（応用）: デザイン又は模写した文様の編み方を学ぶ 3 , 札幌大学　講義「アイヌ工芸 A2」（15 コマ）, 7 月 25 日 , 札幌大学

92）田村将人 , 知里真志保のアイヌ語・文化研究の足跡 , アイヌ文化講演会 , 2022 年 7 月 31 日 , 北海道立図書館 , 招待講演

93）北嶋由紀 , 第 15 回　アイヌ文様（刺繍）の種類や名称について　バッグの作製（基本）: バッグに仕立てる 3 , 札幌大学　講義「アイヌ工芸 A1」（15 コマ）, 8 月 1 日 , 札幌大学

94）北嶋由紀 , 第 15 回　エムシアッの技法を用いたブレスレットの作製（応用）: 仕上げ , 札幌大学　講義「アイヌ工芸 A2」（15 コマ）, 8 月 1 日 , 札幌大学

95）谷地田未緒 ,「文化政策の視点で捉え直す先住民族政策： 3 つの視点」, 文化政策若手研究会 , 2022 年 8 月 1 日 , オンライン

96）森岡健治 ,「ウポポイ（民族共生象徴空間）の概要と活用方法について」, 令和 4 年度講座「アイヌの歴史・文化に関する授業実践のために」, 2022 年 8 月 5 日 , 北海道立北方民族博物館 , 招待講演

97）笹木一義 ,「アヌココロ アイヌ イコロマケンル 国立アイヌ民族博物館と基本展示の概要」, 京都芸術大学「収穫祭「ウポポイ！この夏民族共生象徴空間に浸る」」, 2022 年 8 月 6 日 , 来館による特別講義の対応 , 特別講義対応依頼あり

98）マーク・ウィンチェスター , 佐々木昌雄―〈アイヌ〉でないもののように , NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」連続講座「20 世紀を切り開いたアイヌ列伝」, 2022 年 8 月 10 日 , NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」, 招待講演

99）矢崎春菜 ,「アイヌの星の物語」トーク＆レクチャー , ROOTS&ARTS SHIRAOI, 2022 年 9 月 11 日 , あかいほっぺ（白老町）

100）シン・ウォンジ , 初級者向けコース　韓国語 第 10 回「ウポポイ（民族共生象徴空間）・博物館とパークの概要について学ぶ」, 2022 年度 観光人材育成事業インバウンド対応人材育成研修（主催：公益社団法人北海道観光振興機構）, 2022 年 10 月 3 日 , ・オンライン・観光人材育成事業事務局：株式会社イー・シー（現地研修）

101）シン・ウォンジ , 上級者向けコース　韓国語 第 4 回「アイヌ文化を学ぶ」, 2022 年度 観光人材育成事業インバウンド対応人材育成研修（主催：公益社団法人北海道観光振興機構）, 2022 年 10 月 3 日 , ・オンライン、e ラーニング・観光人材育成事業事務局：株式会社イー・シー（現地研修）

102）naakay, ①基本単語 , アイヌ語指導者育成事業スクーリング , 2022 年 10 月 15 日 , 北農健保会館 , 公益財団法人アイヌ民族文化財団事業（札幌）

103）マーク・ウィンチェスター , 是澤櫻子 , ウポポイと報道 , 国立民族学博物館共同研究会「先住民と情報化する社会の関わり」, 2022 年 10 月 23 日 , 国立アイヌ民族博物館（オンライン）, 招待講演

104）naakay, 旭川方言の特色 , アイヌ語指導者育成事業フォローアップ講座 , 2022 年 11 月 5 日 , 北農健保会館 , 公益財団法人アイヌ民族文化財団事業（札幌）

105）佐々木史郎 , 民族共生象徴空間におけるアイヌ文化の復興と新たな創造 , 清泉女子大学文化史学会講演会 , 2022 年 11 月 14 日 , 清泉女子大学 , 招待講演

106）naakay, ②動詞の単数形と複数形、人称（単数、複数）, アイヌ語指導者育成事業スクーリング , 2022 年 11 月 19 日 , 北農健保会館 , 公益財団法人アイヌ民族文化財団事業（札幌）

107）naakay, ③教授法 , アイヌ語指導者育成事業スクーリング , 2022 年 11 月 20 日 , 北農健保会館 , 公益財団法人アイヌ民族文化財団事業（札幌）

108）矢崎春菜 , Ainu language challenges at Upopoy: National Ainu Museum and Park, “Museums As Polyphonic Spaces: Asia-Pacific Models (tentative)” Virtual Symposium「博物館多聲道」線上國際論壇 , 2022 年 11 月 25 日 , National Taiwan Museum（國立臺灣博物館）/ online

109）naakay,「アイヌ文化に関して　～私個人の体験、現在の業務を通じて～」, 令和 4 年度鶴陵会石狩支部「会員研修会」, 2022 年 12 月 4 日 , 北広島市ふれあい学習センター「夢プラザ」

110）naakay, ④疑問文 , アイヌ語指導者育成事業スクーリング , 2022 年 12 月 16 日 , 北農健保会館 , 公益財団法人アイヌ民族文化財団事業（札幌）

111）是澤櫻子 , 組織の変遷から考える：ロシアの先住民族の現在 , 第 4 回 ArCS II 国際政治セミナー , 2022 年 12 月 22 日 , 北海道大学及びオンライン , 招待講演

112）マーク・ウィンチェスター , 砂澤ビッキ , NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」連続講座「20 世紀を切り開いたアイヌ列伝 part2」, 2023 年 1 月 18 日 , NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」, 招待講演

113）小林美紀 , アイヌ語 , 北洋大学　講義「アイヌ語」（15 コマ）, 2023 年 1 月 25 日 , 北洋大学 , 非常勤講師

114）小林美紀 , アイヌ語 , 北洋大学　講義「アイヌ語」（15 コマ）, 2023 年 1 月 26 日 , 北洋大学 , 非常勤講師

115）小林美紀 , アイヌ語 , 北洋大学　講義「アイヌ語」（15 コマ）, 2023 年 2 月 1 日 , 北洋大学 , 非常勤講師

116）小林美紀 , アイヌ語 , 北洋大学　講義「アイヌ語」（15 コマ）, 2023 年 2 月 2 日 , 北洋大学 , 非常勤講師

117）谷地田未緒 ,「日本の文化政策入門」, カンボジア創造産業アドボカシー協会（CICADA）フェローセミナー , 2023 年 2 月 21 日 , オンライン , 招待講演

118）谷地田未緒 , Artistic Expressions and Ainu Culture: From Traditional Craft to Contemporary Art, シンガポール南洋理工大学（NTU）講義「Exhibition Histories and Curatorial Narratives」, 2023 年 3 月 1 日 , オンライン , 招待講演

119）大江克己 , 作品保存と科学的調査について , 第 31 回北海道美術館学芸員研究協議会 , 2023 年 3 月 2 日 , 北海道立近代美術館 , 招待講演

120）谷地田未緒 ,「芸術助成団体と良い関係を作るための三つの視点」, アジア大洋州文化教育政策ネットワーク（ANCER）主催 ANCER Lab Bangkok における「Roundtable Conversation about Funders」, 2023 年 3 月 4 日 , バンコク , 招待講演

121）佐々木史郎 , ブロニスワフ・ピウスツキが集めたアイヌの衣類 ,《特別講演会》ポーランド・

アイヌ・北海道～交流の歴史から～ブロニスワフ・ピウスツキの遺したもの（北海道ポーランド協会主催）, 2023 年 3 月 4 日 , 札幌エルプラザ 4 階大研修室 , 招待講演

5. 寄稿・解説　※一般誌，新聞

※著者名（館スタッフにはアンダーライン），論文標題，雑誌新聞名，巻（号），発行年月日，最初と最後の頁

122）小林美紀 , アイヌ（「アイヌイタㇰ　エエラムアン？　アイヌ語知ってる？」）, 毎日小学生新聞 , 2022 年 4 月 14 日

123）小林美紀 , 深澤美香 , 第一言語をアイヌ語にするために――国立アイヌ民族博物館の挑戦 , artscape, 2022 年 4 月 15 日

124）矢崎春菜 , イランカラㇷ゚テ（「アイヌイタㇰ　エエラムアン？　アイヌ語知ってる？」）, 毎日小学生新聞 , 2022 年 4 月 28 日

125）是澤櫻子 , フィールドワークの力―「私」を自覚してその先へ進む , Arctic Circle（北海道立北方民族博物館友の会・季刊誌）, 2022 年 5 月 2 日

126）深澤美香 , カムイ（「アイヌイタㇰ　エエラムアン？　アイヌ語知ってる？」）, 毎日小学生新聞 , 2022 年 5 月 12 日

127）笹木一義 ,「調査研究最前線 2：Report 1 博物館体験を深めるための教育コンテンツ開発の研究」, 国立アイヌ民族博物館ニュースレター「アヌアヌ」, 8 号 , 2022, 6

128）naakay, トゥレㇷ゚（「アイヌイタㇰ　エエラムアン？　アイヌ語知ってる？」）, 毎日小学生新聞 , 2022 年 6 月 9 日

129）naakay, もんのナンケアイヌ・ハルコㇺふさい　門野ナンケアイヌ・ハルコㇺ夫妻 ,『アイヌ文化史辞典』（吉川弘文館）, 2022 年 6 月 27 日 , 301-302

130）赤田昌倫 , ウポポイ・オルシペ〈43〉東京での学生生活とアイヌ語研究への決意 , 北海道新聞 , 2022 年 7 月 6 日

131）小林美紀 , ウポポイ・オルシペ〈44〉樺太での知里真志保　アイヌ語研究の基礎を築く , 北海道新聞 , 2022

132）小林美紀 , イタㇰ（「アイヌイタㇰ　エエラムアン？　アイヌ語知ってる？」）, 毎日小学生新聞 , 2022 年 7 月 14 日

133）naakay,「アイヌの世界観とは」,『先住民族アイヌを学ぶ～藤戸ひろ子さんに聞いてみた』（日本機関紙出版センター）, 2022 年 8 月 4 日 , 61-65

134）矢崎春菜 , チㇷ゚（「アイヌイタㇰ　エエラムアン？　アイヌ語知ってる？」）, 毎日小学生新聞 , 2022 年 8 月 11 日

135）マーク・ウィンチェスター , ウポポイ・オルシペ〈46〉知里真志保を描くウタリ , 北海道新聞 , 2022 年 8 月 17 日

136）深澤美香 , レプンカムイ（「アイヌイタㇰ　エエラムアン？　アイヌ語知ってる？」）, 毎日小学生新聞 , 2022 年 8 月 25 日

137）naakay, カムイチェㇷ゚（「アイヌイタㇰ　エエラムアン？　アイヌ語知ってる？」）, 毎日小学生新聞 , 2022 年 9 月 8 日

138）竹内隼人 ,「アイヌ民族博物館での業務や経験について」（Ⅰ学芸員資格を活かした修了生から）, 札幌大学学芸員課程年報第 20 集令和 3（2021）年度 , 2022 年 9 月 30 日 , 3-8

139）立石信一, 国松希根太展「地景を刻む」が挑むもの , artscape, 2022 年 10 月 1 日
140）矢崎春菜, コタンコロカムイ（「アイヌイタク　エエラムアン？　アイヌ語知ってる？」）, 毎日小学生新聞 , 2022 年 10 月 13 日
141）是澤櫻子, ウポポイ・オルシペ〈51〉収集されたアイヌ資料 一つ一つに所有者の思い , 北海道新聞 , 2022 年 11 月 1 日
142）宮地鼓, ウポポイ・オルシペ〈52〉アイヌ資料の美しさ　図案家杉山寿栄男が注目 , 北海道新聞 , 2022 年 11 月 10 日
143）竹内隼人, ウポポイ・オルシペ〈53〉言語や文化の資料―アイヌ民族自ら収集 , 北海道新聞 , 2022 年 11 月 17 日
144）naakay, オントゥレプアカム（「アイヌイタク　エエラムアン？　アイヌ語知ってる？」）, 毎日小学生新聞 , 2022 年 11 月 24 日
145）小林美紀, チセ（「アイヌイタク　エエラムアン？　アイヌ語知ってる？」）, 毎日小学生新聞 , 2022 年 12 月 8 日
146）深澤美香, トゥナハカイ（「アイヌイタク　エエラムアン？　アイヌ語知ってる？」）, 毎日小学生新聞 , 2022 年 12 月 22 日
147）小林美紀, ウポポイ・オルシペ〈56〉園内の案内表示 , 北海道新聞 , 2023 年 1 月 11 日
148）naakay, イナウ（「アイヌイタク　エエラムアン？　アイヌ語知ってる？」）, 毎日小学生新聞 , 2023 年 1 月 12 日掲載予定
149）立石信一,「開館 3 年目の応答　―ウポポイの『現在』を伝えるために」, artscape, 2023 年 1 月 15 日
150）奥山英登, ウポポイ・オルシペ〈57〉「博物館を作る」ということ　5 年の準備期間、貴重な体験 , 北海道新聞 , 2023 年 1 月 30 日
151）劉高力, 民族文化の発信に、「バーチャル」の可能性を拓く , ICOM 電子誌 , 2023 年 1 月掲載予定
152）佐々木史郎, ウポポイ・オルシペ〈58〉博物館の進むべき道再確認 「ことばと歴史」展あす閉幕 , 北海道新聞 , 2023 年 2 月 11 日
153）深澤美香, ユク（「アイヌイタク　エエラムアン？　アイヌ語知ってる？」）, 毎日小学生新聞 , 2023 年 2 月 23 日
154）北嶋由紀, 大学の講義と技術伝承 ,『開発こうほう』, 2023 年 2 月 28 日掲載予定
155）北嶋由紀, ウポポイ・オルシペ〈61〉阿寒湖畔のアイヌ文化　名匠の作品と作り手たち , 北海道新聞 , 2023 年 3 月 22 日
156）谷地田未緒,「静江さんのこと」,『Voices from A vol.2』, 2023 年 3 月 26 日 , 55
157）宮地鼓,「国際委員会セッション CECA 教育・文化活動国際委員会」（仮）,『第 26 回 ICOM（国際博物館会議）プラハ大会 2022 報告書』（仮）, 未定 , 2023, 未定
158）劉高力,「AVICOM のエクスカーション」,『第 26 回 ICOM（国際博物館会議）プラハ大会 2022 報告書』, 2023

6. 図書

※著者名，論文名，編者名，書名，出版社，発行年，担当ページ，総ページ数

159）マーク・ウィンチェスター（共著）,「アヌタリアイヌ われら人間」（項目）関根達人、菊地

勇夫、北原モコットゥナシ編『アイヌ文化史辞典』, 吉川弘文館 , 2022 年 , 13, 708

160）北嶋由紀 , 関根達人、菊地勇夫、北原モコットゥナシ編『アイヌ文化史辞典』アットゥシなど 21 項目についての解説文 , 吉川弘文館 , 2022 年 , 708

161）マーク・ウィンチェスター ,「解題」土橋芳美『揺らぐ大地』, 藤田印刷エクセレントブックス , 2022 年 , 286-293, 300

162）マーク・ウィンチェスター（共著）,「コラム 2 アイヌ」山口輝臣、福家崇洋編『思想史講義【明治篇 I】』, ちくま新書 , 2022 年 , 109-116, 336

163）Li, Chuan., Jing Wang, Mio Yachita, McGraw Hill, “Formación en Gestión Cultural en Asia Oriental(Cultural Management Training in East Asia)”, in Gonzalo Francisco Fernández Suárez and Mª DoloresFemández Tilve, eds., *LA GESTIÓN CULTURAL EN LA ERA DIGITAL (Cultural Management Training in Digital Era)*, McGraw Hill, 2022 年 , 105-121

164）Anna Bugaeva, KOBAYASHI Miki, Verbal valency, Anna Bugaeva (Ed.), Handbook of the Ainu Language (Handbooks of Japanese Language and Linguistics, 12), MOUTON, 2022 年 , 515-548

165）Fukazawa, M., “Subgrouping of Ainu,” “‘Rat’ in Ainu,” “‘Chicken’ in Asian and African languages,” “‘Chicken’ in Ainu,” “‘Horse’ in Ainu,” “‘Dog’ in Ainu,” “‘Wolf’ in Ainu,” “‘Bear’ in Asian and African languages,” “‘Bear’ in Ainu,” In Hiroyuki Suzuki, Mika Fukazawa, Akiko Yokoyama and Mitsuaki Endo (eds.)*Linguistic Atlas of Asia and Africa*, 1, Geolinguistic Society of Japan, 2022 年 , 4, 33, 75-77, 123, 170, 214, 239-240, 242

166）田村将人（共著）,「樺太アイヌにとってのガラス玉・ビーズ」池谷和信編『アイヌのビーズ：美と祈りの二万年』, 平凡社 , 2022 年 , 286

167）鈴木建治 , アイヌのビーズ：美と祈りの二万年 , 平凡社 , 2022 年 , 286

168）佐々木史郎 ,「［コラム］交易と玉：サンタン交易」池谷和信編『アイヌのビーズ：美と祈りの二万年』, 平凡社 , 2022 年 , 286

169）八幡巴絵 , アイヌのビーズ：美と祈りの二万年 , 平凡社 , 2022 年 , 286

170）北嶋由紀 ,「［コラム］グローバル時代のアイヌ工芸とビーズ」池谷和信編『アイヌのビーズ：美と祈りの二万年』, 平凡社 , 2022 年 , 286

171）宮地鼓 ,「［コラム］現代に生きる貝ビーズ 」, 池谷和信編『アイヌのビーズ：美と祈りの二万年』, 平凡社 , 2022 年 , 286

172）Hiroshi Nakagawa & Mika Fukazawa, Hokkaido Ainu dialects: Towards a classification of Ainu dialects, Anna Bugaeva (ed.) , Handbook of the Ainu Language (Handbooks of Japanese Language and Linguistics, 12), Mouton De Gruyter, 2022, 253-328

173）田村将人（共著）,「1920 年代のサハリン先住民族の移動と国境の関係性　樺太庁による「オタスの杜」集住化」原暉之・兎内勇津流・池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小　―シベリア出兵とサハリン・樺太』, 北海道大学出版会 , 2023 年（予定）, 428

174）国立アイヌ民族博物館（共著）,『ウアイヌコㇿ コタン アカㇲ ウポポイのことばと歴史』, 国書刊行会 , 2023 年

2）外部資金の獲得状況

当館は2022年度現在まだ科学研究費助成事業（科研費）への応募資格を有していないが、研究員・学芸員が所属（兼務）する他の機関から申請することで、科研のプロジェクトに研究代表者、研究分担者になったり、あるいは研究協力者として参画したりすることはできる。

2022年度の科研費を含む外部資金獲得状況は以下の通りである。

175）古田嶋智子, 科学研究費助成事業　若手研究 , 2019-2022, 木材からの化学物質放散挙動の解明と博物館における選定指標の提案（代表研究者）

176）古田嶋智子, 科学研究費助成事業　基盤研究 (C), 2022-2025, 博物館で用いるためのサンプリングバッグによる放散試験方法の開発（代表研究者）

177）谷地田未緒, 科学研究費助成事業　基盤研究 (C), 2022-2025, アイヌ民族の＜舞踊＞に関する文化政策的研究 : 民俗文化財から民族文化遺産へ（代表研究者）

178）宮地鼓, 令和4年度東京大学大気海洋研究所学際連携研究 , 2022, 考古遺跡から出土した二枚貝貝殻を用いた北海道周辺海域における高時間解像度環境復元（代表者）

179）田村将人, 科学研究費助成事業　基盤研究 (B), 2020-2023, サハリンアイヌの交易と文化変容、その学際的研究（研究分担者）

180）森岡健治, 国立民族学博物館 , 2022年度 , 共同研究「沙流川調査を中心とする泉靖一資料の再検討」（共同研究者）

181）笹木一義, 科学研究費助成事業　基盤研究 (C), 2021-2023, アイヌ文化の何をどう学ぶか―多文化共生のための博物館活用文化学習のデザインと評価（代表：佐藤優香）（研究協力者）

182）立石信一, 科学研究費助成事業　挑戦的研究（萌芽）, 2020-2022, 国公立博物館における先住民族の権利実現の可能性と課題－アイヌとマオリの比較研究（研究協力者）

183）是澤櫻子, 北極域研究加速プロジェクト ArCS Ⅱ 社会文化課題 サブ課題3, 2021-2025,「食とアイデンティティをめぐる先住民社会」（研究協力者）

184）笹木一義, 国立研究開発法人 科学技術振興機構 JST-RISTEX［SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム：シナリオ創出フェーズ］, 2022-2024年度 ,「市民のSDGs取組に向けた行動変容のためのミュージアム活用シナリオの創出」（研究協力者）

185）森岡健治, 北海道大学 , 2022年度 , 北海道大学アイヌ・先住民研究センター研究協力（客員研究員）

186）谷地田未緒, 大阪公立大学都市科学・防災研究センター , 2020-, 都市科学・防災研究センターにおける研究（文化政策）（客員研究員）

Ⅳ -04-05 レファレンス

・利用者からの問合せ（以下、レファレンス）約180件分を対応した（2022年4月から2023年3月）。

・当館の使命であるアイヌ民族の歴史と文化の正しい知識の提供と理解の促進を目指し、現在ウェブサイトにて公開している「よくある質問」の更新について検討した。

Ⅳ -04-06 外部資金獲得のための体制整備

当財団における公的研究費の管理・監査および研究活動における不正行為への対応等に関する規程・要領について周知し、日本学術振興会による研究倫理 e ラーニングコースを受講した。また、査読付きの学術論文執筆および学会誌等への投稿等を促進するための支援制度を整備した。

Ⅳ -04-07 国内外の博物館等が所蔵するアイヌ資料の調査の実施

2022 年度は石巻市博物館所蔵のアイヌ資料 98 点について調査を行い、調書の作成と写真撮影を行った。また、室蘭市民俗資料館所蔵のアイヌ資料 7 点について調査を行い、調書の作成と写真撮影を行った。

Ⅳ -04-08 刊行物

1）ニュースレター「アヌアヌ」

2022 年度は 8 号から 11 号まで刊行した。部数は各 10000 部で、関係各所に送付した。

8 号から 11 号までの表紙

Ⅳ -04-09 国際交流

国際オフィスの活動

国際オフィスは、博物館の専門グループとして設立された。以下は、国際交流担当分の実績（国際タスクフォース分を含む）である。

1）国際対応の環境整備等

・国際案件は、博物館及び国立民族共生公園、札幌の財団本部の 3 部署の担当者からなる「国際タスクフォース」（2020 年立上げ）が情報共有をしながら対応した。

・組織・部署名、肩書等の正式な英語名称をアップデートした。

・海外要人の対応や協定に向けての取り組みを、2020 年に策定された基本方針に従い国際タスクフォースと連携して行った。

2）海外要人受け入れ（大使等）

以下 6 件の海外要人を受け入れた。

2022 年 6 月 9 日　フランス共和国　フィリップ・セトン（Philippe Setton）大使来館

2022 年 7 月 13 日　オランダ王国　教育文化科学省文化遺産庁（オランダ王国大使館）ジンナ・スミット（Jinna Smit）氏来館

2022 年 9 月 22 日　ドイツ連邦共和国　クレーメンス・フォン・ゲッツェ（Dr. Clemens von Goetze）大使来館

2022 年 10 月 14 日　米国　ジョン・ナイリン（John Nylin）政治担当公使来館

2022 年 11 月 10 日　豪州　ピーター・ロバーツ（Peter Roberts）臨時代理大使来館

2023 年 2 月 3 日　英国　ヘレン・スミス（Helen Smith ACMA, CGMA）首席公使来館

3）国際交流・国際支援

(a) 先住民族の国際交流

2022 年 9 月 2 日　アボリジナル・リーダーとの交流

セゾン文化財団（日本）とフッツクレイ・コミュニティ・アーツ（FCA/ オーストラリア）の共同事業として実施されている先住民アーティストの国際交流事業で来日した、ストーリーテラーのアンクル・ラリー・ウォルシュ（Uncle Larry Walsh）氏と、FCA シニア・プロデューサーのダン・ミッチェル（Dan Mitchel）氏が来訪。ポロチセで伝統芸能や物語を披露しあう交流会が実施された。感染症による国際的な移動制限が解除されつつあった中、ウポポイにおける初めての先住民交流となった。

ポロチセでの交流会の様子

2023 年 1 月 24 日、25 日　マオリグループとの交流

北海道とニュージーランド大使館との覚書に基づくアイヌとマオリの先住民交流事業の一環として来日したワイカト - ワイトモ地方（Ngāti Maniapoto）のマオリの参加者、エデュケーション・ニュージーランドの Ed Tuaris 氏、ニュージーランド大使館担当者が来訪。両日文化体験や展示などを案内し、ポロチセで伝統芸能などを披露する交流会が実施された。

展示を鑑賞する参加者たち

2023 年 2 月 25 日　対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」ノースイースタン州立大学

日本政府が推進する人的交流事業「カケハシ・プロジェクト」で来日中のノースイースタン州立大学の先住民を含む 13 名の学生との交流事業を実施。博物館展示や工房、伝統的コタンを見学したのち、博物館交流室で意見交換会が実施された。

意見交換会のあと輪踊に参加する学生たち

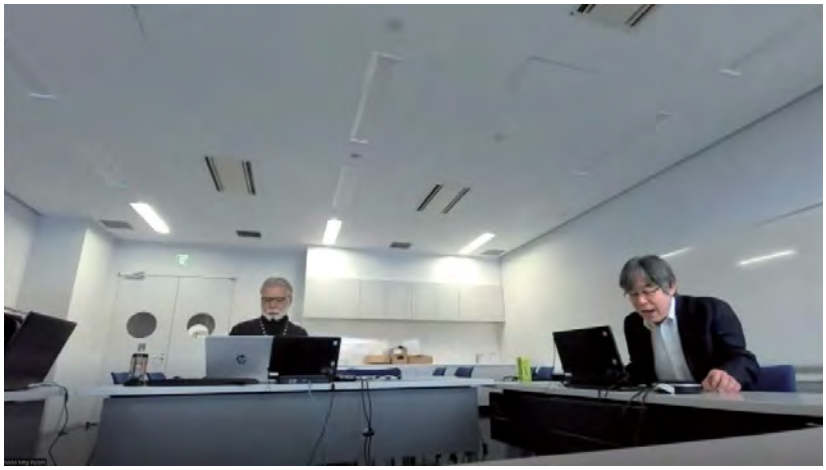
2022年12月27日　台湾原住民委員会の来訪
台湾原住民族委員会イチャン・パルー主任委員ほか8名が来訪。博物館展示や伝統芸能、コタンゾーンなどの視察と意見交換会を実施した。

(b) 海外の博物館・大学・研究機関との国際交流
スミソニアン国立自然史博物館（米国）「Lights Out: Recovering Our Night Sky」展への協力
同館が企画する光害に関する長期企画展のうち、先住民の星座に関する知識を提供する映像へのコンテンツ提供を実施。マオリ、ギリシャのグループと並び、プレアデス星団に関するアイヌの物語、アイヌ語のナレーション、物語を表すアニメーション、ムックリの音源などを提供。（全体監修：野本正博、物語・アイヌ語監修・ムックリ演奏：矢崎春菜、アニメーション：山丸賢雄、英語・アイヌ語ナレーション：桐田晴華、ムックリ：上河彩、翻訳：谷地田未緒）。同展は2023年3月23日にオープンし、2025年末まで公開される予定。

ライデン民族学博物館（オランダ国立世界文化博物館）「アニマル・アカデミー」展への協力
同館が企画する、動物をテーマに資料を紹介する展覧会において、鶴／日本に関するセクションへ写真資料を提供。また先方のアイヌ関連コレクション（写真など）についてオンラインで助言を行った。同展は2022年6月24日から2023年10月29日まで公開された。

ミルウォーキー・パブリック・ミュージアム（米国）常設展示改修にあたっての助言協力
同館の改修に伴い、アイヌ資料の展示がリニューアルされることになったため、「ソース・コミュニティ」との連携として当館へ協力依頼を受けたもの。先方の改修前の常設展示の展示方法や、新たに展示される予定の資料などへオンライン会議による助言を行った。

オーストラリア国立アボリジナル及びトレス海峡諸島民研究所（AIATSIS）との情報交流
同館からの協力連携の打診を受け、同館とウポポイが相互に事業内容を紹介し合う内部向けプレゼンテーション交流を2023年1月18日、19日に実施（オンライン）。先方館の言語復興の取り組み、オンライン先住民教育プログラム、収蔵品への先住民によるアクセスサポート、建設予定の文化区について伺った。



オンラインでプレゼンテーションを行う野本正博部長と佐々木史郎館長

(c) 上記以外の国際交流事業

上記のほか、JICA 研修員、シェンカー大学デザイン学部長、シラキュース大学教授などの関係者が来訪した。

Ⅳ -05　資料の収集、保管、活用

Ⅳ -05-01 アイヌ文化関係資料等の受入及び貸出

1）アイヌ文化関係資料等の受入

a）資料の買取

資料買取の結果は、申出者 9 名、資料 78 件 129 点。概要や関係会議等は下記のとおり。

資料は民具全般と古文書。これからの基本展示や調査等に向けて、イクパスイ、マキリ、イタ、衣服（木綿）、衣服（樹皮）などを中心に購入した。

＜関係会議等＞

2022（令和 4）年度第 2 回国立アイヌ民族博物館鑑査会議　　2022 年 12 月 13 日

2022（令和 4）年度第 1 回国立アイヌ民族博物館買取協議会　2023 年 1 月 16 日

2022（令和 4）年度第 1 回国立アイヌ民族博物館買取評価　　2023 年 1 月 24・30 日

b）資料の寄贈

寄贈は、全体の申出数を再点検の上、次年度以降順次手続きを行うこととした。

・全体の申請数：申出者 32 名

・対応困難であるもの、本人辞退：申出者 3 名

・保留、調査中：申出者 29 名

c）資料の編入

展示備品から列品への編入は、70 件。復元した祭壇一式や現代作家の作品など。

＜関係会議等＞

2022（令和 4）年度第 1 回国立アイヌ民族博物館鑑査会議　　2022 年 5 月 12 日

2）資料の貸出

・石川県立歴史博物館、小樽市総合博物館　2 件 48 点

令和 4 年度アイヌ工芸品展 「アトゥイ―海と奏でるアイヌ文化―」

（主催：公益財団法人アイヌ民族文化財団、開催各館）

期間：2022 年 9 月 23 日～ 11 月 13 日、2022 年 12 月 3 日～ 2023 年 3 月 5 日

・国立科学博物館、大阪市立自然史博物館　2 件 2 点

特別展「毒」（主催：国立科学博物館、読売新聞社、フジテレビジョン）

期間：2022 年 11 月 1 日～ 2023 年 2 月 19 日、2023 年 3 月 18 日～ 5 月 28 日

3）資料の寄託

新規寄託の申出はなかった。

4）関係要領、収蔵品の定義、収集方針、買取基準等の制定

・2020 年に定めた収蔵品の定義をもとにアイヌ関係資料等の受入を行った。なお、第 2 回鑑査会議において「国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ文化関係資料等収集方針」と「国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ文化関係資料等買取基準」を再確認した。

・2021 年に定めた「国立アイヌ民族博物館鑑査会議、買取協議会 、買取評価員、寄贈評価員の運営等に関する要領」「国立アイヌ民族博物館文化財貸借要領」のもと、各委員会の運営および資料貸与を行った。

5）資料受入の大まかな流れ

・買取：希望申出⇒鑑査会議⇒買取協議会⇒買取評価⇒合意の上、契約へ

・寄贈：希望申出⇒鑑査会議⇒寄贈評価⇒合意の上、契約へ

・寄託：希望申出⇒鑑査会議⇒合意の上、契約へ

6）関係会議の概要

・鑑査会議：8 名で審議。収集方針の策定、文化財の買取、寄託者からの受託、寄贈者からの贈与、列品への編入又は解除、列品の修理、その他博物館において規定する事項を審議する。

・買取協議会：5 人以上で審議。鑑査会議をうけて、資料等の買取の適否について、外部有識者の公正な意見を求めるために開催。

・買取評価：7 人以上で行う。買取協議会をうけて、買取予定価格算定のため、外部有識者の意見に基づいて客観的に行う。

・寄贈評価：5 人以上で行う。寄贈資料の評価額算定のため、外部有識者の意見に基づいて客観的に行う。

2022 年度買取資料：古地図「北蝦夷地詰　倉内忠右衛門　安政六未年　廻嶋見取絵図」

Ⅳ -05-02 博物館における列品等の整理及び整備

1）2022（令和 4）年度資料クリーニング点数

・作業期間　2022 年 8 月 ～ 2022 年 12 月　実施点数　145 点

2）資料確認及び移送資料の再梱包

2021（令和 3）年度に、旧社台小学校から当館収蔵庫への移送が完了したため、資料確認及び収蔵庫にて保管するための再梱包作業を行った。

Ⅳ -05-03 収蔵品管理システムへのデータ登録、外部公開、保守管理

当館では、アイヌの歴史・文化等に関する調査と研究を行うため、展示や研究対象となる資料を収集している。当館収蔵品について、目的・用途に応じて体系的に分類・整理のうえ、データベースとして一元的に管理し、適切な保存に努める。あわせて、収蔵品情報を一般の利用に供する。一元管理用の管理システムと一般の利用に供する公開システムがある。

・収蔵品管理システム：データベースのうち、当館収蔵品及び利用等に関する履歴、教育活動の記録等の情報をデータベース化して一元管理するシステム。

・収蔵品公開システム：データベースのうち、収蔵品管理システムで管理する収蔵品等の主な情報を抽出して公開し、一般の利用に供するシステム。

1）収蔵品管理システム登録状況

旧アイヌ民族博物館の資料と 2015（平成 27）年度から 2020（令和 2）年度までの文化庁購入資料について登録作業を行った。2022 年 3 月 10 日時点での登録件数。

a）資料に関わる登録

・資料登録件数 11,958 件（そのうち借用資料 104 件）

・資料更新件数 8,204 件

・画像登録件数 7,839 件

・音声登録件数 14 件

b）その他、特別利用・辞書機能に関する登録

・展示 104 件

・貸与 3 件

・修理 40 件（6,118 点）

・教育 1 件

・和暦辞書 1 件

・アイヌ語辞書 81 件

・和名辞書 27 件

・住所録 15 件

・コレクション 27 件

・分類 85 件

・テーマ 59 件

・ログインアカウント 60 件

2）公開件数

当館公式ウェブサイトにて公開（https://archives.nam.go.jp/DB/）。アクセス数は総計 68,731（2022 年 2 月時点）。

・資料公開件数：155 件
・画像公開件数：408 件

3）保守管理

システムの定期メンテナンスを 2 回実施。2022 年 10 月 7 日、2023 年 3 月 3 日ともに異常なし。

Ⅳ -05-04 資料の熟覧・画像利用

博物館が所蔵する資料の利用に係る規定、要領、要項は以下の通り。

・国立アイヌ民族博物館列品管理規定
・国立アイヌ民族博物館資料利用要項
・国立アイヌ民族博物館職員資料利用要領
・国立アイヌ民族博物館特別観覧要領

1）列品等の特別観覧

・8 件 26 点のうち、7 件 25 点の対応を行った（職員特別観覧 50 件 1,745 点）

2）資料等の画像利用

・41 件 82 点の申請のうち 32 件 69 点の許可の対応を行った（職員画像利用 18 件 51 点）

3）特別観覧等の計画

共同研究における列品等の特別観覧申請 2 件 6 点。

4）列品等の出品調整

当館事業の基本展示・特別展示等に係る列品等の出品の調整について、職員列品陳列申請を作成し、館内周知を行い、整備した。またそれを基に収蔵品管理システムを使い、各展示にて使用した履歴やこれから使用するという情報を登録し、同時期に使用できないことに気づかせる仕組みにした。また、展示後に収蔵庫へ保管してから 365 日間は休息日とし、その期間に当てはまる列品の使用は極力控えるように促した。

Ⅳ -05-05 分析機器運用

CT など調査分析機器等を適切に運用するとともに、良好な状態で使用できるよう保守管理を行った。

1）科学分析装置の運用

当館設置の科学分析装置について運用した。運用実績（件数 / 使用数）は下記の通りである。

A）蛍光Ｘ線分析装置　：金属製資料、絵画資料等の調査（15 件 /150 回使用）
B）携帯型蛍光Ｘ線分析装置　：金属製資料、絵画資料等の調査（13 件 /145 回使用）
C）Ｘ線回折装置　：顔料及び顔料標準試料の調査（4 件 /40 回使用）
D）走査電子顕微鏡　：染色繊維試料等の拡大観察及び分析（1 件 /10 回使用）
E）Ｘ線ＣＴ装置　：収蔵品、借用品等の構造調査（21 件 /138 回使用）

F) レントゲン撮影装置　：出土金属製品等の内部観察（5 件 /96 回使用）
G) デジタルマイクロスコープ　：繊維試料、刺繍試料等の拡大観察（4 件 /40 回使用）
H) 三次元蛍光分光分析装置　：顔料試料等の彩色分析（7 件 /62 回使用）
I) ハイパースペクトルカメラ　：染色資料片、絵画資料等の彩色調査（2 件 /10 回使用）
J) キセノン型耐候試験機器　：染色資料片の劣化試験（1 件 /1 回使用）
K) 恒温恒湿機、恒温機　：調湿剤の調湿、試験等に伴う利用（2 件 /10 回使用）
L) 真空凍結乾燥機　：水損図書の乾燥処理（2 件 /4 回使用）
M) 三次元スキャナ　：大型木製品（舟）等のデータ取得（4 件 /11 回使用）
N) 三次元プリンタ　：資料整備、研究プロジェクト等での利用（11 件 /47 回使用）

2）科学分析装置の保守管理について

調査研究等で利用できるよう保守管理を実施した。下記に実施内容を記す。

a) 蛍光Ｘ線分析装置　：機器点検（1 回実施）
b) Ｘ線回折装置　：機器点検（2 回実施）
c) 走査電子顕微鏡　：機器点検（1 回実施）
d) Ｘ線ＣＴ装置　：機器点検（2 回実施、制御用ソフトウェアの保守含む）
e) 三次元蛍光分光分析装置　：機器点検（1 回実施）
f) 恒温恒湿装置、恒温装置　：機器点検（1 回実施）
g) 三次元プリンタ　：機器点検（2 回実施）

3）共同研究等に応じた、分析等計画調整

当館設置の科学分析装置を当館研究プロジェクトで利用した。使用した研究プロジェクト名及び利用実績（件数 / 使用数）を下記に記す。

a) 蛍光 X 線分析装置　:2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（15 件 /150 回使用）
b) 携帯型蛍光 X 線分析装置　:2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（13 件 /145 回使用）
c) X 線回折装置　:2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（4 件 /40 回使用）
d) 走査電子顕微鏡　:2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（1 件 /10 回使用）
e) X 線 CT 装置　: 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（4 件 /32 回使用）
f) デジタルマイクロスコープ　:2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（4 件 /40 回使用）
g) 三次元蛍光分光分析装置　:2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（7 件 /62 回使用）
h) ハイパースペクトルカメラ　:2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（2 件 /10 回使用）
i) 三次元スキャナ　: 2021A07 チャシの形成に関する考古学的研究（3 件 /10 回使用）
j) 三次元プリンタ　:2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（4 件 /12 回使用）

4）岩手県における文化財への不適切事案調査の対応

岩手県立博物館より依頼の「文化財への不適切事案調査」について、2023 年 1 月 17 日～ 1 月 21 日（5 日間）にレントゲン撮影装置にて内部構造調査を実施した。調査資料数は 96 点である。

5）苫小牧市教育委員会より寄託の勇払弁天海岸出土丸木舟について

苫小牧市教育委員会より寄託を受けた勇払弁天海岸出土丸木舟について、協定に基づき関連調査及び保存修復計画の検討を実施した。関連調査として、苫小牧市美術博物館所蔵の板綴舟の三次元計測を実

施した（2023年2月20日、2023年2月27日に実施、計5点）。

Ⅳ -05-06 資料収蔵環境整備（IPM、燻蒸を含む）

博物館における文化財資料の収蔵環境整備（IPM、燻蒸を含む）に関する計画を作成し、適宜実施した。

1）収蔵庫内の空気汚染物質濃度について

収蔵庫内の空気汚染物質濃度の測定を実施した。有機酸濃度、アンモニア濃度共に東京文化財研究所の指針値以下の値を確認し、問題ない状態を確認した（収蔵庫：3地点測定）。

2）収蔵庫内の温湿度制御について

空調制御による一般収蔵庫、特別収蔵庫内の温湿度制御を実施した。空調負荷を減らすため昨年の設定値を見直し、温度22℃（± 2℃）、相対湿度55%（± 4%）での制御とした。安定した推移を確認し庫内環境が維持できるよう対応した（測定箇所：17箇所、温湿度データ回収：12回実施）。

3）展示室及び展示ケース内の温湿度制御

空調制御による基本展示室、特別展示室の温湿度測定を実施した。温度22℃（± 2℃）、相対湿度55%（± 4%）を目標値に制御し、安定した推移が維持できるよう対応した（測定箇所：77箇所、温湿度データ回収：12回実施）。安定した推移での制御を達成したが、昨年と同様に夏季（7 ～ 8月）と冬季（12 ～ 2月）は、基本展示室、特別展示室共に、外気の影響による相対湿度の乱れが確認された。空調制御値等の調整（設定温度や露点温度の調整　計15回程実施）し、各室内の温湿度制御を施して問題のない値へ是正した。また、展示ケース内設置の調湿剤について交換作業を実施した。交換数は約300点である。

4）展示ケース内の空気汚染物質濃度の低減

基本展示室、特別展示室の展示ケース内の空気汚染物質濃度の調査、ガス吸着剤の設置を実施した。有機酸濃度、アンモニア濃度共に東京文化財研究所の指針値以下の値を確認し、問題ない状態の維持を確認した（計測地点：21地点測定）。なお、展示内容によっては資料や支持具類からのガスの放散が予見される場合がある。こうした懸念が発生した際にはガス吸着剤の設置交換を行い、資料の安全な展示ができるよう対応した（作業：20回実施）。

5）害虫トラップの設置による虫害の監視

館内各所に害虫トラップを設置し1ヶ月毎に回収して捕獲された害虫を調査した。昨年度に続き、館内の害虫の侵入は少ない状態を維持できた（設置箇所：105箇所）。

6）列品や借用品等の生物処理について

列品や借用品等について、必要に応じて下記の生物処理を実施し対応した。

・薬剤燻蒸（酸化エチレン・フルオロカーボン製剤による殺虫及び殺菌処理）
　1回目：実施日 /2022年8月　処理点数 / 約50点（紙資料、木製民具）
・凍結処理（-20℃環境下での殺虫処置）
　1回目：実施日 /2023年2月　処理点数 /20点（テーマ展出品資料、図書類）
　2回目：実施日 /2023年2月　処理点数 /30点（テーマ展出品資料、図書類）

3 回目：実施日 /2023 年 2 月　処理点数 /20 点（テーマ展出品資料、図書類）

・二酸化炭素殺虫処理（二酸化炭素充満下での殺虫処理）

1 回目：実施日 /2022 年 8 月　処理点数 /1 点（大型革製品）

・殺虫剤による殺虫処理（ピレスロイド系薬剤による殺虫処理）

1 回目：実施日 /2023 年 2 月　処理点数 /2 点（大型木製品）

7）特別展示に関する重要文化財の借用に伴う環境整備

第 5 回特別展示「イコロ　ウエカリレ ― アイヌ資料をコレクションする ― 」では、国指定品（重要文化財、重要有形民族文化財）の借用が計画された。当館は文化財保護法第 53 条の該当館には当たらないが、同等条件を満たす必要があり、国指定品が展示可能なレベルでの継続した環境整備を施した。また、文化財活用センターへ環境整備報告書を送付し、展示に問題はない評価を受けた。特別展示での国指定品の借用・返却を含め、全ての対応を問題なく終えた。

8）当館収蔵庫における IPM メンテナンスの実施

当館収蔵庫内の IPM メンテナンスを実施し、収蔵庫内の清浄度の向上を図った（実施日　2023 年 3 月 7 日～ 3 月 9 日）。一般収蔵庫、特別収蔵庫、前室の 3 箇所を施し、微細な塵埃や細部の汚れ等の除去を行った。回収された汚れの解析を行い、前年度の解析結果と比較し評価した。

Ⅳ -05-07 博物館ライブラリの運営

・ライブラリへの入室人数制限を撤廃するとともに、新型コロナウイルス感染症対策に関する利用案内文の一部を撤去。三密対策のため撤去していた大型ソファ 1 台や椅子 7 脚、丸テーブル 1 台の什器をライブラリ（開架）へ戻し、運用を休止していた視聴覚資料用の DVD・CD プレイヤーを利用可能として開室した。

・図書の閲覧（19,349 人、うち子どもは 2,402 名）、複写（77 件）、レファレンス（101 件）に対応した。

・特別展示等とタイアップしてライブラリ内において小展示を 8 回実施した。

また、上記 8 回のうちの一つである「本でめぐるアイヌ文化 2023」の関連イベントとして、ライブラリの一角を会場として提供し、本に関するトークイベントが全 4 回行われた。

・ライブラリ利用案内の多言語化として、英語での案内文について検討し、英語版の窓口対応用簡単指さしボードを作成した。

・職場体験学習の一環として 2 名の生徒を受け入れた。

・図書館システムへの図書の登録作業を約 5,000 冊分行った（登録数総計約 28,000 冊）。

・図書館間相互利用（ILL）文献複写等料金相殺サービスに加入し、サービスが利用可能となった。

・旧社台小学校にて保管していた図書について、2022 年 9 月に燻蒸を行い、12 月末までに全ての図書資料の移送を完了した（詳細は IV-05-02 を参照）。

Ⅳ -06　教育普及

Ⅳ -06-01 博物館における教育事業の企画立案及び実施

1）遠隔授業

遠隔授業への協力として、下記の対応を行った。

・幌延町立幌延中学校3年（昨年度からの継続）：2022年8月23日、Zoomにて授業実施。修学旅行前の事前学習として、施設説明、アイヌの歴史・文化の解説等を行った。

・常盤木学園高等学校国際教養コース1年生と教員：2023年1月13日実施のオンラインスタディツアー。当館と当公園合同でZoomにて実施。ウポポイ園内と文化解説プログラム紹介後、特別講義的にアイヌ語・アイヌ文化・歴史等の説明等を当館で行った。

2）出前授業

出前授業は、新型コロナウイルス感染症流行により、依頼がなく、当館からの働きかけも自粛したため、実施しなかった。

3）ホリデーイベント

ホリデーイベントについては、新型コロナウイルス感染予防対策を行いつつ、特別展示・テーマ展示に関連するイベントを中心に、通算47回実施した（工作型4件、講演型16件、対話型4件、ガイド型23件、延べ参加者数1783名）。

昨年度に引き続き、記録及びプログラムの評価・検証のためアンケートを各回で実施した。今年度新たな取り組みとして、ArCS II 沿岸環境課題・北海道立北方民族博物館との共催で、2日間に渡る体験型イベント「動物の毛皮に触ってみよう！」を実施した。

	開催日	イベントタイトル	外部講師・協力等（所属は開催時のもの）	計参加人数／名（内部スタッフ含む）	備考
2022年	4月16日（土）	第2回テーマ展示　きいてみよう！「白老の衣服文化」		9	
	4月30日（土）	第2回テーマ展示　きいてみよう！「白老の衣服文化」		20	
	5月4日（水祝）	第2回テーマ展示　講演会：「白老の衣服文化」	岡田 路明 氏（元・苫小牧駒澤大学国際文化学部教授）	39	
	5月7日（土）	第2回テーマ展示　きいてみよう！「白老の衣服文化」		35	
	5月21日（土）	ユ オルシペ　～温泉のお話～		27	
	5月28日（土）	「動物の毛皮に触ってみよう！－アイヌ民族と北方民族の毛皮利用を知る・触る－」（展示）	主催：ArCS II 沿岸環境課題、北海道立北方民族博物館、当館	259	
	5月28日（土）	国立アイヌ民族博物館　館長のお話を聞こう！「クロテンの毛皮にまつわるお話」		27	
	5月28日（土）	毛皮にまつわるミニトーク「色んな地域の毛皮を知ろう！」『シベリアとカナダの毛皮のお話』	大石 侑香 氏（神戸大学准教授）、山口 未花子 氏（北海道大学教授）	34	
	5月29日（日）	「動物の毛皮に触ってみよう！－アイヌ民族と北方民族の毛皮利用を知る・触る－」（展示）	主催：ArCS II 沿岸環境課題、北海道立北方民族博物館、当館	407	
	5月29日（日）	国立アイヌ民族博物館　館長のお話を聞こう！「クロテンの毛皮にまつわるお話」		32	

5 月 29 日（日）	皮にまつわるミニトーク「色んな地域の毛皮を知ろう！」『シベリアとグリーンランドの毛皮のお話』	中田 篤 氏（北海道立北方民族博物館主任学芸員）、日下 稜 氏（北海道大学学術研究員）	44	
6 月 4 日（土）	展示を見る前のアイヌ博ガイド「イコㅁ トゥンプをまわろう！」		11	
6 月 18 日（土）	展示体験「テンパテンパしてみよう！」		34	
6 月 25 日（土）	第 4 回特別展示　当館職員によるギャラリートーク「知里真志保の調査と研究について」		38	
7 月 2 日（土）	第 4 回特別展示　当館職員によるギャラリートーク「知里真志保のことばの分析」		32	
7 月 16 日（土）	第 4 回特別展示　講演会「知里真志保と久保寺逸彦 ― アイヌ（の）文学 ―」	中川 裕 氏（千葉大学名誉教授）	45	
7 月 17 日（日）	第 4 回特別展示　講演会「言語学からみた知里真志保の業績 ― アイヌ語の「動詞価」をめぐって ―」	佐藤 知己 氏（北海道大学教授）	40	
7 月 18 日（月）	第 4 回特別展示　講演会「知里真志保の生涯 ― まわりの人々・登別での地名調査 ―」	小坂 博宣 氏（登別アイヌ協会顧問）	46	
7 月 23 日（土）	第 4 回特別展示 「植物と暮らし紹介～コタンの樹木案内」第 4 回特別展示知里真志保展拡大版		15	
7 月 24 日（日）	第 4 回特別展示 「植物と暮らし紹介～コタンの樹木案内」第 4 回特別展示知里真志保展拡大版		8	
7 月 30 日（土）	第 4 回特別展示　講演会「知里真志保が考えたこと ― 高校時代の日記からアイヌ文化史へ ―」		24	
8 月 11 日（木）	第 4 回特別展示　講演会「知里真志保の調査・研究の足跡」		43	
8 月 13 日（土）	第 4 回特別展示　夏休みの子ども向けイベント「言語学者になってみよう」		28	
8 月 14 日（日）	第 4 回特別展示　夏休みの子ども向けイベント「言語学者になってみよう」		22	
8 月 20 日（土）	第 4 回特別展示　当館職員によるギャラリートーク「知里真志保を描くウタリ」		29	
9 月 3 日（土）	NAM・アイヌ文化クイズ！		18	
9 月 17 日（土）	第 5 回特別展示　開会記念講演会「日本最初の文部省博覧会とそのコレクターたち」	佐々木 利和 氏（北海道大学 アイヌ・先住民研究センター招へい教員）	47	
9 月 23 日（金祝）	第 5 回特別展示「イコㅁ　ウエカリレ ― アイヌ資料をコレクションする ― 」ギャラリートーク［1］		19	
10 月 1 日（土）	第 5 回特別展示　講演会「海外アイヌ・コレクションから見えること」	山崎 幸治 氏（北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授）	27	
10 月 8 日（土）	第 5 回特別展示「イコㅁ　ウエカリレ ― アイヌ資料をコレクションする ― 」ギャラリートーク［2］		20	
10 月 15 日（土）	第 5 回特別展示関連イベント「バックヤードツアー」		9	
10 月 23 日（日）	第 5 回特別展示「イコㅁ　ウエカリレ ― アイヌ資料をコレクションする ― 」ギャラリートーク［3］		18	
11 月 3 日（木祝）	第 5 回特別展示「イコㅁ　ウエカリレ ― アイヌ資料をコレクションする ― 」ギャラリートーク［4］（午前）		14	
11 月 3 日（木祝）	第 5 回特別展示「イコㅁ　ウエカリレ ― アイヌ資料をコレクションする ― 」ギャラリートーク［4］（午後）		17	

	11月5日（土）	第5回特別展示　シンポジウム「アイヌ資料をコレクションすることを考える」	佐々木 利和 氏（北海道大学 アイヌ・先住民研究センター招へい教員） 萱野 志朗 氏（萱野茂二風谷アイヌ資料館館長） 谷本 晃久 氏（北海道大学大学院文学研究院教授） 加藤 克 氏（北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター助教） 山崎 幸治 氏（北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授）	11	運営：国立アイヌ民族博物館　研究交流室
	11月12日（土）	第5回特別展示関連イベント「バックヤードツアー」		7	
	11月19日（土）	第5回特別展示「イコㇿ　ウエカリレ ― アイヌ資料をコレクションする ―」ギャラリートーク［5］		11	
	12月18日（日）	第3回テーマ展示　オープニングイベント「ギャラリートークと、みんなでウポポ」		70	
	12月24日（土）	第3回テーマ展示　ギャラリートーク「サパネクㇽとめぐる「ウアイヌコㇿ コタン アカㇾ」展」		25	
2023年	1月15日（日）	第3回テーマ展示　トークイベント「国立アイヌ民族博物館の建物ができるまで」		25	
	1月28日（土）	第3回テーマ展示　ワークショップ「博物館のアイヌ語表示を探してみよう！」		9	
	2月5日（日）	第3回テーマ展示　ワークショップ「博物館のアイヌ語表示を探してみよう！」		9	
	2月11日（土）	第3回テーマ展示　ギャラリートーク「博物館設立準備室の試み」		12	
	2月18日（土）	「本でめぐるアイヌ文化2023」ミニトークイベントVol.1		19	
	2月25日（土）	「本でめぐるアイヌ文化2023」ミニトークイベントVol.2		18	
	3月4日（土）	「本でめぐるアイヌ文化2023」ミニトークイベントVol.3		15	
	3月11日（土）	「本でめぐるアイヌ文化2023」ミニトークイベントVol.4		15	
				1783	

ホリデーイベント「きいてみよう！『白老の衣服文化』」（4 月 16 日開催）

ホリデーイベント「ユ オルシペ　～温泉のお話～」（5 月 21 日開催）

ホリデーイベント「夏休みの子ども向けイベント『言語学者になってみよう』」（8 月 13 日開催）

ホリデーイベント「NAM・アイヌ文化クイズ！」（9 月 3 日開催）

ホリデーイベント「本でめぐるアイヌ文化 2023」ミニトークイベント Vol.2（2 月 25 日開催）

4）ギャラリートーク

ギャラリートークは、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら探究展示（「かわりにテンパテンパ」）と「ことば」展示（「Touch itak」）を展示室内で実施し、通算 2,657 組 5,613 名の来館者に対応した。

また、新型コロナウイルス感染症の状況と日博協のガイドラインの状況に応じて、「探究展示テンパテンパ」の限定試行運用をエデュケーターを中心に実施し、通算 1,371 組 2,756 名の来館者の展示体験に対応した。

ギャラリートーク「かわりにテンパテンパ」

ギャラリートーク「かわりにテンパテンパ」

ギャラリートーク「Touch itak」

ギャラリートーク「Touch itak」

5）館外での教育普及事業の実施

2022 年 8 月 3 日と 4 日、文科省旧庁舎 6 階第二講堂にて「こども霞が関見学デー」に参加した。ルサ製作体験やぬりえワークシートなどを実施し、アイヌ文化の発信と当館の PR を行った。

6）社会人向け研修の実施

来館した 14 団体（社会人、大学、教育委員会及び教職員組合、その他）373 名に対して、アイヌ民族の歴史・文化や博物館の概要などについての研修を実施した。

7）教材教具等の開発

ホリデーイベントや教育活動など、展示室以外で使える教材教具（アイヌの民具）の検討を行った。その結果、各地域のアイヌ民具を学べるよう、今年度は阿寒湖温泉の作り手に 19 点の民具の製作依頼を行い納品された。

基本展示室内の各テーマに合わせたワークシート開発については、小学校中学年以上を対象としたものを計画し、内容について各専門グループの協力のもと完成した。運用は次年度の 4 月からとし、基本展示室前のパノラミックロビーにて配架した。

Ⅳ -06-02 アイヌの文化伝承に資する研修の企画立案及び実施

当館と協定を結んでいる（公社）北海道アイヌ協会のアイヌ工芸者技術研修事業については、新型コロナウイルス感染症などの理由もあり応募者がいないため中止となった。

当館主催のアイヌの人たちに対する研修については、2023 年 4 月からの実施にむけ、「展示資料（アイヌ衣服）複製事業」の参加者（定員 2 名）の募集と決定を行った。

Ⅳ -06-03 学芸員を目指す学生に対する博物館実習の検討

新型コロナウイルス感染防止対策により、学芸員実習生を受け入れる体制が整わず、実施しなかった。

Ⅳ -06-04 教育旅行等で来館する学校に対する教育プログラム

主に教育旅行で来館する小学校から高等学校までを対象とした学習プログラム「はじめてのアイヌ博」及び小学 3、4 年生向けの平易なクイズ形式の学習プログラムを開発し、今年度は 168 校、172 回、11,784 名の児童生徒及び引率者に対して実施した。実施にあたっては、各校における学習状況を事前に調査するとともに、担当教員と打合せを行い、その学校に合ったプログラムになるよう工夫した。また、事前の打合せを行いながらも、新型コロナウイルス感染拡大による旅行延期や、滞在時間の調整からキャンセルになった学校が合計 45 校あった。内訳は以下の通り。

校種	小学校	69	40%
	中学校	49	29%
	中学校（特別支援学級）	0	0%
	高等学校	46	27%
	特別支援学級	0	0%
	特別支援学校（中学部）	1	1%
	特別支援学校（高等部）	2	1%
	その他	5	2%
	合計	172	

学年	小学校	1	0	0%
		2	0	0%
		3	2	1%
		4	24	14%
		5	2	1%
		6	41	25%
	中学校	1	14	8%
		2	13	8%
		3	21	13%
	高等学校	1	8	5%
		2	22	13%
		3	17	10%
	特別支援学級	1	0	0%
		2	0	0%
		3	0	0%
		4	0	0%
		5	0	0%
		6	0	0%
	特別支援学校（中学部）	1	0	0%
		2	0	0%
		3	1	1%
	特別支援学校（高等部）	1	0	0%
		2	0	0%
		3	2	1%

地域	オホーツク	4	2%
	札幌	28	16%
	空知	11	6%
	釧路	3	2%
	後志	4	2%
	根室	0	0%
	宗谷	1	1%
	十勝	2	1%
	上川	10	6%
	石狩	6	3%
	胆振	48	28%
	渡島	5	3%
	日高	3	2%
	留萌	0	0%
	檜山	2	2%
	道外	45	26%
	合計	172	

プログラム	はじめてのアイヌ博	150	87%
	はじめてのアイヌ博（クイズ）	21	12%
	遠隔授業	1	1%
	教材開発協力	0	0%
	連携学習	0	0%
	合計	172	

人数	児童生徒	10,800	92%
	引率	984	8%
	合計	11,784	

教科等	社会科	9	5%
	地理	0	0%
	歴史	0	0%
	公民	0	0%
	道徳	0	0%
	総合的な学習	71	42%
	特別活動	85	51%
	その他の教科	3	2%
	教科がわかるケース	*168*	*98%*
	教科がわからないケース	*4*	*2%*
	実施件数	172	

時間	滞在時間の平均	188 分	3:08h
	見学時間の平均	58 分	0:58h

Ⅳ -06-05 学校教育と連携した取り組みの企画立案

・アイヌ民族の歴史や文化に対する理解を深める教員向けの研修会として、「教員のための博物館の日 at 国立アイヌ民族博物館」を 8 月 1 日（月）に開催した。受講対象は、研修内容や新型コロナウイルス感染対策を考慮し、現地参加は北海道胆振・日高管内小・中・高等学校教員、リモート参加は北海道内外小・中・高等学校教員とした。現地参加 18 名、リモート参加 9 名、計 27 名の教員が参加した。次年度も継続して実施し、アイヌ民族の歴史や文化に対する教員の理解や指導力の向上を図る。

・学校授業用の動画教材開発 「アイヌ民族に関する指導教材」

【小学校社会科及び中学校社会科（歴史）用】

昨年度、北海道教育委員会等と協力し、教科書に沿って授業を進めるにあたり、アイヌの歴史や文化への理解がより深まるよう授業で使用できる動画教材と指導案を作成した。今年度、その成果を 8 月 1 日開催の教員向け研修「教員のための博物館の日 at 国立アイヌ民族博物館」において、参加教員等に公開した。

あわせて、学校現場の協力のもと実際に動画を活用した研究授業を実施し、より効果的な活用方法等を検討した。動画教材の活用を促すため、活用ガイドと授業事例を新たに作成した。動画教材、活用ガイド、授業事例について、教員等に配信できる「アイヌ民族に関する指導教材」web サイト（https://kyozai.nam.go.jp/）を制作した。

動画教材開発にあたり、登別市立富岸小学校（2022 年 10 月 20 日）、登別市立西陵中学校（2022 年 11 月 29 日）にて研究授業実施を行った。

【高等学校用】

北海道教育委員会及び道立高等学校の校長、教員で構成する制作委員会を設置し、高等学校地理歴史・公民等の授業で使用できる動画教材の制作を行った。アイヌに関する学習効果がより高まるよう、動画教材のシナリオや効果的な活用方法等を検討した。高校用の動画教材シナリオに関しては、昨年度制作の中学校用教材を活かすこととした。また、制作委員会からの提案を受け、アイヌに関する学習効果と授業での使いやすさを考え、動画教材内各章の末尾に「問い」を挿入する方針とした。

動画教材、活用ガイド、授業に係る学習指導案とワークシートについて、教員等に配信できる「アイヌ民族に関する指導教材」web サイト（https://kyozai.nam.go.jp/）を制作した。

・白老町立白老中学校の生徒 2 名に対して、職場体験学習（10 月 18 日）の対応を行った。

国や教育委員会が行う教員や公務員を対象としたアイヌの歴史・文化に関する研修への協力

・北海道教育大学釧路校同窓会（鶴陵会）石狩支部の会員研修会において、アイヌ語・アイヌ文化等についての講演を 12 月 4 日に行った。

・白老東高等学校における「北海道 CLASS プロジェクト推進事業」に係るコンソーシアム会議に 12 月 22 日参加した。

・北海道釧路湖陵高等学校における「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」（文部科学省より指定）に係るコンソーシアム「チーム湖陵」のメンバー（サポーター）に登録。2023 年 3 月 22 日のオンライン会議に出席。

・教育委員会（1 団体 22 名）の来館に伴い、アイヌ民族の歴史や文化に関する研修対応を行った。

Ⅳ -07　一般運営業務

Ⅳ -07-01 利用サービス

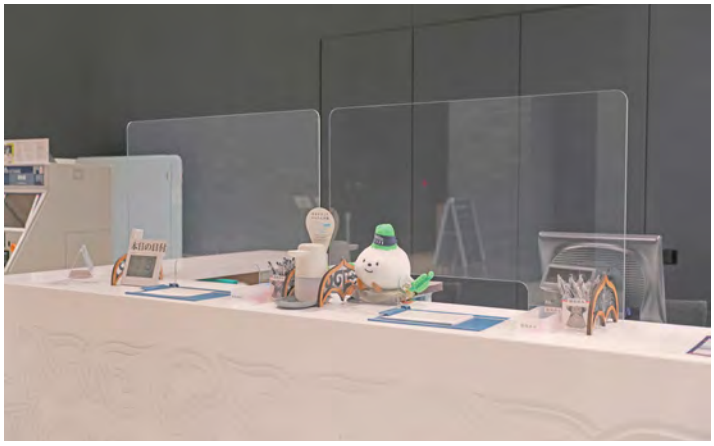
1）新型コロナウイルス対策全般

感染症予防の対策として、主に次の取り組みを実施した。

密にならないよう、博物館入館数の上限を基本的対処方針の変更に伴い、徐々に緩和した。

（公財）日本博物館協会の「博物館における新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン」の改定に準じて、展示室における 1 時間当たりの収容人数を Web 予約システムを用いて密が発生しない程度の間隔を確保する為の入場制限を行った。

なお、2022 年 9 月 24 日（土）から、コロナ対策としての博物館入館数の制限は廃止した。



飛沫防止パネル

2）整理券による入館者制限

混雑時の入場規制および待機者の整理

展示室における 1 時間当たりの収容人数を制限するべく、Web 予約システムを駆使して入場制限を行った。また、展示室、シアター内、ライブラリ内において、混雑していて来館者が快適に観覧できない状況の場合は、一時的に来館者への入場規制を実施し、安全確保に努めた。

3）消毒薬の設置

当館内では 7 箇所に設置し、徹底的な消毒を促した。

当館職員の取り組みとして、北海道知事の要請に順じて、マスク着用の徹底、検温及びアルコール消毒等を実施した。

アルコール消毒スタンドの設置

4）観覧者の利便性向上のための対策

a）館内での利用案内

来館者が快適に博物館を利用できるように、館内では1階、2階と案内スタッフをポジションごとに配置し、展示室への案内、障がい者、高齢者等の利用サポート、外国人への多言語案内等、常に来館者のニーズに合った対応ができるように努めた。

b）受付

来館者の要望に応えられるように、各施設でプログラムの案内、チラシやパンフレットの配布、また来訪者への連絡対応、外国人来館者への多言語対応等の各種サービスの提供を行った。

c）電話応対

博物館に関する電話問合せの対応を行った。また、2023年3月1日より当財団白老事務所のコールセンター運営業務の委託を行った。

d）館内放送

来館者からの要望で、迷子等の捜索や拾得物の問合せがあった場合は、無線機等でスタッフ間での情報共有を行い対応した。

定期的に新型コロナウイルス感染拡大防止の対策について放送し、来館者に注意喚起を行った。

e）障がい者・高齢者等の利用サポート

車椅子、杖の利用者、またご高齢の来館者については、積極的に声掛けを行い、要望への対応、各展示室への案内等、ニーズに合ったサポートを行った。

また、視覚障がい者を含めた来館者の利用をサポートするため、点字を表示した触知案内板を3台設置した。

f）ガイドアプリの利用案内

公式ウェブサイトにダウンロード方法等について掲載し利用案内を行った。

g）音声ガイド機・シアター多言語ガイドの貸出及びガイドアプリの利用案内

音声ガイド機は新型コロナウイルス拡大防止のための貸出は見合わせたが、シアター多言語ガイドは9月27日より貸出を実施した。ガイドアプリはウポポイ及び当館ホームページや看板、声掛けにより利用案内を実施した。

h）多言語対応数

最大8言語（アイヌ語、日本語、英語、中国語簡体字、中国語繁体字、韓国語、ロシア語、タイ語）。このうちメインとなる言語はアイヌ語、日本語、英語、中国語簡体字、韓国語の5言語。

i）来館者等からの苦情・要望等への対応

当館に関する質問等については、展示室対応をはじめ、メール、電話、FAX等にて広く受け付けた。大きなトラブルはなかったが、苦情、要望があった場合は、来館者の心情に寄り添い、誠心誠意お詫びし、要望等すぐに改善できる内容については迅速な対応に努めた。

j）施設利用アンケートによる来館者の満足度やニーズの把握

ウポポイ来場者アンケートの内容をエクセルデータで蓄積し、随時当館職員へ共有することで、来館者への対応の向上に努めた。

k）日常点検

新型コロナウイルス拡大防止のために必要な処置として、来館者へ手指消毒、マスク着用の徹底、日常点検では、車椅子、ベビーカー、座席等利用した箇所への消毒作業を行った。

研究員、学芸員、アソシエイトフェロー、エデュケーター全29名が、チェックシートの項目に沿って、交代で基本展示室及び特別展示室の点検、確認を行った。

また、年 4 回に分けて基本展示室と特別展示室の展示ケースについて定期点検を実施した。
このように周期を定めた点検作業を実施することで異常の兆候をできる限り早く見つけ、すぐに適切な処置をすることにより、突発的な故障、不具合などによる業務への支障を未然に防いだ。

Ⅳ -07-02 広報企画

1）特別展示・テーマ展示のポスター・チラシの作成と配布及びメディア取材関係

a）第 4 回特別展示（知里真志保）

・第 4 回特別展示ポスター

・広報物製作部数・配付先

チラシ　　60,000 部

全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計 3,685 件

パンフレット　20,000 部

全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計 680 件

・内覧会の取材

メディア数　8 社

ＮＨＫ札幌放送局放送部、白老町広報編集室、苫小牧民報社、北海道新聞社苫小牧報道部、毎日新聞、室蘭民報社白老・苫小牧支社、読売新聞苫小牧支局、読売新聞北海道支社

b）第 5 回特別展示（イコロ　ウエカリレ）

・第 5 回特別展示ポスター

・広報物製作部数・配付先

チラシ　　60,000 部

全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計 3,686 件

パンフレット　10,000 部

全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計 712 件

・内覧会の取材

メディア数　6 社

白老町広報編集室、苫小牧民報社白老支局、日本経済新聞社、北海道新聞社苫小牧報道部、室蘭民報社、読売新聞苫小牧支局

c）第 3 回テーマ展示（ウアイヌコロ　コタン　アカラ）

・第 3 回テーマ展示ポスター

・広報物製作部数・配付先

チラシ　60,000 部

全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計 3,618 件

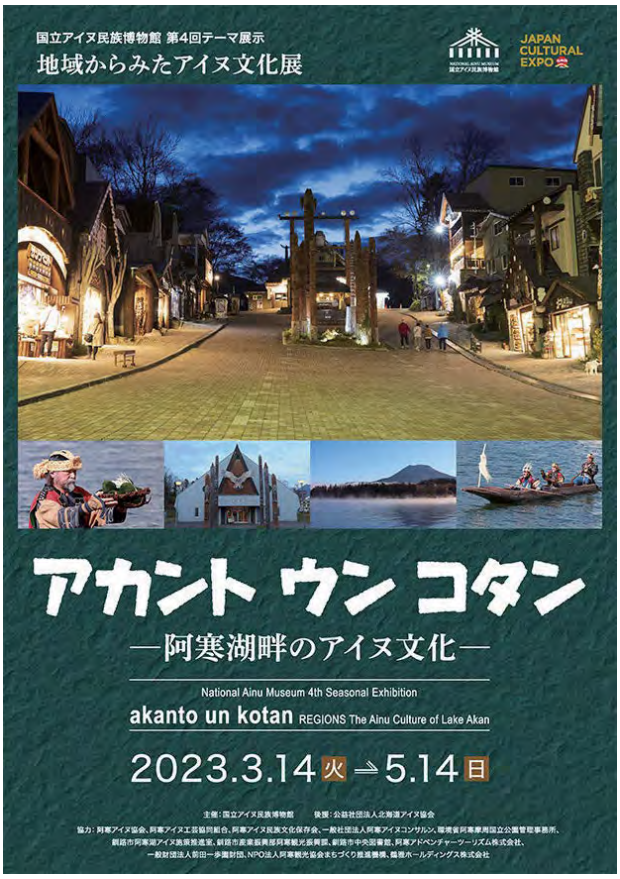
・内覧会の取材

メディア数　5 社

白老町広報編集室、北海道新聞社苫小牧報道部、毎日新聞、室蘭民報社白老・苫小牧支社、読売新聞苫小牧支局

d) 第４回テーマ展示（アカント　ウン　コタン）

・第４回テーマ展示ポスター



・広報物製作部数・配付先

チラシ　　60,000 部

全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計 3,660 件

パンフレット　10,000 部

全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計 1,514 件

・内覧会の取材

メディア数　５社

ＮＨＫ室蘭放送局、白老町広報編集室、苫小牧民報社白老支局、北海道新聞社苫小牧報道部、読売新聞苫小牧支局

2）博物館を含むウポポイの情報発信及び各種広報

a）ホームページの管理・更新

当館ホームページ（https://nam.go.jp/）では、常に最新の情報を閲覧者に提供できるよう、展示情報、お知らせイベント等の博物館情報について更新を行うとともに、ホームページに異常が発生しないよう管理を行った。

b）SNS

2 つの SNS を運用し、各種広報を行った。

Facebook：https://www.facebook.com/upopoy/

Instagram：https://www.instagram.com/ainumuseumpark/

c）園内マップ・パンフレット

来園者に各施設やプログラムについて情報を提供するため、園内マップ及びプログラムのパンフレットを製作し配布した。プログラムに変更があった場合は随時内容の修正を行ったほか、臨時の変更があった場合や、特別イベントの実施時には、ウポポイウェブサイト及び園内のデジタルサイネージへの掲載や、ポスター等を設置することで、常に最新の情報を来園者へ提供した。

d）そのほかの広報

施設やプログラム等の営業情報、イベント等の企画情報等を各種報道機関、雑誌や Web 等に発信した。また、取材対応し、施設の認知、利用促進への広報活動を図った。

3）ロゴマーク並びに PR キャラクターを利用した広報活動

公共団体や報道メディアほか、一般事業者や団体などからのロゴマーク並びに PR キャラクター「トゥレッポん」の利用依頼について対応を行った。

利用の周知のために公式ウェブサイトに専用ページを作成し、専用のアドレスにて利用申請を受付し管理運営を図った。

https://ainu-upopoy.jp/download

4）教育旅行誘致に関する事業

「北海道教育旅行説明会・相談会」

＜福岡・広島・宮城・埼玉・東京・静岡・大阪・岡山・香川＞の参加

新型コロナウイルスの影響が緩和となり、北海道観光振興機構主催の教育旅行誘致の事業が感染影響前の開催回数となり、各エリアの教育旅行事業者、学校の関係者に向け博物館を含むウポポイ PR 説明、体験プログラムなどについて個別説明を行った。（当財団事業開催あり）

福岡　2022 年 06 月 24 日（金）：天神チクモクビル

広島　2022 年 08 月 02 日（火）：広島県立総合体育館

宮城　2022 年 08 月 04 日（木）：TKP ガーデンシティ仙台

埼玉　2022 年 08 月 05 日（金）：TKP ガーデンシティ PREMIUM 大宮

静岡　2022 年 10 月 21 日（金）：レイアップ御幸町

香川　2022 年 11 月 18 日（金）：丸亀町レッツホール

大阪　2022 年 12 月 06 日（火）：AP 大阪茶屋町

東京　2022 年 12 月 07 日（水）：AP 品川

広島　2022 年 12 月 09 日（金）：広島国際会議場

岡山　2023 年 02 月 24 日（金）：岡山シンフォニーホール ※当財団事業

5）地方自治体等が行うウポポイ PR 活動等との連携

白老町の実施事業「北海道・白老町×ウポポイフェア」に参加した。同事業において、白老町、（一社）白老観光協会、（一社）白老アイヌ協会と連携してウポポイ PR 活動を行った。

仙台　2022 年 10 月 15 日～ 16 日：藤崎百貨店（仙台市青葉区一番町）

Ⅳ -07-03 事業予算

当館は文化庁直営だが、その運営は公益財団法人アイヌ民族文化財団に委託されている。その事業費は文化庁から財団に送られる委託費と入場料やテナント料などの事業収入とでまかなわれる。

収入		支出	
内　訳	予算額（千円）	費　目	予算額（千円）
入場料・テナント料等	436,181	設備備品費	100,440
委託費	1,374,741	人件費	389,056
		事業費	674,797
		再委託費	482,000
		一般管理費	164,629
計	1,810,922	計	1,810,922

本誌は当館公式ウェブサイト上で電子版を公開しています。
This annual report is available online on our museum website below.
https://nam.go.jp/

国立アイヌ民族博物館
年報　2022（令和 4）年度
National Ainu Museum Annual Report 2022

発行日　2024 年 10 月 18 日
編集・発行　国立アイヌ民族博物館
北海道白老町若草町 2 丁目 3 番 1 号
https://nam.go.jp/

Edited and Published by National Ainu Museum
2-3-1, Wakakusa cho, Shiraoi, Hokkaido, JAPAN
https://nam.go.jp/
Not for Sale

ISSN 2758-5131
非売品
© 2024 国立アイヌ民族博物館

an=ukokor aynu ikor oma kenru

National Ainu Museum Annual Report

2022

NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間